

JUDI 都市環境デザイン会議 モニターメッセ 2014

公共空間のトータルデザインを目指して



JAPAN URBAN DESIGN INSTITUTE

2014年10月18日(土)

日本大学 お茶の水キャンパス 理工学部1号館

目次

都市環境デザインモニターメッセ2014

モニターメッセ2014

- プレゼンテーション…………… 3
- ポスターセッション…………… 35

第2回 JUDIパブリックデザイン賞

- 開催趣旨・選考結果…………… 42
- 受賞作品…………… 47

シンポジウム

- 「公共空間のトータルデザインを目指して」…………… 59

追悼企画

- 横川昇二さんを偲ぶ…………… 79

- 企業広告…………… 83

モニターメッセ 2014

『公共空間のトータルデザインを目指して』

挨拶 須田 武憲/GK設計（事業委員会委員長）
司会進行 茂手木 功/片平エンジニアリング

プレゼンテーション

- ヨシモトボール株式会社 『避難誘導システム』
発表者：永田 大樹/都市プロジェクト部
コメンテーター：井上 洋司/背景計画研究所
尾辻 信宣/G計画デザイン研究所
- 株式会社住日軽エンジニアリング 『アルミ合金製拡幅床版』
発表者：小泉 泰亮/設計技術部
コメンテーター：松山 茂/都市空間研究所
斉藤 浩治/Mind-J
- 株式会社復元屋 『〈未来への継承〉歴史的建築物のタイル復元技術からリニューアル工用タイルまで』
発表者：赤井 祐仁
コメンテーター：八木 健一/八木造景研究室
杉山 朗子/日本カラーデザイン研究所
- 大成ロテック株式会社 『インジェクト工法による車道石張り舗装の施工例』
発表者：捧 加奈美/本社営業部
コメンテーター：高見 公雄/法政大学デザイン工学部都市環境デザイン工学科
栗原 裕/ユー・プラネット
- S D . H e s s L i g h t i n g 株式会社 『ライトアップ照明のご紹介』
発表者：兵藤 真一郎/営業部
コメンテーター：宮沢 功/Y P D e s i g n
天野 光一/日本大学理工学部まちづくり工学科
- カネソウ株式会社 『スリットみぞ蓋の納まり事例紹介』
発表者：石川 文和/マーチャンダイジング部
コメンテーター：江川 直樹/関西大学環境都市工学部建築学科
谷口 雅彦/都市環境研究所

ポスターセッション

- 株式会社コトブキ 『JIS Z 9097 津波避難誘導標識システムに則した防災サインのご提案』
- 東洋工業株式会社 『多様なニーズに対応する東洋工業の施工実績』
- 太平洋プレコン工業株式会社 『ヒートアイランド対策に役立つ遮熱 I L B 』
- 株式会社スズオカ 『高強度・軽量 薄型内照式LEDサイン』
- 伊藤鉄工株式会社 『ヒューマニックランドスケープ、復元技術のご紹介』

ヨシモトポール株式会社
『避難誘導システム』

発 表 者：永田 大樹／都市プロジェクト部
コメンテーター：井上 洋司／背景計画研究所
尾辻 信宣／G計画デザイン研究所

1. 避難誘導システムの紹介

(1) 避難誘導システムの開発経緯

2011年3月11日に発生しました東日本大震災を境に自然災害に対する安全性への関心が高まっており、東北の復興、また、これから全国各地で起こりうる自然災害への対策として避難誘導システムの製品開発を行いました。

(2) デザインバリエーション

デザインバリエーションは3タイプとなります。

- ・スタンダードタイプ シンプルで細見のデザインとなっておりますので幅員の狭い歩道等への整備へ。
- ・フラットタイプ 薄型デザインとなっておりますので、幅員の広い目抜き通り等に設置することで、都市の風景を一層引き立てます。
- ・ハイポストスタイル 4本の支柱からなるシンボリックなデザインとなっておりますので公園や広場へ設置することで存在感を一層引き立てます。

2. 避難誘導システムの特徴

(1) 熱押し形鋼

避難誘導システムの最大の特徴は熱押し形鋼による独創的でスリムなデザインの柱である事です。鉄(SS400)の押出材を使用することによりスリムで高強度なデザインを生み出すことが可能となっております。円周215mmの枠内であれば自由な断面形状の設計を可能としており、1本当り260kgまでの押し出しであれば最大11mまで製作可能となっております。

(2) ジョイント金具

ロストワックスにて製作したステンレス製のジョイント金具で接合の精度を高めなおかつ耐久性に優れた金具を使用しております。施工性を考慮した蝶番型の金具にすることでレールを上下移動させ導光板の設置位置を容易に変更することが出来ます。



1. 配置の考え方



2. デザインバリエーション



3. 熱押し形鋼

(3) 独立電源システム

太陽光発電を利用した独立電源仕様となっております。従来、支柱の中に収納していたバッテリーとコントローラーをソーラーパネル内に収めることですっきりとしたデザインを実現した。無給電時においても4日間の照明とLED導光板サインを稼働するバッテリー容量を確保しております。

(4) LED導光板サイン

アルミ鋳物でフレームを一体成型することにより薄型かつ防水性に優れた導光板サインが完成しました。

今回導光板サインを採用したのは、避難経路の重要な箇所にはLED導光板サインを設置し夜間においても視認性の向上となります。またすべての箇所にLED導光板を設置する必要がなければ反射シートを取り付けたサインの使用も可能となります。

3. まちのトータルコーディネート

(1) 機能別ラインナップ

防災機能+景観性にも配慮した各3タイプのデザインを取り揃える事で、地域の特色や設置状況に合わせて整備することが可能となり、機能別(歩道照明・車道照明・案内サイン・誘導灯)のラインナップを統一されたデザインにすることでまち全体のトータルな整備を實現させます。

4. 最後に

今回ご紹介いたしました避難誘導システムも製品化までに数々の試行錯誤をおこない、様々な技術やアイデアを取り入れ製品化が実現しました。

これからも異種素材・異業種の方々とのコラボレーションを通じてさらに良い製品の開発を行っていかたと考えておりますのでご相談お待ちしております。



4. 独立電源装置



5. LED導光板サイン



6. 機能別ラインナップ



7. 設置イメージCG



担当：永田 大樹

住所：東京都千代田区有楽町1-10-1(有楽町ビル7F)

電話：03-3214-1552

メール：nagata-hiroki@ypole.co.jp

URL：http://www.ypole.co.jp

総評

井上 洋司／背景計画研究所



ヨシモトポール「避難誘導システム」について

●新たな景観要素

従来、避難を目的とした避難用サインは建築の内部では見られたものだが、外部空間にそのような事を目的としたサインは存在しなかった。これは3.11の深い鎮魂の祈りから生まれたに相違ない。このサインのシステムは津波に対する避難経路の明示を目的としている事はまちがいなく、その意味で、大惨事にたいして社会的使命を企業がいかにか果たすか自社独自で開発した事は敬意にあたいする。

その上で、今までにない景観要素である、「避難揺動システム」について、いくつかの点でその評価をコメントしたい。

●評価

素材は鋳鉄で長い時間に耐えるデザインと機能性を指向している点で評価できる。デザインも、極力シンプルにする事で、様々な地域に適合できる事を考えている事は好感が持てる。いくつかのバリエーションがあることもユーザーにとってありがたい。

しかしスリムなポール型を指向した為に、強度のある鋳鉄ポールは重量が重くなり（一本 150kg）、路地等、機械車両が進入できない所での設置工事が人力のみの設置になる事に多少の不安がのこる。

照明の内蔵は、夜間での避難路指示には有効であり、通常は街路灯としての機能を有する事も、万が一の事前チェックと言う意味でも良いアイデアである。しかし、一方で器具上部につけられたバッテリーの交換にも、設置時同様、多少の不安が残る。

●製品の改良とセールス方針

風景にとけ込むシンプルなデザインは評価できるが、さらに地域性を感じる素材感等が有っても良いかもしれない。また設置時の問題を解消する為に、ポール自体をいくつかに分解できると良いと思う。さらに灯具の中に一体的に収納されているバッテリーをもう少し手軽に交換できる仕組みが有ると良いと考える。

また製品の開発自体を根底から揺らぐ事かもしれないが、会場からの意見にも垣間みられた点が気になった。それは納品後の管理計画である。かなり長いスパンで製品を維持管理する必要のある、本製品はこの管理契約とともに、より通常時に役立つサービスの提供やエリアマネジメントとの連携をする事でまったく別の情報サービスの事業展開が考えられるのではないだろうか。紙面の関係で仔細は別の機会に譲るが、ある意味でハードなデザインだけでなくソフトのデザインを求められる製品で、展開の仕方によってはきわめて期待の出来る製品になる可能性を秘めている。

総評

尾辻 信宣／G計画デザイン研究所



ヨシモトポール「避難誘導システム」について

●震災に備えるデザイン

3.11 東日本大震災の経験を踏まえ、津波来襲を想定した避難誘導のデザイン提案には好感が持てる。周囲を自然景観に囲まれた場所で、普段は存在感を抑えながら非常時には明確な誘導を促すデザインとして、シンプルな形状、上へと非難場所を目指す人にとって視界に飛び込んで来る導光板サイン、独立電源の採用など、これらをコンパクトにまとめたデザインは秀逸だ。

●狭い路地での設置が容易なデザインを

大分県で小学校のPTAに求められて災害時の避難を学習するワークショップを数多く手掛けている大学の先生から聴いた話だが、行政の方で計画している避難ルートは、舗装整備された市道や多数の人が安全に避難できることを第一にした広幅員道路を中心に指定されているが、実際の市民、とりわけ子ども達の避難行動は慣れ親しんだ道や目的地まで最短距離で行く道だと言う。発災後の津波から免れるためには道を選んでいる余裕はないとの見解だ。であるならば提案の「避難誘導システム」も設置場所を選ばない製品づくりに今後も研鑽を積んでもらいたい。狭い路地での設置や、メンテナンスが容易な更なる製品を期待したい。

●平時でも有用な設備を

地方の地域計画に携わっていて感じるのは、道路整備や海岸線の護岸整備、治水治水事業など公共工事は、人口流出・減少など過疎化が進む地方では経済が低迷する中でも、地方の基幹産業として毎年毎年、着実に実施されている。ただし、多分に政治的政策的に発注されてい

るため、地域のコミュニティ、まちづくりとは無縁に整備されることが多い。今後も人口が減少していく地方では、いつ起こるか分からない災害に特化した公共施設は「宝の持ち腐れ」で、地域の基幹的施設として整備されるならば、より多機能で平時でも地域生活に役立つものが求められている。3.11 東日本大震災が未曾有の大災害であったことは否めないが、ヒステリックに防災対策に偏重した地域整備に陥ることなく、各地域の特性やそれぞれの経済活動、固有のコミュニティなど、様々な要求に対応する製品づくりに励んでいただきたい。「まちのトータルコーディネート」を志向している点は評価が高い。であるならば、漁業の町での公共ポールにあるといい機能、あるいは山村での機能、山奥の避暑地での機能など、それらに応える製品のコンバイン化、多機能化した次なる製品を待望したい。

会場からの声

●熱押形鋼によりデザイン性と景観に配慮されてる

- ▶ 取付容易、可動が容易なサインという点は今後の押出鋼の展開にも期待できると思う。(避難誘導だけじゃなく)
- ▶ スマートでモダンで非常にデザイン性は高いと感じた。
- ▶ バッテリー、LEDのコンパクト化で細くてスッキリした点などデザインの自由度が高まっていて良い。
- ▶ 景観を阻害しないすっきりとしたデザインでありながら、夜間や停電時のイメージでは存在感を発揮しており、とても良いと感じた。

●機能性と施工性に課題

- ▶ 照明と導光板は地域によってはメンテナンスが必要。「システム」としてどのように配置するかが課題であり、配置パターンの提案があると良かった。
- ▶ バッテリーのメンテナンスや維持管理については課題が多いと思った。
- ▶ 誘導灯の設置方法等について、狭い路地でどのように設置するのか気になった。
- ▶ SSの押出材は耐食性、沿岸部での塩害やもらいサジなどの不安は？
- ▶ バッテリーが一律に使えるか→高所作業車が必要
- ▶ 導光板とバッテリー（ソーラーパネル）、一次電源側と結線した場合どこを通線するのか？（特にHypoタイプ）

●販売方法について

- ▶ 売り切りの製品なのか？ ここぞという時に使うものなので、うりきりというよりはメンテナンス契約とかしたらどうか？



プレゼンテーション風景

株式会社住軽日軽エンジニアリング

『アルミ合金製拡幅床版』

発表者：小泉 泰亮／設計技術部
 コメンテーター：松山 茂／都市空間研究所
 齊藤 浩治／Mind-J

1. アルミ床版開発の経緯

(1) アルミ床版開発の背景

今後、橋梁の高齢化が急速に進み橋梁改修数の増加が想定されます。また、道路構造令一部改正により、歩行者の安全かつ円滑な通行の確保が定められました。これらの背景より軽量、耐食性に優れたアルミニウム合金を用いて、安全で安心な歩道を提供するためアルミ床版拡幅工法は開発されました。

(2) アルミ床版拡幅工法の長所

従来型である側道橋の新設工法の特徴として、橋台、橋脚が必要となり、河川阻害の問題も発生する等があります。

アルミ床版拡幅工法の特徴として、軽量のアルミニウム合金を使用しているため、既設橋への添架が可能となります。また、小さな重機での施工が可能のため、施工期間、規制期間の短縮が可能となります。

(3) 摩擦攪拌接合 (FSW)

アルミ床版の接合には、摩擦攪拌接合という接合技術が用いられています。この技術は、1991年にイギリスで考案されました。

接合ツールと呼ばれる工具が回転することにより生じる摩擦熱と回転攪拌を接合部に与えることにより非溶融状態での固相接合が可能となります。これより、通常の溶接に比べ入熱の影響が少なく、ひずみが小さく、平滑な面を形成することができます。

2. 工法紹介

(1) 鋼橋ブラケット方式

既設の鋼橋に軽量のアルミ床版を対傾構間隔に配置したブラケットに添架させる工法です。

軽量のアルミ床版を使用しているため、施工時の取り

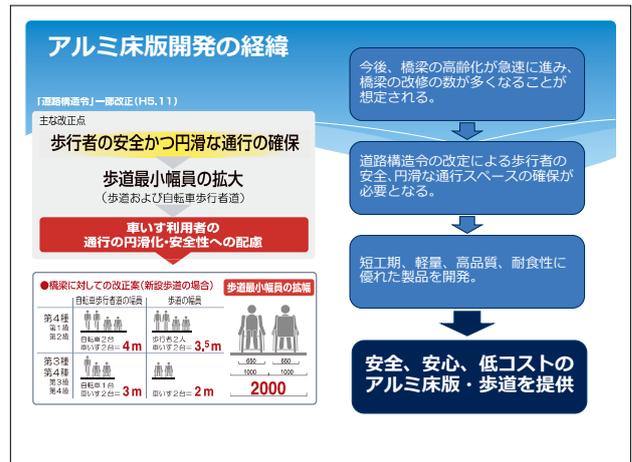


図1 アルミ床版開発の背景

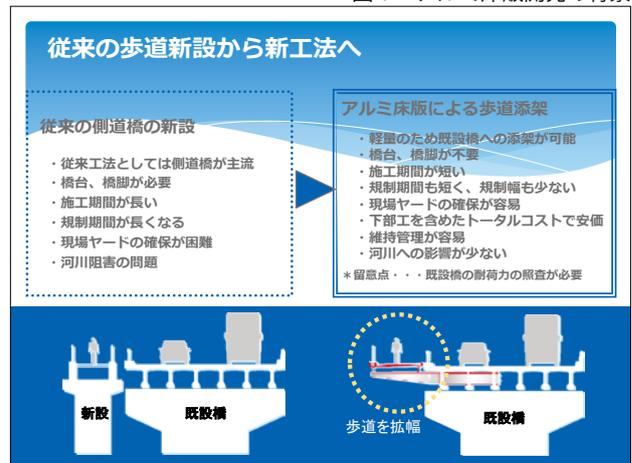


図2 アルミ拡幅床版の特徴



図3 摩擦攪拌接合

扱いが容易であり、短期間での架設が可能となります。アルミ床版を添架したブラケット取付け部は、補強検討が必要となりますが、補強は最小限の工事でおこなう事ができます。

(2) コンクリートブラケット方式

既設コンクリート橋、PC橋にブラケットを配置し、アルミ床版を添架させる工法です。

既設橋へのブラケット設置は、PC鋼棒を用いて設置します。その際、ブラケット取付け部は、PC鋼材や鉄筋の位置を入念に探査して決定します。ブラケット取付け部には、荷重分配のためコンクリート横桁を設置します。

(3) 上載方式

歩道がある橋梁で車道拡幅や、歩道拡幅の計画に採用される工法です。水道管、電線管などの添架物があっても拡幅することができます。

歩道の一部を剥ぎ取り、コンクリート床版をアルミ床版に置換し死荷重相殺を成立させることが可能です。

(4) コンパクトブリッジ

生活道路、通学路等の歩道が確保されていない、小さな橋梁の安全性向上を目指した製品です。

軽量のアルミ製床版を既設橋梁（橋台）に添架させる工法であるため、大がかりな工事を必要としません。

橋台の新設が必要となる従来工法に比べ、工数が少なく工期短縮と経費の大幅削減を可能とします。

コンクリート橋ブラケット方式

適用形式
コンクリート橋/PC橋

- コンクリート橋・PC橋にブラケットを設置し、アルミ床版を添架させる工法です。
- ブラケット取付け部は、PC鋼材や鉄筋の位置を入念に調査して決定します。
- ブラケット取付け部には、荷重分配のためコンクリート横桁を設置します。

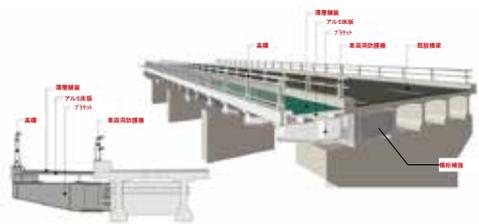


図5 コンクリートブラケット方式

上載方式

適用形式
コンクリート橋/PC橋

- 歩道がある橋梁で車道拡幅や歩道拡幅の計画に採用される方式です。水道管、電線管などの添架物があっても拡幅することができます。
- 歩道の一部を剥ぎ取り、コンクリート床版をアルミ床版に置換して死荷重相殺を成立させることが可能です。下部工はそのまま利用できる方式です。



図6 上載方式

コンパクトブリッジ

- 生活道路、通学路等の歩道が確保されていない小さな橋梁の安全性向上を目指した製品です。
- 軽量のアルミ製床版を既設橋梁（橋台）に添架させる工法であるため、大がかりな工事を必要としません。
- 従来技術（橋台を新設する歩道橋など）に比べ、工数が少なく工期短縮と経費の大幅削減を可能とします。

適応場所
10m程度の小規模河川・用水路などに利用できます。

基標準
以下の基準に基づいて設計を行っています。

1. 道路橋示方書・同解説
2. 立体横断施設技術基準・同解説
3. アルミニウム合金製土木構造物設計・製作指針案
4. 設計条件

活荷重
反力計算時の群集荷重：3.5 kN/m、
部材強度計算時：5.0 kN/m

たわみ
支間長：1/600以内



図7 コンパクトブリッジ

鋼橋ブラケット方式

適用形式
(上路橋) 板桁橋/箱桁橋他
(下路橋) トラス橋/アーチ橋他

- 軽量のアルミ床版を対傾構間隔に配置した鋼製ブラケットに添架させる方式です。
- アルミ床版は軽量で取扱いが容易であり、短期間で架設可能です。
- アルミ床版を添架したブラケット取付け部は、補強検討が必要となりますが、補強は最小限の工事で行うことができます。

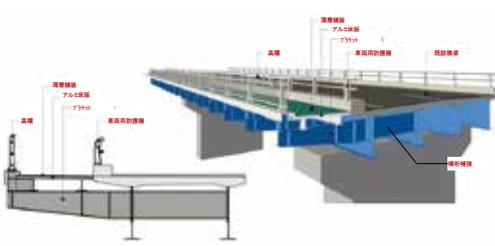


図4 鋼橋ブラケット方式

株式会社 住軽日軽エンジニアリング

担当：小泉 泰亮
住所：東京都江東区亀戸 2-35-13
電話：03-5628-8519
メール：taisuke-koizumi@sne.co.jp
URL：https://www.sne.co.jp

総評

松山 茂／都市空間研究所



軽量、高品質、耐食性、短工期に優れた「住軽日軽エンジニアリング」のアルミ合金製拡幅床版

●老朽化した公共施設の更新や長寿命化が社会問題となっている中でその解決に貢献出来る製品

住軽日軽エンジニアリングによるアルミ合金製床版を用いた橋梁の歩道拡幅工法やコンパクトブリッジの製品は、橋梁等の老朽化に伴う長寿命化が大きな社会問題となっている中で、歩行者の安全性を確保し橋梁の再整備（拡幅）工事を、短期間に比較的簡便に出来る点が優れている。

特に既存の構造体を活用して補強するだけで歩道の拡幅が出来る点が優れており、アルミ製品を熟知する企業の特性を発揮した製品であるといえる。

老朽化の中には構造的な老朽化と機能的な老朽化の2種類があり、機能面を整備すれば、長寿命化が可能な施設も数多くあることから、さらに製品のレベルアップを行い、橋梁等の更新に貢献出来る製品としていく必要がある。

●デザイン性を向上し、橋梁の景観向上

デザイン性からするとまだ製品として改良の余地があることから、アルミ製品としての特性を活かして、手すり、欄干などを一体的にデザインし、橋梁全体の景観が向上できるような製品とする必要がある。また、橋梁は、橋の下（河川敷や海辺）から見上げられることも多いことから、上部だけでなく、下から見られても美しい景観となるような配慮が必要である。その他に照明や、橋のライトアップなどにも配慮した製品やオプションが付けられるようになると、小さな橋梁でも機能だけでなくデザイン面のレベルアップも出来て付加価値が高まるのではないと思われる。

●施工性に優れ、工期の短縮に優れた景観資材としてさらに安全性に配慮した製品に

本製品は、既存の構造体を活用してブラケットなどでアルミ合金製床版の支持基盤を整備する構造となっており、既存の構造体の耐用年数が歩道部分の耐用年数となることから、既存構造体の強度を十分調査するとともに、その補強を兼ねてブラケットを取り付ける等に配慮した工法が開発されると、安全性の向上や、費用対効果の面からさらに、製品の利用が広がるものと思われる。

●洪水や津波などの耐衝撃性に対しても配慮した製品に

橋梁は通常利用による振動や衝撃の他に、洪水や津波などの災害時には、大きな荷重を受けることから、橋梁と一体となって耐衝撃性を高める工夫や、洪水時等には床版だけは簡単に外れるようにして災害後の再整備をやりやすくするなど、いずれにしても災害時の対応を工夫した製品としてほしい。

●路面の舗装にも配慮した製品に

歩道面については、舗装材やペンキを塗布・圧着させる場合等が行われているが、まずは歩行者の安全性を考慮して、滑りにくく耐摩耗性のある路面としながら、色についても既存の橋梁や周辺の景観を考慮し、それらと調和の取れた多様性のある色が選択できるようにすることが望ましい。今後、さらに塗装剤や圧着する材料の研究を行い、多様性のある製品に育て、製品の質を高めてほしい。

●まとめ

- ・本製品は、橋梁の長寿命化を図る上で、既存資源の有効活用、安全安心で低コストの製品として社会貢献性の高い製品といえる。
- ・製品としては、軽量、高品質、耐食性、短工期に優れた製品であるが、既存構造物との接続部や洪水・津波など災害時の衝撃などに対する安全性を高めて、さらに信頼性の高い製品となるようにして頂きたい。
- ・また、橋梁は、都市景観の中でも目立つ存在であり重要な要素である。現在の製品については、街の景観を形成する要素としてデザイン性の面から改良の余地がある。今後、JUDIなどの専門家と連携し、さらに研究開発を進めデザイン面からも優れた製品となるように期待している。

総評

斉藤 浩治 / Mind-J



「アルミ合金製拡幅床板」について

●社会インフラの課題

ご承知のように、わが国の社会インフラは高度経済成長期に整備されたものが多く、その後長い年月を経て「施設の高齢化」が進んでいる。例えば、道路橋では建設後50年以上経過する物件の割合は、2021年度末には約40%、2031年度末には約65%に達する。当然ながら建造物は時間と共に劣化（損傷や強度低下）するため、放置すれば根本的な安全上の問題が生じることになる。

しかしながら、わが国の財政事情は厳しさを増しており、大規模に社会インフラの更新ができる状況ではない。今後は、既存施設の補強や部分改良を重ねながら「上手に活用する」ための知恵が求められている。

●社会インフラを維持する2つの対策

これからの時代に、社会インフラを長く安全に使い続けるためには、視点の異なる2つの対策が必要であると考える。

ひとつ目は、老朽化に伴って施設の構造的な安全性が損なわれないようにするために、構造物の補強、補修、更新を行う「物理的対策」である。

ふたつ目は、社会環境の変化に伴うリニューアルである。例えば、交通量の増加に対応して道路車線の数を増やす、歩行者の増加に対応して歩道を拡幅するなどの「機能向上対策」である。

今回のプレゼン内容は、基本的には後者の対策である。対象となる橋梁が建設された時代には歩道を併設する必要はなかったが、近年の社会環境の変化に対応して、歩車道を分離することによって安全性と利便性を向上するものである。

●歩道拡幅工法としての選択肢

既設橋梁への負担を軽減するためにも、後から付け加える歩道構造は、可能な限り軽量化を図る工夫が必要となる。そのための手段として「アルミ床板」が有利な選択肢であることには異論がない。

特に、上部工に直接添架できる場合には、施工に必要な設備も最小限となり、工期短縮、コスト削減にも寄与するものである。これからの課題である「既存のインフラを上手に使う」ことに対するひとつの良い提案であろう。

●歩道拡幅にあたって確認すべきこと

まず、最初に確認すべきことは、既設橋梁本体が新たに追加される歩道の荷重増加を許容できるかという点である。この時に留意すべきことは、老朽化した構造物は、建設当初よりも耐荷力が低減している可能性があることである。もし耐荷力が不足する場合には橋梁本体の補強が必要となる。

●構造全体の最適化と軽量化

今回のプレゼン内容は、様々な橋梁形式（鋼橋、コンクリート橋、他）に対する取り付け構造も含めたトータルな工法の提案であった。しかし、私の印象としては、構造全体の最適化が図られていないと感じた。

例えば、ブラケットの位置と形状、縦桁との取り合い、地覆部の形状など、全体形としてもっと納まり良く、美しいやり方があると思われる。

特に、鋼製ブラケットや応力分散横桁の部材寸法が過大に感じた。もっと桁高を小さくするか、腹板を穴あき構造とするなどの軽量化の余地がある。

●まとめ

既設橋梁に新たな部材を付加することは、新しく作ることよりも難しい場合が多い。社会インフラの価値を高めるためにも、更に研究を重ねて構造全体の最適化を実現することに努めて欲しい。

会場からの声

●景観の配慮への期待

- ▶ 工法としては優れていると考えるが、アルミの手摺をもう一段優れたデザインにすることにより、景観改善につながる努力が欲しい。ただ広くなっただけではいけない。JUDI でデザインできる。
- ▶ うまい工夫だと思われるが、恐らく本橋の形式や強度に対応して結構複雑な形状になりそうである。桁の形状に関する配慮など必要ではないか。
- ▶ 最新技術を取り入れて、開発努力されていることは伝わりましたが、「景観を造る企業」であるのであればもう少し美観の観点からの開発を期待したいです。

●既存インフラと耐久性

- ▶ 歩道部を新規に基礎から作る必要がない為、非常に効率的に拡張できると思う。
- ▶ リニューアルという事で既存の施設を有効利用するという考え方が良いと思います。リニューアル後(拡張)という点で再現されていますが、新しい付加価値(例えば違うものになる)などあっても？
- ▶ 構造計算の部分の説明がほしい。古い橋への施工にはどのような対応が可能なのか、施工できる強度レベルの説明があればわかりやすい。歩行部の軽量化を考えるともっと幅を広げられるのでは。
- ▶ 既存の橋と合わせたライフサイクルコストの提言は必要だと感じる。また、橋によっては花火大会時などに予想以上の荷重がかかる場合があるが、アルミを利用していることでの耐久性についてはそのような非常時でも対応可能か？
- ▶ 車両通行も可能になるのか？
- ▶ 橋の支荷重軽減と長寿命化を考えるとニーズに合った商品だと思います。接合部の新技術投入も行われており、興味を引きましたが施工方法について説明が少なく分かりにくく、もう少し明瞭であれば尚良かったと感じました。
- ▶ 高欄をやってるメーカーなのできちんとトータルで考えてほしい。薄層舗装などせず、アルミの上を直に歩かせればメンテナンスも少なく耐久性も上がる。アルミ屋なので考えてほしい。



プレゼンテーション風景

株式会社復元屋

『〈未来への継承〉歴史的建築物のタイル復元技術からリニューアル工事用タイルまで』

発 表 者：赤井 祐仁

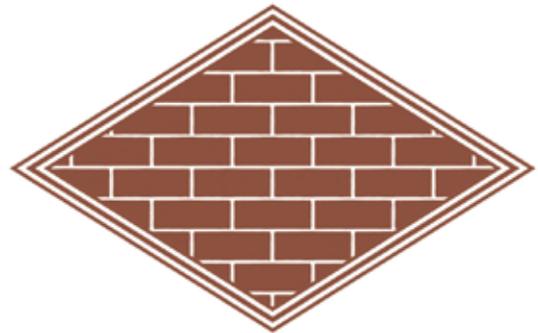
コメンテーター：八木 健一／八木造景研究室

杉山 朗子／日本カラーデザイン研究所

1. 会社紹介

(1) 復元屋とは

歴史的建築物や都市のランドマークなどには多くのタイルが使用されています。しかし、近年、老朽化等の問題で取り壊しが議論される建造物が後をたちません。そこで、復元屋では「未来への継承」をキーワードに、ただ修復するのではなく、その建物の歴史や景観、また、その場所への人々の想いや、思い出や物語を記憶、記録だけではなく、実際の建築物として未来へ残していきたい＝復元という想いから始まりました。



復 元 屋
Restoration Organization

(2) 復元屋の成り立ち

(株)復元屋は、愛知県の知多半島西岸に位置し、1,000年の歴史を有する焼き物の町、常滑に創業をした90年の歴史をもつタイルメーカー、(株)アカイタイルのプロジェクトとしてスタートをした、復元、リニューアル用タイルの販売会社です。

(株)アカイタイルは、赤レンガ駅舎で知られる、東京駅丸の内駅舎の復元工事に使われた、化粧レンガタイルの製造や、東京中央郵便局（KITTE）など、数多くの歴史的建築物のタイル復元を任されてきた技術集団です。



生産ライン

2. 復元タイル

(1) タイルの復元とは

タイルの復元とは、既存の建物に使われているタイルと色や形状はもとより、時には手触りや汚れまで再現をする特殊な技術や経験を要する仕事で、一朝一夕に請け負えるものではありません。また、様々な形状に対応する必要があり、生産の効率化を求めて特定の形状のみに特化し、自動化を進めてきたタイルメーカーでは対応が困難です。



復元タイル

(2) 多品種小ロット対応

復元タイルは、内装や外壁の部分補修に使われることが多く、多品種小ロットでの対応を求められる場合がほとんどです。そのような対応力を持つ当社では、復元のみならず、広場や商店街などのリニューアルの際に使われる多色、多形状のデザインパターン張りのタイルにも採用をされています。

(3) 特殊形状への対応

当社が長年培ってきた技術で、四角形に限らず、六角形や八角形などの多角形や円形なども可能です。また、立体的な形状も得意としており、複雑な形状の役物などにも小ロットで対応します。

- ・三角形、四角形、六角形、八角形などの多角形
- ・立体形状の役物（窓台用のコの字やBOX形状）
- ・大きな凹凸のある面状

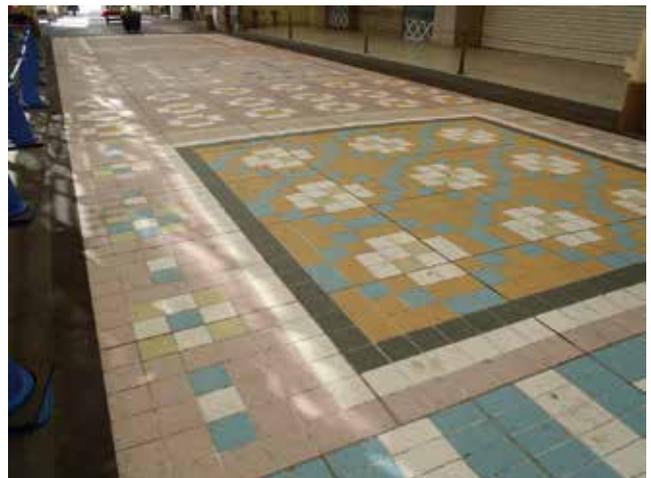
(4) ディテールの再現

文化財に指定されるような歴史的建築物などでは細部にわたり、既存のタイルとの外観の一致を求められ、時には手触りや、汚れの再現までも要望される場合があります。一方で、吸水率や剥落防止性能は最新の基準を満たすことが条件となってくることもあり、これらを高いレベルで両立させるには、技術力や経験はもとより、職人の創意工夫が必要となってきます。

3. タイルのことなら何なりと

復元タイルはもとより、多品種小ロット生が可能な機動性と、様々なサイズや面状に対応した設備は、新築を含め、エクステリアなどにもお使い頂けるタイルの生産が可能です。

規模の大小に関わらず、タイルに関してのご相談、ご依頼があれば何なりとお申し付け下さい。



施工例



特殊形状見本



特殊面状見本

復元屋
Restoration Organization

担当：関 伸一郎

住所：愛知県常滑市金山字北大根山8-1

電話：0569-84-2002

メール：seki@fukugeny.jp

URL：http://www.fukugeny.jp

総評

八木 健一／八木造景研究室



歴史的建築物のタイル復元技術

●企業の紹介

愛知県常滑市で90年前に創業したタイル生産専門企業の株式会社アカイタイルが母体となっており、「復元屋」とは、その販売部門である。

三代目社長の赤井祐仁氏は、「ただ建造物を復元するのではなく、建物の歴史や景観はもちろん、人々への想い、その場所での思い出や物語を、復元を通じて未来へ残していきたい」と語る。

この企業の東京での復元実績としては、東京駅丸の内駅舎、東京中央郵便局、日本工業倶楽部、日本橋三越などがある。

●高い技術力

地元の土でモザイクタイルを製造した老舗のメーカーとしての経験と技術を基に、無釉、施釉を問わず、サイズは75角～300角まで「小ロット多品種」をテーマにタイルの生産を行っている。

また、通常のプレスでは成形が不可能な凹凸の大きな面状でも、長年培ってきた技術と特殊プレスによる成形が可能となり、四角形に限らず、多角形、円形など様々な形状にも対応し、さらに、エイジング効果による表情や色合いの製品も創り出している。

東京駅丸の内駅舎では、戦災で消失した三階部分を復元（増築）するために、詳細なディテールや手触り感までも再現することが求められた。色合いは、微妙に異なる数色を作成し、張る場所の下層階部分に合うように混合して対応、手触りやディテールも、原料の加工方法から成形方法までも見直して再現した。

●企業への期待

この企業のプレゼンテーションは、新製品の紹介ではなく、タイル製造についての特殊技術の紹介で、特に歴史的建造物などの復元や復原への貢献が評価される。地味な仕事でありながら、赤井社長はこのような特殊技術の継承と開発に誇りと夢を持っており、これからも価値ある建造物を末永く活かし続けるために弛まない研究開発の姿勢を維持し続けてもらいたい。

余談になるが、建築史の分野では「復元」と「復原」の用語が使い分けられており、前者は以前の姿に修復するような場合で、後者は建設当初の姿に戻すことを意味する。そのような観点で、東京駅丸の内駅舎のケースは「復原」ということになる。いずれにしても、古いものと遜色のない材料づくりという特殊技術が求められる。

新歌舞伎座のことを、先般亡くなった建築史家の鈴木博之氏が、復原や復元ではなく「襲名」とであると語っていたが、これからは、必ずしも原物と同じ工法や材料を使うのではなく、元のエッセンスを踏襲して再建する、「建築襲名技術」とでもいう技法が求められるようになるかもしれない。

総評

杉山 朗子／日本カラーデザイン研究所



多くの人に知ってほしい素材と技術

●貴重な技術となってしまった現在

近年、タイルによる外装・外構デザインは減ってきています。もちろんタイル貼りはあるのですが、価格面が重視され、同じような形状・色彩・サイズ・質感ばかりになってきているのが実態でしょう。このところバブル期の公共建築物は外装のメンテナンスの時期に入ってきていますが、同じようなタイルを手に入れることはほとんど不可能で、オリジナルでつくこともコスト面で適わず、継ぎ接ぎ状態での修復を行ってしまうこともあるという声も聞こえるほどです。以前は、建築家やデザイナーが技術者と一緒に色彩表現や素材感を考案する機会が多くありましたが、現在そのような体験ができるのは恵まれた計画に携わることができた一部の人になってしまったようです。このような社会状況のなか、今回ご紹介いただいた技術は、大変貴重なものと言えましょう。

●色見本&デザインアーカイブへの期待

様々なタイルに触れることが少なくなった現在、顔料の配合事例、色調の事例といった色のバリエーション見本などを、お手本として見せて欲しいと思います。例えば、グレーの階調のバリエーション、黄みや汚れを感じさせるグレーのバリエーションなど微妙な表情の表現力などが一覧できると参考になるでしょう。釉薬の多様な表情なども失われつつあるものの一つといえましょう。

JUDI 中国ブロックで、赤瓦（石州瓦）の復元に際して、かつての豊かな表情を目指し、微妙に異なる色ムラのバリエーションを再現した研究事例がありますので参考にさせていただきたいと思います。

色見本だけでなく、様々な方向から検索できるデザインアーカイブ構築も、教育的見地から是非取り組んで欲しいテーマです。見たり触ったり出来れば、創造力を活性化してくれます。営業資料としても有効でしょう。

- 特殊面状・特殊形状での施工事例といったタイルを使った効果の事例
- 仕上げや風合いとデザインとの関連がわかる事例
- 横浜で良く使われてきたスクラッチタイルなど、各地に残されたタイルの事例など、地域の歴史・風土性とタイルの関連がわかる事例等々

これらが現物であればよりよいですが、画像だけでも見られれば、非常に役立つと思います。

さらに、検討の過程や方法、製作の工程等も携わったことがある人が減っていることを考えるとそれらの資料化も有意義です。

●タイルの歴史からデザインの力を見直す

改めて考えると、タイルというと、浅学な私などにはヨーロッパやイスラム文化での華やかな使われ方が思い起こされます。それに比べると日本での取り入れられ方や日本独自で開発された色彩やデザインについて、全体を展覧した資料は身近には少ないように思います。各産地でそれぞれまとめていらっしゃることはありましょが、日本ならではのタイルデザインといった観点でのまとめも望まれるところです。日本でタイルが使われるようになった歴史や、日本での取り組みの歴史等、新たな視点で整理することが必要とされるのではないのでしょうか。明治～大正期のタイルの復元もさることながら、焼き物好きの日本で発達した昭和初期～高度成長期、またバブル期などに数多く開発されたタイルの特徴を取りまとめることは、タイル産業のデザイン力の発信の一つとなりうるように思います。

多くの人に日本のタイルの魅力を再認識してもらおう、伝える方法を一緒に考えていければと思います。

会場からの声

●高い技術力に評価【小ロット多品種】

- ▶ タイルのプロとして貴重な企業だと思いました。多品種少量という丁寧な仕事、小回りがきく企業規模を活かし素晴らしいと思います。値段は高くなると思うが古い建物の外装材の再現ができる技術は絶やさないようにしてほしい。
- ▶ あえて不均一な仕上げ、風合いを作る事、工業製品からの物づくりとしては大切な考えだと思いました。当初の日本の技術、職人の技術を復元という意味から付加価値として考えて良いと思う。(近年作りやすさ、管理しやすさが主流になりすぎている)
- ▶ 多種多様なタイルに対応している点が素晴らしかったです。海外の安価なタイルとの差別化ができるという点はよかったですのですが、どのくらいコストが違うのかコストパフォーマンスはどうなのか気になった。

●今後の普及に期待

- ▶ 既存インフラを活用し復元するという事、お客さん毎のニーズに丁寧に対応する発想は時代のニーズにあっていると感じましたが、やはりコストは気になるところです。より普及して欲しいだけに。
- ▶ 古きよき時代のものを残していくことが非常に難しい状況にあって家内制手工業的な人の手をかけた仕事に挑戦されている数少ないメーカーさんだと思います。特殊面状、特殊形状、四辺小端施釉など技術の継承ということを考えれば貴重な存在だと思います。是非頑張ってくださいと思います。
- ▶ 多々の魅力を伝えられるようにHP、見学会など実施して欲しい。施工性、安全性のアピール説明も。
- ▶ 現在災害などでも歴史的建造物が傷ついていると思われる。それを復元する技術があるということでこれからその技術に期待が持てた。この技術を知らない団体もいると思われるので広く知ってもらえるようにしてほしいと思う。



プレゼンテーション風景

大成ロテック株式会社

『インジェクト工法による車道石張り舗装の施工例』

発表者：^{まさげ} 捧 加奈美／本社営業部 湯川 誠二郎／技術研究所コメンテーター：高見 公雄／法政大学デザイン工学部都市環境デザイン工学科
栗原 裕／ユー・プラネット

1. 車道景観舗装

(1) 景観舗装としての石張り舗装

市街地活性化事業やリニューアル事業における基盤整備において、景観整備の手段として道路空間を改善することが注目され、石張り舗装は高級感を演出できる景観舗装として全国各地で採用されています。

しかし、従来の石張り舗装は歩行者を対象とした構造（空練りモルタル層への敷設、締め固め工法）であるため、車両の繰返し荷重に対し耐久性が不十分であり大型車両が通行する道路では早期に破壊する例が多くあります。歩道部は石張り舗装でも、道路空間の大半を占める車道部がアスファルト舗装といった事例も多く見受けられます。（写真-1）

当社が提案するインジェクト工法は、自然石の下に据え付け層（6号砕石の間にCAモルタルを注入したもの）を設け、据え付け層と側面のCAモルタルで自然石を5面拘束することにより、大型車両の走行にも耐えうる構造を提供し、車道部における石張り舗装の耐久性を向上します。インジェクト工法は全国各地の車道景観舗装として採用され、20年の実績があります。（写真-2、3）

今回の発表ではインジェクト工法での施工実績を一部ご紹介します。設計者の方々の一助となれば幸いです。

(2) インジェクト工法の特徴

- ①大型車両が走行しても破壊しない石張り舗装が構築できる。
- ②インジェクト層の強度は従来工法（空練りモルタル層）に比べてバラツキが少なく均一な据え付けができる。
- ③下地基盤はアスファルト舗装で対応可能。
- ④不整型の天然石ブロックでも据え付けが可能。
- ⑤インジェクト工法は即日開放が可能。



写真-1 従来の石張り舗装

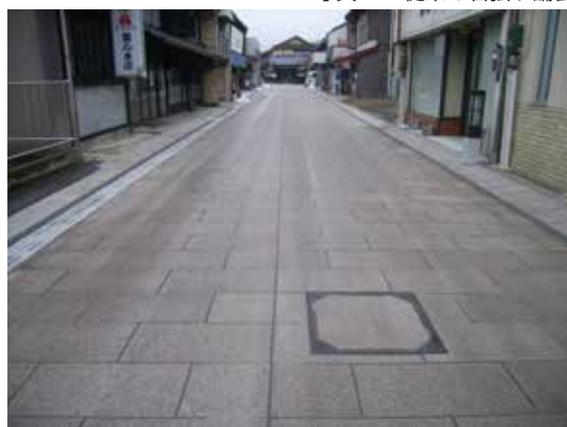


写真-2 インジェクト工法



写真-3 インジェクト工法 断面

2. 施工手順

(1) 基盤の整備

インジェクト工法の場合、下地基盤はアスファルト舗装（図-1 参照）、またはコンクリート舗装。

(2) 自然石敷設

スペーサーの役目として6号砕石（13～5mm）を使用して、自然石を敷設する。（図-1 参照）

(3) CA モルタルの製造

CA モルタルは現場にて製造する。特殊アスファルト乳剤、特殊セメント、および水をミキサーで混合する。（図-2 参照）

(4) CA モルタルの注入

目地部よりロートを使用しスペーサー砕石の間に CA モルタルを注入、充填する。（図-2 参照）

(5) 化粧目地

一般的に、モルタル目地材を充填する。目地色は白系～黒系まで対応可能。（図-3 参照）

3. 実績紹介

(1) 新しい街並み

「丸の内仲通り」「横浜元町」が代表的なものとしてあげられます。この二箇所は地名がブランドになっている人気のある街区であり、アルゼンチン斑岩を使用し、特徴のある景観を創り出しています。

• 丸の内仲通り（千代田区）

丸の内仲通りは大手町・丸の内・有楽町地区を貫くメインストリート。石畳や街路樹が美しく、ハイセンスな路面店が並ぶ。

• 横浜元町（横浜市）（写真-4）

横浜開港と共に誕生した横浜元町ショッピングストリートは商店街のリニューアル事業として街路の景観を重視し、石張り舗装とした。

(2) 昔ながらの町並み

「花見小路通」「輪島朝市通り」が代表的なものとしてあげられます。昔ながらの建物が並ぶこれらの通りは、舗装を石畳とすることでさらに風情を増しています。フラット方式の街路での採用が多いため、車道部と歩道部の識別は石の色を変える工夫をしています。



特筆すべきは、輪島朝市通りは2007年3月能登半島地震等、4度の地震を受けていながら現在でも供用性が確保されていることです。

- 花見小路通（京都市）

花見小路通は由緒ある茶屋や料亭が並ぶ祇園を南北に貫くメインストリートである。石畳の整備が完成し風情ある町並みへと生まれ変わった。

- 輪島朝市通り（輪島市）（写真-5,6）

朝市通りは電線の地中化、舗装の石畳化と能登空港の開港にあわせて2003年に整備された。午前中は朝市が催され、歩道部には屋台が出展し賑わいを見せている。

(3) 寺社仏閣

「伊勢神宮外宮参道」「出雲大社神門通り」が代表的なものとしてあげられます。石畳は、寺社仏閣境内と参道との連続性が確保されるので採用されています。

- 伊勢神宮外宮参道（伊勢市）

2005年より伊勢神宮外宮参道、周囲の門前町の整備が行われ、石張り舗装が施工された。

- 出雲大社神門通り（出雲市）（写真-7）

2013年に60年に一度の大遷宮が行われた出雲大社。この大遷宮に合わせて門前の神門通りの電線地中化や出雲大社駅までの約350mの石畳が竣工した。

4. 今後の展開

インジェクト工法は1994年から施工を始め、今回発表した「新しい街並み」「昔ながらの町並み」「寺社仏閣」の他、「積雪寒冷地」や「駅前広場・駅前通り」や「勾配20%の坂道」等全国各地で700件以上の施工実績があります。今後、新たに施工した箇所を含め経年変化を追跡し写真集を発刊します。次号発刊時には、積雪寒冷地の雪が積もっているときの写真、景観を重視したビルエントランスでの採用事例等紹介できればと考えています。都市環境デザイン会議に参加させていただき、車道対応の石張り舗装を紹介し、設計者の方々のお役に立てれば幸いです。今後ともご指導、ご助力を賜りますよう、よろしく願いいたします。



写真-5 輪島朝市通り



写真-6 輪島朝市開催時



写真-7 出雲大社神門通り

 大成ロテック株式会社

担当：秋山・捧

住所：東京都新宿区西新宿8-17-1

住友不動産新宿グランドタワー

電話：03-5925-9436

メール：kanami_sasage@taiseirotec.co.jp

URL：http://www.taiseirotec.co.jp/

総評

高見 公雄／法政大学デザイン工学部都市環境デザイン工学科



があった。特に公共工事は安いことが社会正義で、安かろう悪かろうなものを量産してきた面もある。今後、今はいいけど将来はもっと金がないという社会が見えている中、メンテナンスコストがかからないというのは強い武器である。このため、より分かりやすい説明資料があると良いと思う。高くとも質が良い、そしてきちんとライフサイクルコストでは勝負できる、事例は高名な通りが多いとは言うものの、こういうものが受け入れられる社会が始まったのかと嬉しくなった。

こういうものが受け入れられる社会を

●土木学会デザイン賞を受賞

丸の内仲通は、昨年度の土木学会デザイン賞審査において高い評価を受け、審査員一致の意見で最優秀賞に選ばれた。私も審査講評を書いたのだが、横綱相撲との表現でベタ褒めした覚えがある。日本に二つとない立地で、法線に沿って31mまで建ち並ぶビル、そこにスタンダードな舗装と街具、道路とはこういうものだ、と示している。その大きな役割を演じているのがこのインジェクト工法による平面性が高く均質な舗装である。一方、均質であるが故、特に石材が平面性の高いもので、目地が細いときに石に見えないというようなことも言えそうである。より高い水準を目指し、石材としてのより良い景観という観点から磨きをかけて頂ければと思う。

●20年間の努力と時間が示す保証

他にも善光寺表参道、道後温泉、伊勢神宮、出雲大社など国内のこぞ、という場所で採用されていることも納得がいく質だと思う。そしてこの工法が生れ、使われてから20年が経っているというのも大きい。いわゆるエイジングが実例として保証されている。いちばん旧作とされる別府市のビーコンプラザ、20年を経て傷みや狂いはほぼないとのこと。その自信の裏付けが、カタログに示された施工からの時間だ。それぞれの事例写真にかなり目立つように「経年」表示がなされる。

●しかしながら高いらしい

以上のように高い評価となるが、気になる点はコストである。少なくともイニシャルコストはかなり高いようであるが、メンテナンスを含めれば高くはないとの説明

総評

栗原 裕／ユー・プラネット



インジェクト工法による車道石張り舗装の施工例

●維持管理を考えた提案

車道部における石張り舗装は石が割れる、石が剥がれる等の問題を含んでいる。

現状の車道石張り舗装は、一般的に碎石路盤の上に基礎コンクリートを打設し、その上にモルタルで自然石を接着させるという工法が用いられている。モルタルと自然石の間に隙間ができやすく、その隙間が原因で石の割れや剥がれが起きてしまう。

このように、車道部の石張り舗装は一般的に維持管理の負担が大きいのだが、「インジェクト工法」を用いることにより、石の割れや剥がれをほとんど防ぐことができるという。

また、基礎コンクリートおよびモルタル部に伸縮目地（3mm～5mm間隔）を設ける必要があり、伸縮目地を適切に設置しないと基礎コンクリートの温度による伸縮により石が剥がれてしまうが、「インジェクト工法」であればアスファルトの上でも施工できるということなので、この場合は伸縮目地は不要になるという。

施工後の維持管理を考えた場合、なかなか画期的でいい工法であるといえる。

それに加え、施工後養生をせずに即日解放ができることなので、交通量の多い道路での施工にも適している。

●目地幅の問題

「インジェクト工法」は、アスファルト舗装等の上に敷モルタルの代わりに碎石（スペーサー碎石）を敷き上に自然石を並べた後、目地から接着層としてセメント・アスファルト乳剤モルタルを充填する工法なので、どう

してもある程度の幅の目地が必要となる。

目地幅は5mm以上必要とのことであり、一般的には10mm目地程度となっているようだ。

昔は自然石貼りの場合は10mm～20mm程度の目地が一般的であったか、最近は2mm～3mm程度の目地、すなわちほとんど目地無しのようなデザインが主流となってきている。

残念なことに、「インジェクト工法」ではこのようなデザインを実現することは難しい。目地から接着層を充填するので致し方ないのだが、接着層の充填方法を工夫し、一部の石を接着層充填後に張る等の方法で狭い目地のデザインでも採用できるよう検討されるとデザインの自由度が増すと思われる。

目地幅が狭くても施工できるようになれば、インターロッキングブロックでも「インジェクト工法」が採用できるのではと考えられる。

また、大判の自然石（450mm×900mm等）の場合接着層が十分充填されるのかも不安が残る。

今後の技術開発に期待したい。

●施工費の問題

「インジェクト工法」は非常に優れた工法であると思われるが、施工費が従来工法の4倍近くになるという。路盤や基礎コンクリート、自然石の材料費等を含むと全体施工費は在来工法の1割～2割増し程度となるだろうが、昨今の経済情勢では施主（役所）はなるべく安い工法を採用する傾向にあるため、施工費の軽減を図る努力が必要であると思われる。

施工後のメンテナンスを考慮すれば4年後には在来工法と同等となるとのことだが、国庫補助の物件では会計検査対応としてイニシャルは高いがメンテナンスを含めると従来工法より有利になる等の客観的なデータを用意する必要があるだろう。

●最後に

「インジェクト工法」は施工実績も着実に伸びてきているようであり、10年～20年を経過した現場でも自然石舗装の破損等がほとんど見られないようであるので、その信頼性も照明されつつあると思われる。

今後は、国交省の技術認定等、1メーカーの工法ではなく、車道の石張り舗装の標準工法となるよう、積極的に各方面に働き掛けて頂ければと思う。

会場からの声

●画期的な技術

- ▶ 天然素材で車道を舗装するという発想は景観上、非常に効果があると感じた。メンテナンス等も配慮されているという事だが、コスト感含めてより良くなって、もっと普及されると良いと思います。
- ▶ 石という景観材を新しい技術で再現するアプローチが良いですね。車道の石張りでデザイン可能性は広がると思います。コストに関しては課題ですね。
- ▶ 透水性舗装が多くあるので、透水性も考慮したものがあれば良いと思う。施工例を見ても劣化している所は少ない。
- ▶ アスファルトではなく石張りにすることで、景観はとて綺麗になると感じた。耐久性にも優れているということで、トータルコストの面でも安くなり、優れていると感じた。

●疑問点

- ▶ AS舗装と比べて単価、耐用年数はどれだけ違うか知りたかった。
- ▶ 耐久性は実際どれくらい健全が保たれるのか、最長20年程なのか？
- ▶ 駅前ロータリー、コミュニティ道路等、景観性を求められる場所での使用が想定されるが、舗装に関する計画交通量はどれ位なのか？ 即日開放できるという点は素晴らしいと思った。
- ▶ インジェクト工法について、目地から注入した舗装材がしっかりと行き渡っているのか、またそれをどのように確認するのかという説明が欲しかった。



プレゼンテーション風景

SD. Hess Lighting株式会社 『ライトアップ照明のご紹介』

発表者：兵藤 真一郎／営業部

コメンテーター：宮沢 功／Y P Design

天野 光一／日本大学理工学部まちづくり工学科

1. 会社紹介

(1) 海外との合併事業から日本側の単独資本へ

4年前にドイツの照明メーカー Hess と日本の信号機メーカー信号電材の合併事業としてスタートしましたが、このたび信号電材 100% 独資の会社として再スタートすることとなりました。

(2) 3 ブランドの製品展開

これまでの Hess はもとより他ブランドやオリジナル製品の柔軟なご提案も可能となり、現在 Hess、MEYER、オリジナル、の3ブランドにて製品展開させていただいております。

※ 2015年1月1日よりSD Lighting(株)へ社名変更いたしました。



会社紹介

2. ライトアップ照明『MEYER(マイヤー)』ご紹介

(1) 『MEYER』社アウトライン

MEYER 社は創業から 70 年ほど (1946 年創業) を数える、ドイツの照明器具メーカーです。工場や工事現場向けの投光器の製造販売からスタートし、現在では主に屋外向けの、建築用ライトアップ照明をメインに展開しています。



ライトアップ照明『MEYER』

(2) 器具の特色

器具の特徴としては、まずかたちのシンプルで主張が少なく、建築意匠を邪魔しない、周囲になじむデザインとなっております。

屋外用ということで IP は概ね 65 以上の高規格となっており、アルミダイカスト製の筐体を用いた堅牢なつくりとなっております。

レンズ制御を用いた特徴的且つ多様な配光性能をもつ器具を取り揃えております。

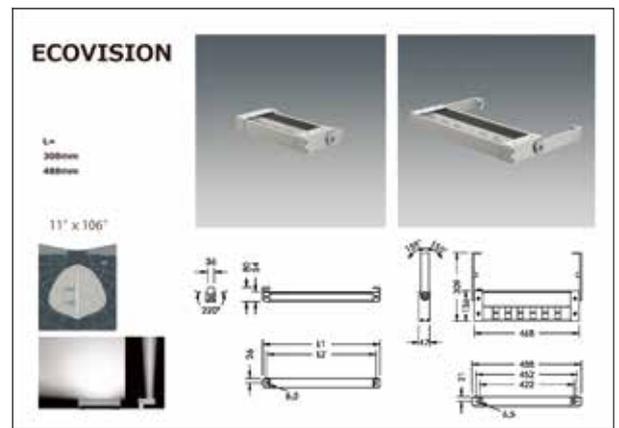
3. LED 照明『Ecovision(エコヴィジョン)』

(1) 『Ecovision』 解説

配光制御は従来の放電灯に見られるリフレクターではなく、LED チップ上のアクリルレンズにて行っており、このレンズ形状を工夫しあかりを細く引き伸ばしています。縦横方向に広く、奥行方向は狭い配光特性を実現しており、 $\frac{1}{2}$ ビーム角でそれぞれ 106° 、 11° というスペックとなっております。

(2) 主な特徴

従来品と比較し、左右の影や距離の遠近によるあかりムラを最小限に抑えた配光性能を持っています。数 m ずつ間隔を空けた状態で設置しても、壁面全体をムラや影を最小限に抑えたウォールウォッシュ照明演出が可能となります。



4. LED 照明『Ecoline(エコライン)』

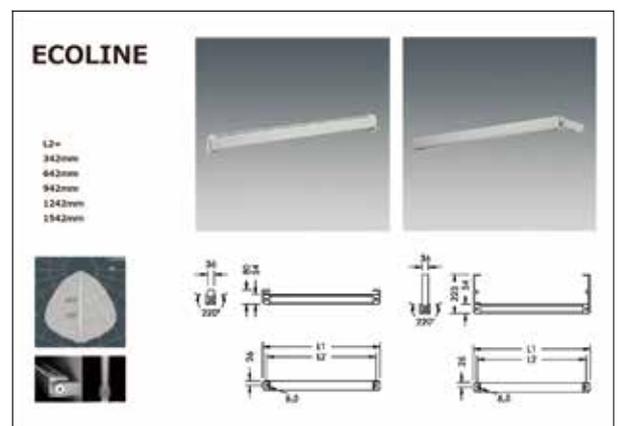
(1) 『Ecoline』 解説

Ecovision と同じく、レンズによる配光制御で、縦横方向に広く、奥行方向は狭い配光特性を実現しており、ムラのない均一なウォールウォッシュ照明演出が可能となる器具でございます。 $\frac{1}{2}$ ビーム角でそれぞれ 97° 、 10° というスペックとなっております。

(2) 主な特徴

左 右に連結して使用できますので、シームレスなあかり演出を行うことができます。

長さは 300mm から 1500mm まで 5 パターン、建物や構造物の幅に合わせ 300mm 刻みで長さを選べます



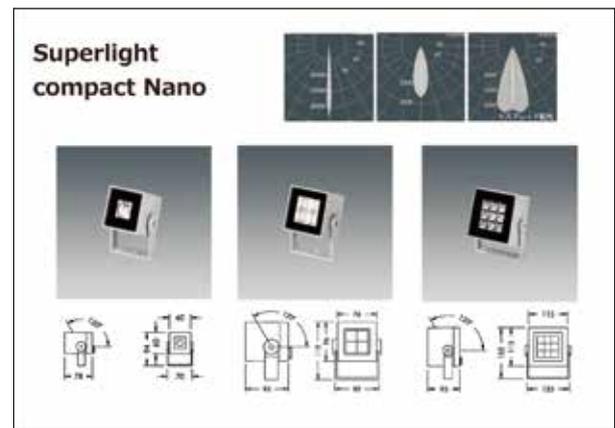
5. LED 照明『Superlightcompact Nano(スーパーライ トコンパクトナノ)』

(1) 『Superlightcompactnano』解説

LEDチップ上のアクリルレンズによる高効率の配光制御を行っています。レンズの種類を変更することで、それぞれ7°のナロー配光から13°～32°のミドル～ワイド配光、そして細長のスプレッド配光まで3パターンの配光を選択することができます。

(2) 主な特徴

高効率配光により、特にナロー配光の場合直線的且つシャープなあかり演出が可能となります。建物上部までライトアップしてもあかりの拡散やムラが非常に少なく抑えられます。



6. 多様な種類の器具をラインアップしています

(1) さまざまなシチュエーションでご活用可能です

今回ご紹介差し上げたのはほんの一部でほかにも配光や機能に特徴ある器具を多数ラインアップいたしております。

装飾豊かな歴史的建造物からシンプルモダンな現代建築まで、さまざまシチュエーションでご活用いただける器具を取り揃えております。



SDLighting
OUTDOOR + design

※2015年1月1日よりSDLighting株式会社へ社名変更

担当：氏名 兵藤 真一郎

住所：東京都新宿区新小川町9-27

電話：03-3513-0445

メール：hyodo@sd-lighting.co.jp

URL：www://sd-lighting.co.jp

総評

宮沢 功 / Y P Design



テーマ ライトアップ照明で紹介

●多様な照明方法によるライトアップ

SD.Hess Lighting (株)はデザイン性の高い照明を扱うドイツの hess 社と日本の交通信号を扱う信号電材の合弁会社としてスタートし、今回は新たに M E Y E R のブランドで開発した LED によるライトアップ器具が兵頭氏によって紹介された。hess 社の D N A を受け継いだ高いデザイン性と LED の特徴を生かした多様な照明方法への対応姿勢は夜間景観の可能性について環境デザインにかかわる会員の関心を引き起こしたと思う。

●LED 活用のライトアップ商品について

今回の発表は hess 社の持つ高いデザイン性と信号電材の技術力とノウハウを LED ライトアップ器具に生かそうとの意図がよく理解できた。ライトアップ器具は特に昼間の状況においては景観的に目ざわりとなりやすいもので、夜間の機能はともかく昼間の見え方に対する課題は以前からあった。これに対して SD.Hess Lighting 社の提案は、ひとつは LED を採用することで小型化できる利点を生かし、小型化すると同時にその造形もニュートラルな形態として展開していてそのこと自体は評価できる。しかし、発表された商品を見る限りでは、もう少し造形そのものにニュートラルな中にも豊かさや美しさを感じるようなデザインや、取付け金具などの部分の取まりにも一工夫がほしかった。又、器具を見せずに建築物あるいは土木構築物と一体化した使い方に対する器具についても、より積極的な取め方の提案や光の表情についての解説があると、環境デザインの一要素として取り込みやすいのではないかと思う。

●LED ライトアップ器具の景観づくりへの可能性

商品紹介の中ではなかなかわかりにくかったが、ライトアップを考える場合、光を均一に配光することだけではなく、光そのものの表情についても夜間景観演出の要因としての可能性が考えられる。光源が小さいこととレンズによる光のコントロールがしやすい LED の性質を生かした場合、光の表情や光色などに対する要素は、ライトアップ器具としての可能性を大きく広げるのではないか。これに加えコンピュータ制御のシステムなどを取り込むことにより、状況の違う様々な屋外環境に対し、多くの可能性を秘めた素材と考えられ、これからの夜間の景観作りに大きな活用が見込まれる。JUDI などの専門家からのいろいろな提案も必要であるが、メーカーとしても専門家との情報交換の中から新しい使い方を視野に入れた商品開発に取り組むことを期待したい。

総評

天野 光一／日本大学理工学部まちづくり工学科



ライトアップ照明のご紹介

●ライトアップによる夜景の演出

都市における夜間の活動が活発化するにつれ、夜景をどのように演出するかという命題が人口に膾炙され様々な照明による夜景の演出がなされてきた。建築物、構造物のライトアップもその効果的な演出法のひとつである。当初は、昼間に見ても、象徴的な、歴史的建造物、特徴的な構造を持つ構造物などをライトアップするという手法が多かった。すなわち、夜になって見えないと興味が半減するため、見せるために照明をする、場合によっては、その特徴を強調するというものである。しかし、近年は、ライトアップしないと特段の特徴のない構造物等でも、ライトアップにより模様などを創り、夜景を演出する手法へと発展していった。今回、SD.Hess Lighting (株)により紹介された、ライトアップは、前者のライトアップに使用できることはもちろん、後者のより創造的なライトアップへと発展させることを感じさせるものであった。プロジェクションマッピングのようなと言ってしまえばやりすぎではあると思うが、より積極的なライトアップも今後期待される。

●LED光源によるライトアップ

ライトアップに限らず、照明の抱えている一般的な課題として、使用されない昼間に景観的な阻害要因となりにかねないということである。その点、今回紹介された製品は、LED光源を使用したこともあり、サイズが小型化し、昼間に気にならないものとして仕上がっている。十分に合格点であろう。しかし、贅沢を言わせてもらえば、昼間見たとき、それがライトアップ用の器材であり、夜景の期待を抱かせると同時に、昼間見ても装置と

して見るべき価値があるものに仕上げるという考え方もあろう。この方向のデザインも前節で述べた手法と同様、抑制が効いた形で行わないと危険であることは言うまでもない。

●今回商品の今後の期待

今回は、ライトアップ用の器具としての紹介であった。小生の期待は、2点である。

他の分野の製品、例えば、柵とか、支柱とか、縁石などのコンクリート製品とか、様々なものと一体化させることによる付加価値の増大である。また、製品としての具体的なイメージを持っているわけではないが、JUDIなどの機会を利用して、他のメーカーとの忌憚ない意見交換で、境界領域に踏み込んだ製品開発を期待したい。

もう一点は、ライトアップ機材の、一般照明への応用である。構造物をライトアップするのではなく、例えば歩行空間の機能をも考えた照明とするなどである。先の縁石等との連携を考えれば、歩道用照明としても応用可能ではないかと考える。

いずれにしても、単一メーカーでの開発を超え、様々なアイデアを結集した新たな製品の出現を期待したい。

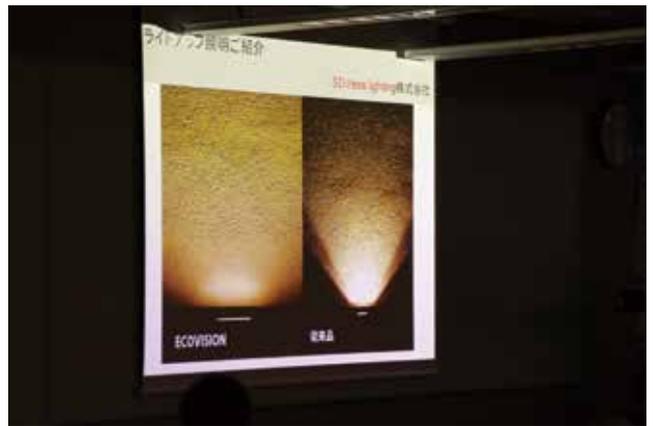
会場からの声

● LED の特性による効果

- ▶ LED を使用した良好なライトアップ照明システムで、多様な配光特性をもつのがよい。
- ▶ 橋梁や建物を照らす灯りは少し照度分布が異なるだけでイメージが変わる。それを上手くライトアップできている素晴らしいものだと思う。景観形成のために、LED の技術を駆使した投光器であると思った。
- ▶ ライトアップ照明は均一にならないことが多いので、均一な明るさにする技術は景観的にもさらに良いものになると感じた。光の性質等にもこだわってみると面白いと思った。
- ▶ 細い光や幅広い光を用いることで多様なシチュエーションでも利用できる点で利便性が高いと感じた。
- ▶ 灯具デザインの種類、独創性、色彩のバリエーションがあってもいいのではないかと

● シンプルデザインの評価

- ▶ スタイリッシュで性能も高く、周りとの景観と調和していて良いと思った。昼のライトを使っていない時も邪魔にならず、都市に馴染んでいると思った。
- ▶ 演出光そのものの面白さもさることながら、筐体自体のデザインも良いと思った。
- ▶ 照明器具デザイン、配光の可能性とも期待が持てるが、ただライトアップは何となくもういいやという感もあり次の時代のライティングに期待します。



プレゼンテーション風景

カネソウ株式会社

『スリットみぞ蓋の納まり事例紹介』

発表者：石川 文和／マーチャンダイジング部

コメンテーター：江川 直樹／関西大学環境都市工学部建築学科
谷口 雅彦／都市環境研究所

1. カネソウスリットみぞ蓋の種類

カネソウでは、U字溝用スリットみぞ蓋として3種類を取り揃えております。開口部（スリット）の位置をU字溝の幅に対して、片側に寄せた形状の「ボーダースリット」、U字溝の幅の中心に開口部（スリット）を設けた「センタースリット」、U字溝の幅と開口部（スリット）の幅が同じ小形U字溝用または円形水路用の「バーチカルスリット」の3種類です。

また、鋼製溝付スリットみぞ蓋として、自由勾配タイプの「スマートスリット」とU型溝タイプの「スマートトラフ」を取り揃えております。



2. 落ちふた式U形側溝への対応

標準仕様のU字溝用スリットみぞ蓋は、U形側溝もしくは上ぶた式U形側溝に設置を行うスリットみぞ蓋です。

U形側溝もしくは上ぶた式U形側溝の荷重強度は、車道用T-25に対応しておらず、この強度を必要とする場合は、落ちふた式U形側溝を使用します。スリットみぞ蓋の枠の幅寸法を落ちふた式U形側溝の幅と合わせ、スリット部を側溝の片側の側壁端部に寄せることで、境界部にスリットを設けた納まりが実現できます。



3. マルチスリット側溝への対応

豊富なバリエーションと高い強度のプレキャスト製コンクリート側溝として、「マルチスリット側溝」があります。

このマルチスリット側溝にも、落ちふた式U形側溝と同様、スリットみぞ蓋の枠の幅寸法をマルチスリット側溝の幅と合わせることで、高強度で、境界部にスリットを設けた、排水側溝の納まりが実現できます。



4. 自由勾配側溝（V S側溝）への対応

設置自由度の高いプレキャスト製コンクリート側溝として、「自由勾配側溝（V S側溝・可変勾配側溝）」があります。自由勾配側溝は他のU形側溝と異なり、側溝の上部に天板があり、部分的に開口部が設けてあります。このため、天板のある部分と、無い部分とで、スリットみぞ蓋の枠形状と側溝への固定方法を変えることで、表面のスリットが一直線に通った排水側溝を設置することができます。



5. 落ちふた式U形側溝の改良工事

既設の道路用鉄筋コンクリート側溝（落ちふた式U形側溝）とコンクリート蓋を、スリット蓋に変更する改良工事にも対応できます。コンクリート蓋を撤去し、側溝の側壁上部を切断除去します。この上に、側溝に合わせた寸法で製作したスリットみぞ蓋の枠を設置することで、排水用の開口部を境界際に寄せた、スリットみぞ蓋に改良することができます。



6. 現場打側溝への対応

現場打側溝に対しても、スリットみぞ蓋の枠形状を変更し、鉄筋に溶接固定あるいはあと施工アンカーによる固定で、設置することができます。

また、スリット幅を60mmや40mmなど、よりスリムにすることも可能です。

カネソウでは、設置現場における環境、条件、工法に応じた仕様のスリットみぞ蓋を御提案させていただき、製作を行います。



カネソウ株式会社

担当：石川 文和
 住所：三重県三重郡朝日町大字縄生81番地
 電話：059-377-3232
 メール：info@kaneso.co.jp
 URL：http://www.kaneso.co.jp

総評

江川 直樹／関西大学環境都市工学部建築学科



スリットみぞ蓋の納まり事例紹介

●手作業（現場）と製品のハイブリット

今回の紹介は、様々な現場で求められたトータルデザインを実現するために、製品の様々な納まりを実現した事例紹介であった。こういった、手作業（現場）と製品のハイブリットともいべき協働関係の実現こそが良質な都市デザインに求められる。すでに、先だって紹介された(株)復元屋のプレゼンでも、大量生産の技術から、小規模多品種の製造や創造への技術転換の話があったが、場所はそれぞれすべてが異なり、都市デザインや建築は、場所を創る行為であるから、どんなに優れた製品であっても、こういった後方支援技術が重要である。製品に合わせた場所づくりではいけない。建築のディテールはおよそこういったところが面白い領域であるが、そういった視点を、都市デザインの世界に展開することは、都市デザインを生き生きとした生活の舞台づくり、そのための場所づくりへの展開として重要なことなのである。そのために、デザイナーとメーカー、施工者が協働して取り組む体制づくりが重要だということであり、カネソウ(株)のこういった取り組みの紹介は、モニターメッセとしても喜ばしいことだと評価したい。

●異種材料のハイブリットによるみぞ蓋の創造へ

今回紹介のみぞ蓋は、スリットスマート等の細いライン上のデザインを求めるものであり、縁石際のものなど、大きな荷重を受けないようなものもある。すべてを鉄製品でつくるのではなく、FRP等の硬質な新素材を混ぜることにより、あるいはそういった素材の製品をつくり配置することにより、日本の都市空間、市街地空間はより日本的な質感の場所づくりに展開できる。日本的な情

緒漂う空間に、ステンレスやシルバーメッキのようなひかり物が合うとは思えない。縦ラインを強調する表面デザインでも、潜り込んだ下部の横つなぎ材が結局目立ってしまう例など、黒色に沈んだ横材を用いれば、それが解消できる。異種材料でなくとも仕上げを変えれば実現できるし、異種材料でも同様だと思える。もちろん対コスト効果が問われるとは思いますが、空間の質の確保は大変重要なところでもあるので、カネソウ(株)にはチャレンジをお願いしたい。

●フラットな屋外床空間の実現に向けて

建築でも土木でも、屋外のスペースは水勾配がつくものである。しかし、細いスリットを設けて床を浮かせば、フラットな床空間が実現できる。美術館の中庭などでは良く採用される手法であるが、カネソウ(株)のスリットみぞ蓋の応用として、簡易なフラット屋外床実現のシステムが開発できないだろうか？ 集合住宅のバルコニー、テラス、屋上など、水勾配は生活空間の楽しみを減少させてしまう。大きな都市空間を創りあげる技術を、小さくて身近な住空間に活かせれば、住生活の空間が都市空間としてより豊かなものになる。この話は、ポスターセッションでお話ししたものだが、今後の検討に加えていただきたいものである。

総評

谷口 雅彦／都市環境研究所



その存在を消すことで都市環境デザインに貢献する製品と納まり事例

●設計者共通の悩みを解決する一般解

排水溝を設計する際、①排水形式との関係、②官民境界または歩車道境界部の処理、③縁石や誘導ブロック等の線的要素と柵の処理、④電柱、照明柱、高木、植栽帯等の処理をトータルで考えることにいつも頭を悩ませる。本製品は、基本的にすっきりしたものなので、ポイントは納まり部分のデザイン処理に対しての工夫が重要である。今回ご紹介頂いた内容は、かつて、トライして諦めた納まり事例もあったので自省すべきところもある。今回の事例は、特殊解としての説明であったが、決してそうではなく、多くの設計者が悩む課題の一般解の一つなのであると感じた。こうした事例があるということだけでも、設計者が各都市環境デザインの設計の場面で勇気づけられることになるであろう。

●もっとわかりやすいカタログとHPづくり

こうした設計者の悩みを解決している事例を容易に見見できることが重要と考えたことから、会場では、事例集としてカタログやHPにわかりやすく掲載されることを要望する発言をした。後日、HPを拝見すると会場でカネソウさんからご回答いただいたように、確かにそれぞれの製品の中で、事例紹介はされていた。要は設計者がそれを発見する努力をすることと幸運に恵まれるかどうかというように感じる。折角の評価されるべき取り組みをこれまで以上に、もっとアピールするよう展開して頂きたいと思う。話はやや外れるが、昨今、多くのメーカーでは、HP上でページをめくるスタイルが見受けられるが、やはり冊子でパラパラ手元で見たい

と思うのは私だけだろうか。

●その存在を消すことで都市環境を良質なものへ

メーカーと設計者、そして施工者が意見を出し合い、共同の検討によって、少しずつ製品と施工事例をアレンジし、すっきりしたスリット溝蓋の納まりを開発し実現していくことは、少しずつであっても都市環境デザインを良質なものとするための、着実な取り組みである。モニターメッセの総括の中の須田事業委員長の言葉を借りると「その存在を消すことで都市環境を良質なもの」にしているカネソウさんの更なる取り組みに期待したい。

会場からの声

●取り組む姿勢に感心

- ▶ 製品開発とはこういうものだという模範を見せていただいている。スリットみぞ蓋をアイデアから製品化、そして煮詰めるという取り組みに敬意を表します。
- ▶ みぞ蓋にも様々な種類が存在していることから、全体の歩道との調和もとりやすいと感じました。従来と比較して幅や見た目もすっきり変化したと感じました。
- ▶ 様々な要望に答え毎年改善していることに大変向上心を感じた。

●改善点（豪雨、汚泥対策）

- ▶ 設備をデザインで解決する方向は良いと思いますが、実際の機能をつめると施工精度が気になりますね。側溝に落ち葉が溜まって排出できなくなったという話もよく聞くので、側溝の見た目だけでなく排水効率についても考えていかねばならないかなと感じた。
- ▶ 最後に紹介していた43.5mmのスリットは固定式と言っていましたが、固定した場合、中の排水溝の管理はどうなのでしょう。みぞ内に溜まるドロの除去をどうするのか、普通のみぞとどう違うのか気になった。
- ▶ 近年の土砂災害、都市部の氾濫水被害も増えてきていますので43.5mm中のスリットでどこまで対応できるのか、防災の部分でどう考えてらっしゃるのか気になりました。

●タイアップ提案

- ▶ スリットは当社のアルミとタイアップできないかと感じた。耐食性の良いアルミニウムをぜひ…と思った。
- ▶ 他の製品との組み合わせはできないか LED 照明との組み合わせでラインライトをつくるのか!?
- ▶ 側溝本体と合わせた共同研究できないのでしょうか？ 側溝のカット技術など。



プレゼンテーション風景

株式会社コトブキ

『JIS Z 9097 津波避難誘導標識システムに則した防災サインのご提案』

担当者：中野 竜／都市環境開発室

1. 津波避難誘導標識システムに則した防災サイン

(1) 津波避難誘導標識システムの概要

JIS Z 9097 津波避難誘導標識システムは、津波が発生したときに備え、人々が安全な場所へ避難する際に利用する津波避難誘導標識システムについて規定されています。速やかな避難誘導を実行するために、1.津波注意標識 2.津波避難情報標識 3.津波避難誘導情報標識 4.津波避難場所標識・津波避難ビル標識 の4つから構成されています。

(2) 津波避難誘導標識システムの実効性

津波避難誘導標識システムの実効性を担保するためには、避難される方々を適切なサインによって安全かつ迅速に誘導する必要があります。そのためには、設置されているサイン自体に統一感があり、ひと目で「津波避難サインだ!」と認識してもらう必要があります。

従ってグラフィックの統一だけでなく本体の統一感も重要な要素となります。

2. 整備への取り組み

(1) サインのトータル提案

コトブキでは様々な意匠形態のサインをシリーズでラインアップしており、あらゆる場所にお使いいただけるような大きさや形状をご用意しています。注意喚起から情報提供、実際の誘導、目的地表示まで様々な情報量を適切なサイズと形態でご提案いたします。

(2) 様々な展開を見せる防災サイン

防災サインを実際の避難の際に役立てるだけでなく、日頃の防災意識の啓発に積極的に活用とする動きも全国で活発になっています。コトブキでは、防災サインに「まちづくり」や「観光」の観点から考え日々利用されることで、災害時にも一層活用される事例のお手伝いもしています



K・O・T・O・B・U・K・I

株式会社コトブキ

担当：中野 竜

住所：東京都港区浜松町1-14-5

電話：03-5733-6679

メール：nakano_r@kotobuki.co.jp

URL：http://www.kotobuki.co.jp

東洋工業株式会社

『多様なニーズに対応する東洋工業の施工実績』

担当者：山本 雄一／景観・環境市場開発室

1. 地域に合わせた平板開発とデザイン

(1) 博多駅前広場

デザインは、新駅ビルが和のモチーフを大切にしているため、落ち着いた薄いグレー系統のカラーを基調とし、博多織をイメージした格子模様を表現することに成功しました。

阿蘇の溶岩を用いたオリジナル製品を開発し、製品毎に仕分けたグレーの濃淡と、製品表面の溶岩粒子が上品な和の趣を醸し出しています。



地域に合わせた平板開発とデザイン施工事例

(2) 東京スカイツリー

庵治石を使った透水性コンクリート舗装材（特注スーパーテラ）。表面の仕上げ方法だけを変えることによって、江戸時代に流行したモノトーンの縞模様（唐棧縞）を表現。

そして古いコンクリートの切削面に表れる美しさをモチーフにした川砂利切削平板。鮮やかな色調が「差し色」として足元に豊かな表情を演出しています。



建築、庭園設計に対応

2. 建築、庭園設計に対応

(1) MIHO 美学院中等教育学校

設計・デザイン：io Architects LLP。

設計の要望に応え各種サイズのコンクリート平板、植生ブロック、浮床システムを採用されました。

(2) イオンモール幕張新都心

世界的に有名なガーデンデザイナー石原和幸氏が外構の立体庭園等を設計。

舗装デザインは設計士の考案により植栽とマッチさせたモダンでシンプルなボーダーラインが特徴。

透水性舗装材のスーパーテラ TRM、インターロッキングブロックであるハイ・ブリック（特注サイズ）が採用されました。



担当：山本 雄一

住所：東京都荒川区東日暮里5-41-2

電話：03-5615-7230

メール：yuuichi_y@toyo-kogyo.co.jp

URL：http://www.toyo-kogyo.co.jp

太平洋プレコン工業株式会社

『ヒートアイランド対策に役立つ遮熱 I L B』

担当者：青木 秀浩／東京支店 営業推進課

1. 様々なバリエーションを持つ遮熱 I L B

遮熱 I L B は、遮熱性を持つ特殊顔料を練り込んだ製品、遮熱性塗料を表面に塗布した製品など異なる遮熱材料を使用したものがあります。

また、透水・保水などの機能やショットブラスト、研磨、打放しなどの表面仕上げがあり、バリエーションが豊富です。

2. 温度抑制の効果

(1) 夜間の気温を低下

遮熱 I L B は蓄熱が少なくアスファルトと比較して真夏の日中では 15℃ も温度差があります。

また日中の蓄熱が少ないため、夜間では外気温と同じ温度までブロックの温度が下がり、放熱量が少なくなります。

(2) 再帰反射で周辺温度を低下

表面がスリット形状の製品は、日射を再帰反射（太陽の方向に返す反射）させるので、反射光の拡散による道路周辺建造物の温度上昇を低減して、道路環境を改善します。

3. 環境を配慮したエコ製品

日常生活より大量に発生する都市ゴミを焼却した灰や下水汚泥を主原料とした「エコセメント」を使用しています。

また保水製品には、保水機能に効果がある陶器瓦屑・高炉水砕スラグ・軟質スラグを使用し、環境に対する安全性に優れたリサイクル製品です。



国会議事堂周辺



お台場中央連絡橋

 太平洋プレコン工業株式会社
TAIHEIYO PRECAST CONCRETE INDUSTRY CO.,LTD

担当：青木 秀浩

住所：東京都新宿区新宿5-13-9

電話：03-3350-0681

メール：h-aoki@t-pc.co.jp

URL：http://www.t-pc.co.jp

株式会社スズオカ

『高強度・軽量 薄型内照式LEDサイン』

担当者：小林 丈豊／設計部

1. SLIM LED SIGN Type-01

(1) 導光板エッジライト LED サイン

厚み 80mm の専用アルミ押出型材プレート内に、導光板を収めた非常にスリムなエッジライト LED 内照サインです。電源・ブレイカーなどの電装品もすべてフレーム内に納めており、現場に電装品を収める特別な場所を必要としません。

また片面発光だけではなく 80mm の厚さを変えることなく両面発光仕様も可能です。

表示正面ベゼル形状を、電源ボックスを必要としない四方均一なスリムな形状にしているため、天井の低い場所での設置でも案内面積を大きく表示することが可能です。

現場に合わせた特別なサイズでの制作も可能です。



2. SLIM LED SIGN Type-02

(1) 中空型エッジライト LED サイン

厚み 100mm の専用アルミ押出型材フレーム内にエッジライト LED を収めたスリム型内照サインです。フレーム内の光反射を利用して光を増幅させる中空型タイプですので、本体重量が軽量です。

また部品個数が少なく低コスト化を可能としました。

電装品すべてをフレーム内に収めているため、特別な設置方法を必要としません。表示正面ベゼル形状を、電源ボックスを必要としない四方均一なスリムな形状にしているため、天井の低い場所での設置でも案内面積を大きく表示することが可能です。

現場に合わせた特別なサイズでの制作も可能です。

SUZUOKA

担当：小林 丈豊

住所：東京都大田区西六郷3-30-2

電話：03-3733-5551

メール：t-kobayashi@suzuoka.co.jp

URL：http://www.suzuoka.co.jp

伊藤鉄工株式会社

『ヒューマニクランドスケープ、復元技術のご紹介』

担当者：清水・浅山／土木景観材部

1. ヒューマニクランドスケープ

(1) デザインコンセプト

あくまで「鋳鉄」という素材にこだわりながら、その可能性を追求した、全く新しいこれからのストリートファニチャーのスタンダードの提案。

使いやすく、機能的であること、そして環境にも配慮した耐久性とあらゆるフィールドに対応したフレキシビリティ持つこと。この美しくやさしい質感の中にコストパフォーマンスを凝縮。

(2) デザインの特長

飽きのこないスリムな形状、支柱には僅かにつけられたテーパー、波々のテクスチャがシンプルな中にも鋳鉄の表情を醸し出しています。

(3) 柵の機能

ビームパイプを連結するユニバーサルジョイントによって、平面R（15°）や縦断勾配（30°）にも対応しています。

2. 復元技術

(1) 資料からの復元

当時の僅かに残っている図面・文献・写真などを元にして、現代での製造方法による意匠・形状・機能の復元。

- ・三菱一号館階段

(2) 現物からの復元

現存する現物から意匠や形状をサンプリングして、現代での製造方法による意匠・形状・機能の復元。

- ・皇居外苑照明灯ポール



伊藤鉄工株式会社 I.G.S.

担当：清水／土木景観材部

住所：埼玉県川口市元郷3-22-23

電話：048-224-2744

メール：shimizu@i-g-s.co.jp

URL：http://www.i-g-s.co.jp/



株式会社コトブキ



東洋工業株式会社



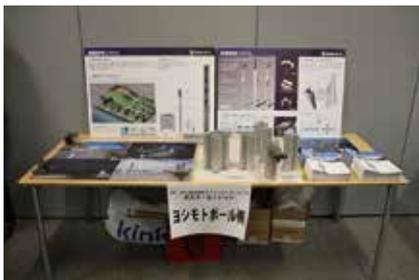
太平洋プレコン工業株式会社



株式会社スズオカ



伊藤鉄工株式会社



ヨシモトポール株式会社



株式会社住軽日軽エンジニアリング



株式会社復元屋



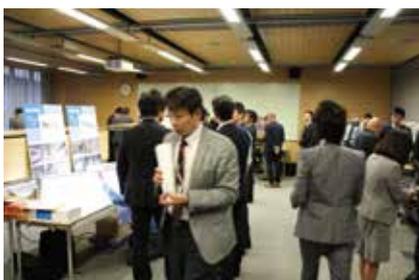
大成ロテック株式会社



SD.Hess Lighting 株式会社



カネソウ株式会社



ポスターセッション風景

2014 都市環境デザインモニターメッセ

～ 公共空間のトータルデザインを目指して ～

開催の趣旨

2014JUDI 都市環境デザインモニターメッセも本年で 23 年目を迎えます。都市景観の中でも特に景観材料にスポットをあて、その質の向上を目指し、実際に製造されるメーカーの方々、計画者、設計者、デザイナー、発注する行政の方々が一体となって議論する場としてこの会を運営してきました。

JUDI 事業委員会では、公共空間の製品デザインをより良いものとするという視点を持ちながら常に新しい活動をしています。今年は、パブリックデザインに関わるメーカーや設計者、デザイナーの方に参加いただき「パブリックデザイン・セミナー」を企画し開催しました。このセミナーは、公共空間のデザインについて様々な視点、立場から意見を交わすことを狙いとし、全 9 回にわたり議論を重ねてまいりました。

今年のモニターメッセは、「公共空間のトータルデザインを目指して」をテーマとし、積み重ねて来た「パブリックデザイン・セミナー」の成果をもとに、今後どのようなスキームで継続、展開していくかを議論するシンポジウムを開催します。公共空間のデザインにおける計画、設計、製造、管理をトータルで構築する枠組みと組織化を考える機会としていきたいと考えております。

また本年はまた、第 2 回 JUDI パブリックデザイン賞の表彰式も行い、良好な都市景観の形成に寄与した作品を顕彰いたします。

多くの皆様の参加をお待ちいたしております。

モニターメッセ開催概要

名 称	2014 都市環境デザインモニターメッセ
会 場	日本大学 お茶の水キャンパス 理工学部 1 号館 2 階大会議室 東京都千代田区神田駿河台 1-6 (裏面の案内図をご覧ください)
開催日時	平成 26 年 10 月 18 日 (土) 12:00 開場

プログラム

12:00 ~	受付開始
12:30 ~	モニターメッセ ポスターセッション パブリックデザイン賞表彰式 共同開発シンポジウム「公共空間のトータルデザインを目指して」
~ 18:00	総括：国土交通省 都市局 公園緑地・景観課 課長補佐 石橋 隆史 氏
懇 親 会	18:30 ~ 日本大学理工学部 5 号館 1 階食堂

主 催 都市環境デザイン会議 事業委員会
問合せ：Tel 03-6240-8827 Email : postmaster@judi.gr.jp

※懇親会に参加ご希望の方は、事前にお申し込みください。

懇親会費 (予定) 会員 3,000 円、一般 4,000 円

申込み先：(FAX) 03-6240-8829 か、Email: postmaster@judi.gr.jp

問合せ：(TEL) 03-6240-8827 (月、水、金の 10:00 ~ 17:00)

第2回 JUDI パブリックデザイン賞

開催趣旨・選考結果

1. 趣旨

都市環境デザイン会議（JUDI）は、2014年をもって設立24周年を迎え、1993年から始まったモニターメッセも23回を数えます。その間に発表された製品等は300例余り、参加企業数も100社近くに上ります。

この間に発表された製品の中には、今日都市環境デザイン製品のスタンダードとなったものも少なくありません。また、JUDI会員の作品も数多く整備されてきました。しかし、都市デザインや景観に対する社会的な関心が高まる一方で、社会や経済環境の変化に伴い、国や自治体のまちづくりや景観事業も減少し、関連する製品メーカー、施工業者も厳しい状況にあります。

このような状況を踏まえ、2010年に都市環境デザイン、パブリックデザインの向上に貢献している企業・団体等の活躍を社会に広め、もってその取組みを支援することを目的に、その活動や実績を顕彰する「JUDIパブリックデザイン賞」が創設されました。

2. 表彰対象

① 都市環境デザイン、パブリックデザインの向上に寄与した以下のものとします。なお、表彰対象はあくまでも「製品」、「空間」であり、設計者、施工者、製造者等を対象とするものではありません。

- 1) 製品部門：舗装、照明、柵、緑化、ストリートファニチャー等の製品（既製品、標準品、特注品等）
- 2) 空間部門：ポケットパーク、歩車道、施設内空地等の空間

② 表彰の対象は施工事例があるものに限定します。

③ JUDIパブリックデザイン賞は、製品部門から「製品賞」、空間部門から「空間賞」を授与します。

この内、特に都市環境デザイン、パブリックデザインの向上に多大な貢献をしたと評価されるものを「大賞」とします。

この製品賞、空間賞の他に、各ブロックの地域性や魅力を引き出したものについて「ブロック賞」を授与することとしました。また、社会的意味の高いもの、今後の展開が期待できるもの等について、必要に応じ

て選考委員が認めたものを「審査委員特別賞」として顕彰することとしました。

3. 選考方法

パブリックデザイン賞の選考は、事業委員会の中に「選考委員会」を設けて行いました。選考委員は、JUDIメンバーの中から建築、土木、造園、パブリックデザイン等の専門家に依頼し、選考会議における討議によって各賞を選定しました。

- ・募集期間：平成26年4月～平成26年7月
- ・パブリックデザイン賞選考会議：平成26年9月30日
選考委員長：須田 武憲（事業委員長）
選考委員：横川 昇二（東京工科大学）
高見 公雄（法政大学）
天野 光一（日本大学）
角野 幸博（関西学院大学）



選考会議風景



須田委員長



横川委員



高見委員



天野委員



角野委員

4. 選考結果・講評

■製品部門・大賞

●U字溝用スリット蓋ボーダースリット・

センタースリット・バーチカルスリット

応募者：カネソウ(株)／石川 文和

ボーダースリットは境界部の課題を解決しているし、センタースリットはスリムさに配慮されている。いずれも機能を十分保証しながら、上部の空間を邪魔せず心地良い空間となることを保証している。蓋を見て称賛する人は少ないかもしれないが、このような装置こそまさに良い空間づくりのための縁の下の力持ちとあって良からう。



カネソウ(株)／石川 文和 氏

■空間部門・大賞

●浜甲子園さくら街

応募者：関西大学／江川 直樹

連続する羊羹型住棟にどう変化をつけるか。スカイラインへの配慮と住棟間スリットによって、六甲の山並み景観を居住者にプレゼントした。地区内道路の沿道景観にも表情がある。浜甲子園団地の建て替えは今後も継続するが、このデザインが再生団地全体の規範になりつつあるとすれば、その功績は大きい。



関西大学／江川 直樹 氏

■製品賞

●避難誘導システム

応募者：ヨシモトポール(株)／丸山 浩二

津波などの避難誘導サインは、同じ自治体や地区のなかでもデザインや様式がばらばらのことが多い。観光客などの来訪者に対しては、緊急時に情報が伝わりにくい。誘導表示を統一するとともに、街並み景観にもマッチしたデザインが求められるが、本製品はこうした課題に十分に対応できるものと評価する。



ヨシモトポール(株)
鈴木 幸男 氏

●瓦舗装材 瓦コンクリート@サイエンスヒルズこまつ

応募者：(株)エコシステム／高田 実

地産地消というコンセプトで、瓦生産拠点から排出される瓦の再利用を実践して、舗装材として再生している点がまず素晴らしい。瓦の多孔質の特性を利用した保水性を持ちながら、風合いのあるテクスチャーと温かみのある落ち着いた色彩が親しみを感じさせる空間を創り出しており、とても好感が持てる作品である。



(株)エコシステム
高田 実 氏

●奈良県 奈良公園 観光案内板

応募者：(株)コトブキ／山室 浩一

本作品はコストを抑制しつつ、地域アイデンティティの表現することをテーマとしている。部品の共通化、モジュール化、システムの共通化等による低廉化とそれを踏まえながら色彩やグラフィックデザインで奈良らしさをうまく表現しており、コストと意匠のバランスの取れた秀作と評価した。



(株)コトブキ
一木 誠 氏

●Float Floor system 1.関西外国語大学 2.山田中学校

応募者：日本興業(株)／藤田 浩暢

建築の外部床面に二重床を形成するためのシステ

ム床である。表面の遮熱性能による日射反射効果と建築との間の空気層により、防音断熱効果を発揮することと、水勾配のある場所でも完全に水平な床を形成できることが特筆される。精度感の高い空間の形成を可能とし、利用範囲はとても広いと思われる。今後道路など土木分野への応用も期待したい。



日本興業(株)
藤谷 康氏

■空間賞

●煉瓦倉庫周辺・夜間景観整備

応募者：(株)LEM空間工房／長町 志穂

煉瓦倉庫のライトアップというやや食傷気味の感もある。だからこそデザインセンスのガチンコ勝負が求められた。影絵デッキやガラスベンチ等、来街者の行動を誘発する工夫もある。地区のオリジンであった煉瓦倉庫を、照明デザインによって神戸ハーバーランドのヒロインに返り咲かせた。

※長町氏は授賞式欠席のため後日授与

●INAKAイルミ@おおなん2013 (2010,2011,2012)

応募者：(株)LEM空間工房／長町 志穂

過疎集落を元気にするためのライトアップである。ライトアップによって、もともと有していた景観の力強さに気付く住民がいる。ほとんど費用をかけられないプロジェクトに全力を傾けた関係者の心意気を評価する。関わった住民の経験とパワーが、高齢化と人口減少の圧力を押し返すことができるか、応援し続けたい。

●旧北上分流施設群（脇谷水門、鴉波水門）

応募者：(株)プランニングネットワーク／岡田 一天

治水安全性の命題のもと、大規模かつ標準的な土木設計を行い、命題に答えるだけという施設整備から大きく方向転換されたものと言える。当初計画は古い施設との脈絡なく大きな水路を切る計画であったようだが、そこにこの



(株)プランニングネットワーク
伊藤 登氏

設計者や関連する専門家の提言により土木史的意義などを踏まえ、旧施設を活かしながら命題に応え、そしてデザイン的にも洗練されたものとしていく。出来上がりの姿はすっきりし、かつ土木施設としての力強さがある。水門の色彩は強いように思う人もいるかも知れないが、強い表現全てを否定することがデザインではない。強い施設には強い表現もまたありうるだろう。

●金沢駅西広場

応募者：(株)国土開発センター／新田川 貴之

駅前広場といえば、敷地の中央部にゆったりとバスやタクシーの回転軌跡を満足する車道をまず設計し、残った部分に中途半端な幅の歩行者空間が残る、という景色に誰もが馴らされ過ぎていて、そんなひどい（失礼！）広場を普通に思っている。金沢駅の西側に広がる市街地は、大規模な区画整理事業、県庁の移転など、20世紀に力をいれて作られた街だ。その駅前広場が完成を迎えた。自動車交通の処理機能は消える訳ではないから、歩行者動線と交差することはしようがないとして、広場の中央を歩行者が使える広場がやっとできた。さらに各部のデザインは金沢のまちにふさわしく丁寧で和のテイストを感じるものである。全体構成、細部の詰めまで優れたデザイン例と言えるだろう。



(株)国土開発センター
森川 大輔氏

■ブロック賞

●阿波しらすぎ大橋（徳島東環状大橋）導流板

応募者：(株)住軽日軽エンジニアリング／富岡 仁計

導流板で、風対策、光害対策の二つに対応している。まさに一つの形で複数の要請にこたえる「デザイン」として良い。欲を言えば、しらすぎ橋でもあるので、導流板自体のデザインの自己主張がもう少しあっても良かったかと思う。



(株)住軽日軽エンジニアリング
藤野 保夫氏

●やまびこの家（目神山地域住民集会所）

応募者：関西大学／江川 直樹

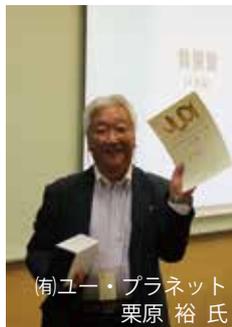
これはやや変わり種の受賞作である。場所は西宮市の古くから高名な高級住宅地の中、それも開発に伴う調整池の上部空間である。地域の集会所を作りたいが場所がない、またフェンスに囲まれ、殺風景な調整池をなんとかしたい、という課題を一気に解決すべく、調整池の上に乗せて集会所を建てた。市からの補助はもらっているが、多くは地域住民から集めた資金で、である。建物はセンス良く、内外ともに軽快で、住宅地景観に良い刺激を与えている。残念ながらフェンスは元のままだ。いずれこれを何とかすれば、当初の目的に沿ってより良くなるだろう。



●横断防止柵およびサポーター [越谷型]

応募者：(有)ユー・プラネット／栗原 裕

「越谷型」と銘打ったからには、越谷市で今後も使われていくのであろう。第一印象は少々ゴツイな、と思った。斜の部分は良いのだが、縦のメンバーが集中する部分がある。鉄だから重そうだし、それが近接して何本もあるものだから、ゴツイな、と思った。しかしながら申請書を見ていくうち、緊急車両対応で着脱できるなど、機能的な要請もあるらしい。そう思ううちに、鉄でしか出せない重厚感が優勢となってきた。重そうだが、頑丈そうとも言える。斜の部分は軽快である。川口市で製作されているという地域性も勘案し、ブロック賞として評価したものである。



■特別賞

●シェルター [越谷型]

応募者：(有)ユー・プラネット／栗原 裕

歩道側、車道側のシェルターを高さ、幅を変えながら同じものと感じさせる、スッキリとしたデザインとなっている。ただ、アルミとスチールのハイブ

リッド構造というのならば、もっとスチールを感じさせるデザインもあったのではないかとも思う。

●TOKYOLIGHTS Four S For S

応募者：前橋工科大学／松井 淳

本作品は、現在の日本の街路灯の中で考えるかぎり最も高品質で最も精度が高いと思う。アルミ押し出し材の支柱にガラス張り、中にLEDが仕込まれ、まるで精密機械のような佇まいでありながら、形態はごくシンプルで昼間は主張することなく、街にとけ込んでいる。しかし夜は表情が一変しガラス支柱のライン状の光が銀座のネオンサインと一体となって街に賑わいを創り出す。



●新潟駅南口駅前広場

応募者：(株)住軽日軽エンジニアリング／富岡 仁計

既存の長大な駅舎の前面にデッキと大きな庇を付け加えることで、古い駅舎のファサードを改変することなく、全く新しいイメージを創り出す事に成功しており、駅舎から駅前広場に至る動線もかなり改善されたことと思われる。バスシェルターもバスの寄り付き動線を考慮した屋根形状としており、乗降時の快適性が高いことが想像出来る。構造物により空間を一変させた好例といえよう。



●近鉄菖蒲池駅 駅前広場 シェルター・サイン

応募者：(株)コトブキ／山室 浩一

遊園地時代とは違って変わった、落ち着いた雰囲気を出す駅前ロータリー。広い空の下にのびやかに広がる建物群の水平ラインを意識したかのような、スレンダーで水平線を強調するシェルター。どんな場所にも適合できる



ニュートラルでシンプルなデザインなのだが、生まれ変わった菖蒲池の環境にうまくマッチしている。

■グッドエイジング賞

●唐木田ガーデンロード

応募者：(株)高橋建築都市デザイン事務所／高橋 志保彦

竣工は1991年。設計者はjudi立ち上げ時の主要メンバーである。当時先端をいくデザインであり、その実現に際し警察対応には大変な冒険をして実現したもの。時間を経て傷んだり、汚れたりといった印象はなく、整備から10年、20年を経て行われた住民ヒアリングにおいても好評であり、樹木は育ちますます素晴らしい空間となっている。緑が豊かなので、維持管理が大変ではと思えば、管理者からは特別な維持管理はしていないが、住民と協調しながら良い環境が保たれているとのこと。これはまさに、「グッドエイジング賞（空間）」だろうと審査員一致の意見を見たものである。

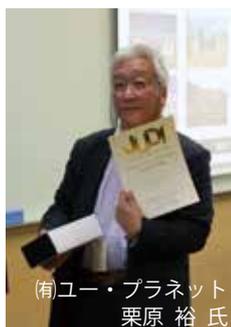


(株)高橋建築都市デザイン研究所
高橋 志保彦 氏：右
(株)国際開発コンサルタンツ
芳賀 稔 氏：左

●河津バガテル公園

応募者：(有)ユー・プラネット／栗原 裕

初めて訪問した時、何故ここにバガテル公園なのか、プチトリアノンなのか、パリの現地にも行った身としては非常に不思議に感じた。しかし、10年ほどたって再訪した時は何故かこれで良いのだと感じた。まさに本物に近いデザインが時代を経てなじんだものといって良からう。



(有)ユー・プラネット
栗原 裕 氏

製品部門・大賞

U字溝用スリット蓋ボーダースリット・センタースリット・バーチカルスリット

製造者：カネソウ(株)



「ボーダースリット」は、排水口となるスリット部を敷地境界際ぎりぎりに設置できるように、受枠側面のフラット化に注力しました。敷地境界側においては、受枠側面から固定部材が境界線より外側に飛び出ないように、プレート状の金具と六角穴付き止めねじを採用し、フラット化を図りました。

よりスリムなスリットを目指して、「ボーダースリット」ではスリット幅100mm、「センタースリット」ではスリット幅60mmとしました。また、スリットを細くした分、排水能力が低下しないよう、一般的にはスリット蓋の両サイドを通し材で受ける構造を、スリット蓋と直交方向数箇所受ける独自の構造とし、開口面積の確保を行いました。

スリット蓋の跳ね上がりやガタツキ音の発生、盗難防止のために、ロック機構を装備しました。一般的なス

リット（グレーチング）のロック方法は、スリットの一部のバーを切り欠き、その部分で六角ナット等を締め付ける構造としますが、スリットの連続的な意匠が崩れます。これに対して、スリットの隙間からドライバーを挿入し、スリット蓋の裏側のロック金具でスリット蓋を固定する構造を採用し、意匠の向上を図りました。

設置される場所の舗装材など周囲の質感・色調に応じてスリット蓋が選べるよう、スリット蓋の材質はステンレス、スチール+溶融亜鉛めっき、鋳鉄の3タイプを設定しました。（30頁：モニターメッセ参照）

舗装空間の美観を崩さないU字溝用スリット蓋の掃除口です。

メンテナンスの作業性が向上
ボーダースリット・センタースリット設置部において、一定間隔で掃除口を設けていただく事で、溝のメンテナンスが容易になります。U字溝の開口幅金具を開放できる構造です。

スリットの材質は選べる3タイプ
スリットは、ステンレス製、スチール製、鋳鉄製の3種類を設定。設置地の状態に合わせて選べます。

ボーダースリット用・センタースリット用用途に応じて2タイプを設定
スリット部を片側に寄せたボーダースリット・スリット蓋をセンターに配置したセンター・スリット・スリット蓋に対応して2つの形状をラインナップ。

設置が簡単
奥側はU字溝にボルトで固定するだけで、簡単に設置が完了。工事の簡単です。

ステンレス製
スチール製
鋳鉄製

ボーダースリット用
センタースリット用

U字溝幅は150、180、240、300の4サイズです。

U字溝用スリット蓋のラインナップ。

敷地境界際に適します。

ボーダースリット
ステンレス製スリット
スチール製スリット
鋳鉄製スリット

プレートタイプ
材料内蔵タイプ

同一舗装面内での排水に適します。

センタースリット
ステンレス製スリット
スチール製スリット
鋳鉄製スリット

建築物の出入口に適します。

バーチカルスリット
ステンレス製スリット
スチール製スリット
鋳鉄製スリット

プレートタイプ
材料内蔵タイプ

集水樹用蓋・掃除口用蓋。

ボーダースリット、センタースリットには、各タイプに集水樹用蓋および掃除口用の蓋をオプションとしておきます。美観をくずさないよう、自然調なとけりしたデザインで、美しく納めることができます。

ボーダースリット・集水樹用蓋
ボーダースリット・掃除口
センタースリット・集水樹用蓋
センタースリット・掃除口



空間部門・大賞

浜甲子園さくら街

事業者：（独法）都市再生機構・西日本支社
 設計者：（独法）都市再生機構・西日本支社、他



浜甲子園団地は、敷地面積31万㎡、150棟、4,613戸の住宅に約1万人が暮らす関西でも有数の大規模団地であるが、その再生にあたっては、郊外型の団地から、都会的な多様性・機能性を備え、広く地域との一体感のある住宅市街地へと、新たなまちづくりを目指すこととし、敷地の再編と併せて、新しい形での積層集合住宅コミュニティの形成が目標とされた。

建て替えによる再生第1期エリア（877戸）では、継続してこの地に住まれる戻り入居住民の、豊かな生活環境の実現にとどまらず、周辺を含む環境の再整備を促す、美しい住宅地景観の創出、愛着の持てる日常生活が結果的にもたらす美しい生活景観、地域住宅地環境の実現を目指し、「タウンスケープをつくる団地再生」をテーマとして、特に「親街路性」や「親空性」の実現をめざして進取的な取り組みがなされ、入居住民、旧団地内住民のみならず、地域住民や社会からも高く評価され、愛される、気持ちの良い住宅市街地環境が実現している。



写真6：近辺の人も通り抜ける中庭

写真7：既存樹木を残した中庭



写真8：通路沿いに降りてくる屋外階段

写真9：同左 人気を感じるディテール



写真10：中庭側通路に軸を振って配された小さな自転車置き場

写真11：専用庭の立面



写真12：沿道にも面し出入り可能な集会所

写真13：同左の住戸玄関

写真14：沿道のピロティ



写真1：低層部とその上のペントハウス状の部分を明確に分け、さらにその上に細い塔状の高層住棟を配し、空と親しい（親空性）タウンスケープを創出



写真2：バス通りには中低層住棟を配し、奥に細い高層住棟を分散して塔状に混在させている



写真3：中層住棟と高層住棟が混在し、横に暴力的に空を切り取るのではなく、浜甲子園独特の美しい気持ちの良い空と親しいタウンスケープを創出

写真4、5：道路沿いにはアクセスの可能な専用庭を配し、住宅毎の個性と生活感の表出する安心安全で楽しいタウンスケープのまちなみ、空間を創出



写真15：上部と明確に分かれた低層部の構成夕陽に浮かぶ沿道型都市住宅



写真16：多様な南ファサード景観

中層スケールの街の表情づくり
 ●既存の集合住宅の高さに沿って階高が上下を明確に区別
 ●小さく分割したユニットが混在し楽しめる



図7：MAガイドライン - 中層スケールの街の表情づくり

製品賞

防災型避難ポール
避難誘導システム (防災型避難ポール)

「避難誘導システム」は、災害や事故から迅速な避難を促すために、サインや照明を兼ねた避難誘導を行うシステムです。避難道のサインポールを取り換え、防災に特化した避難誘導ポールに交換することで実現します。

1 レーザ式ジョイント
 本製品に付属のレーザー式ジョイントは、設置作業が容易で、必要に応じて角度調整が可能です。レーザー式による高精度な位置合わせにより、設置作業の効率化を図ることが可能です。

2 避難誘導ポール
 本製品の特色は、サインポールとサインの両方を兼ね、緊急時には照明として機能することです。この両方を兼ねたポールは、避難誘導と照明の両方を兼ねたポールとして活用できます。

3 サインの交換システム
 「STANDARD」タイプは、標準的な避難誘導サイン（STANDARD）/「FLAT」タイプは、フラットなサインが特徴です。

4 避難誘導システム
 避難誘導システムは、災害や事故から迅速な避難を促すために、サインや照明を兼ねた避難誘導を行うシステムです。避難道のサインポールを取り換え、防災に特化した避難誘導ポールに交換することで実現します。

5 緊急電源システム
 避難誘導システムは、災害や事故から迅速な避難を促すために、サインや照明を兼ねた避難誘導を行うシステムです。避難道のサインポールを取り換え、防災に特化した避難誘導ポールに交換することで実現します。

NO.14 避難誘導システム

竣工時写真 正面 **現在写真 正面 (約9カ月経過)**

竣工時写真 斜めから正面に向かって **現在写真 斜めから正面に向かって**

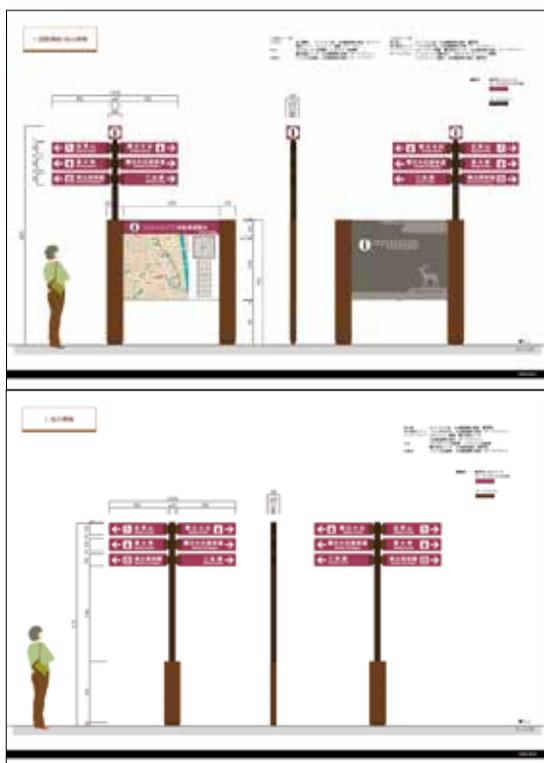
竣工時写真 横から正面に向かって **現在写真 横から正面に向かって**

オレンジ色の箇所が瓦コンクリート (K-グランド CO)。舗装施工計画約900㎡。

瓦舗装断断面図。施工においては全面にワレメッシュを入れて施工した。表面は洗い仕上げとした。

NO.21 瓦舗装材 瓦コンクリート@サイエンスヒルズこまつ

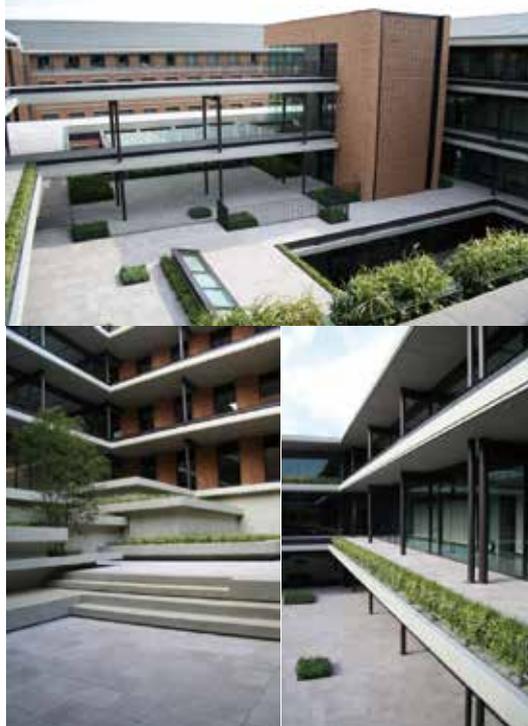
※タイトルの「NO.」は応募番号



NO.22 奈良県 奈良公園 観光案内板



関西外国語大学



NO.26 Float Floor system

空間賞

■影絵デッキより煉瓦倉庫を望む



暗すぎる既存足元灯の外観は残し、内部にパワーLEDとレンズおよび影絵マスクを装着しリユース。大掛かりな費用をかけず、そぞろ歩きの喜びのあるデッキ空間へと再生した。手前遠方の港湾中心部からの視認性を高めるため、煉瓦倉庫は地中からLEDパッドライトでライトアップし、そのシルエットを浮かび上がらせた。

■芝生広場より煉瓦倉庫を望む



にぎわいと涼しさの仕掛けとして、デッキ部にミストを設置し照明演出を行った。滞留の無かったこのエリアに、現在では日常的に子供たちやカメラ愛好者などが滞留している。



■影絵デッキ

本計画の目的である「にぎわい創出」のための仕掛け

子供たちの滞留する姿などがほぼ無かった本エリアであるが、現在では、影絵と並ぶ多くの子供の姿影絵を伝って煉瓦倉庫までそぞろ歩くカップルや若者グループの姿を見ることが出来る。



■エントランス広場

「にぎわい創出」のための「おもてなしのあかり」

現在神戸では、本計画と同様に「ライトアップアート」を設定し、住民共に夜間景観整備に力を入れている。
この広場には、カラーLEDのオリジナル照明を設置し、季節の歳時記に合わせて変化させる。
すべての色光は、濃い色彩で、海戸の花の名がつけられたカラー設定とした。



オリジナルのガラスベンチ

滞留にかかせないベンチが確保であったため、夜間景観整備として、光るベンチを設置した。オリジナルのガラスベンチは、「おもてなしカラー」に可変する。
(現在は資材搬入中)



NO.16 煉瓦倉庫周辺・夜間景観整備

■天空の駅に停車する列車を望む



1両のディーゼル車両が早稲を走る三江線。宇都計駅は地上六階の無人駅。輝く駅に車輪が停車し再び出発する様子は、まさに銀河鉄道。毎年このイベントで最高乗車人数の記録を更新中。2012年には、6500本の光ファイバーを使って5000株の光の稲穂を制作。400mmピッチの特注ストリングス光線に装着した稲穂を1本ずつ田植えのように設置。手作りでは不可能な、大風量が必要だった。

■静かなイルミネーション



満果の収穫を待つ谷筋の集落山に囲まれた棚田の谷では青穂が真っ暗なのでわずかなあかりが際立つ。電源はすべて付近の住宅からドラムで引いており、住民が持ち帰るドラムロールの数は80台を超える。その乗り出しの過程もまた料を深める。



■ここならではの光のオブジェ

邑南町にふさわしい動物みんなの投票で1位はイノシシに。

大人のワークショップで金網のボザイを製作。それにストリングスを巻きつけるのは、各地区の子供クラブ。当日に落ち葉を挟んで完成。30頭が毎年開歩。



■竹ドーム

連ぶのは6人がかり 収納場所は空いてる畑

人生のベテランばかりのアーティストは、農業をはじめとする職能のノウハウが、すべての製作ありで発掘され、そのスピードと精度に感嘆。



■点滅ナン

築しそはアリ

様々なあかりのアイテムは宇都計地区と邑南町の人々で制作。INAKAならではの静かなあかりなので人がエンターテインメントの役目を担います。

NO.17 INAKA イルミ@おおなん 2013 (2010,2011,2012)

※タイトルの「NO.」は応募番号



脇谷水門北上川側(上写真)
脇谷水門ゲート操作機械室詳細
(中写真)
脇谷水門ゲート引き上げ部詳細
(下写真)



鴨波水門北上川側(上写真)
鴨波水門旧北上川(中写真)
鴨波水門ライジングセクター部詳細
(下写真)



NO.20 旧北上分流施設群 (脇谷水門、鴨波水門)

全景↓



ハス越し
の駅舎→

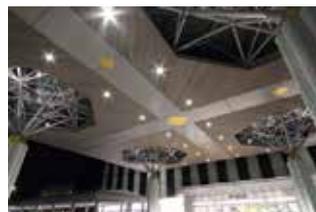


→バスシェルター
越しの駅舎

駅西広場から広岡交差点
方面→



夜景①↓



夜景②↓



NO.24 金沢駅西広場

ブロック賞



- ・阿波しらさぎ大橋は徳島県吉野川の downstream、河口付近に新設された橋梁である。計画時課題となったのが漁業に対する照明問題と、風対策であった。
- ・一般的にこのような橋梁では道路用照明が用いられる。このとき、灯具位置が高くなるため、道路上だけではなく、道路外、橋梁外にも光が漏れることとなる。これは「光害」と言われ問題視されている。本案橋地では漁業が盛んにおこなわれており、この「光害」への対策が強く求められていた。
- ・また、大きな川の河口ということもあり風対策も問題視されていた。橋梁側面に吹き付ける風は、桁を揺らすだけでなく、走行車内にも影響を及ぼす。
- ・ここでは歩道側に設けられた高欄に導流板と下のトップレールにLED照明を内蔵し、高欄のみで上記2点の問題を解決を目指す。
- ・高欄トップレールから10度の角度で取り付けられた導流板はアルミハニカムパネルを使用し、部材自体を軽量化することで、高欄にかかる負荷をできる限り小さくする工夫を施している。
- ・さらに、歩車道境界車向用防濺欄にも防風板を取り付け、歩行者への配慮もおこなっている。
- ・LED照明についても極力小さなスペースで収まるよう、アルミ押出材を用い機能性、施工性を満たす新たな形状を作成した。



NO.11 阿波しらさぎ大橋（徳島東環状大橋）導流板



写真1：調整池の水面上に張り出して建つ地域住民集会所



写真3：外壁と開口部のディテール



写真2：水面上に張り出す集会所の外壁デザイン



写真4：住宅地のまちなみに参加する水面上の集会所

NO.03 やまびこの家（目神山地域住民集会所）

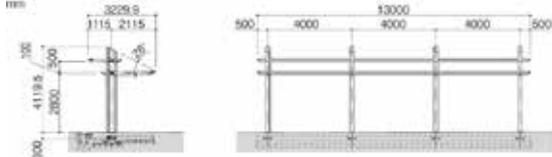
※タイトルの「NO.」は応募番号



NO.09 横断防止柵およびサポーター [越谷型]

特別賞

■詳細図



■提案パース図



■製品概要

1基の全長が13m、柱ピッチ4mの2段屋根タイプのバスシェルターです。バス用の屋根は高さ3.4mに、歩行者用の屋根は高さ2.8mに設定しています。屋根部分はシルバー色に、柱部分は濃グレーを配色したことで、柱の重量感が増し、屋根の軽快さが際立っています。スタイリッシュに仕上がったバスシェルターが空間に溶け込み、先進的なイメージを与えています。



他にも、部材に汎用性を持たせることで、豊富なバリエーションが可能です。上吊りタイプや両支持タイプなど、バスシェルターに限らず様々な用途にお使い頂けます。複数タイプを組み合わせ、空間をコーディネートすることができます。



NO.10 シェルター [越谷型]



NO.19 TOKYOLIGHTS Four S For S

※タイトルの「NO.」は応募番号



新潟駅南口の再開発事業である。ここで評価できる点は、開発エリアはそれなりに広く、ダイナミックな空間とすることが可能であったと思われるが、駅舎は開発前の状況をほぼそのままに用いた点にある。通常、駅前再開発は新施設と旧施設のギャップが大きく、かえって空間のバランスを崩れることが多いが、本件では新施設探求と階段、色調等が過度に目を引くように計画されているため、堂々とした駅広空間に仕上がっている。



NO.13 新潟駅南口駅前広場

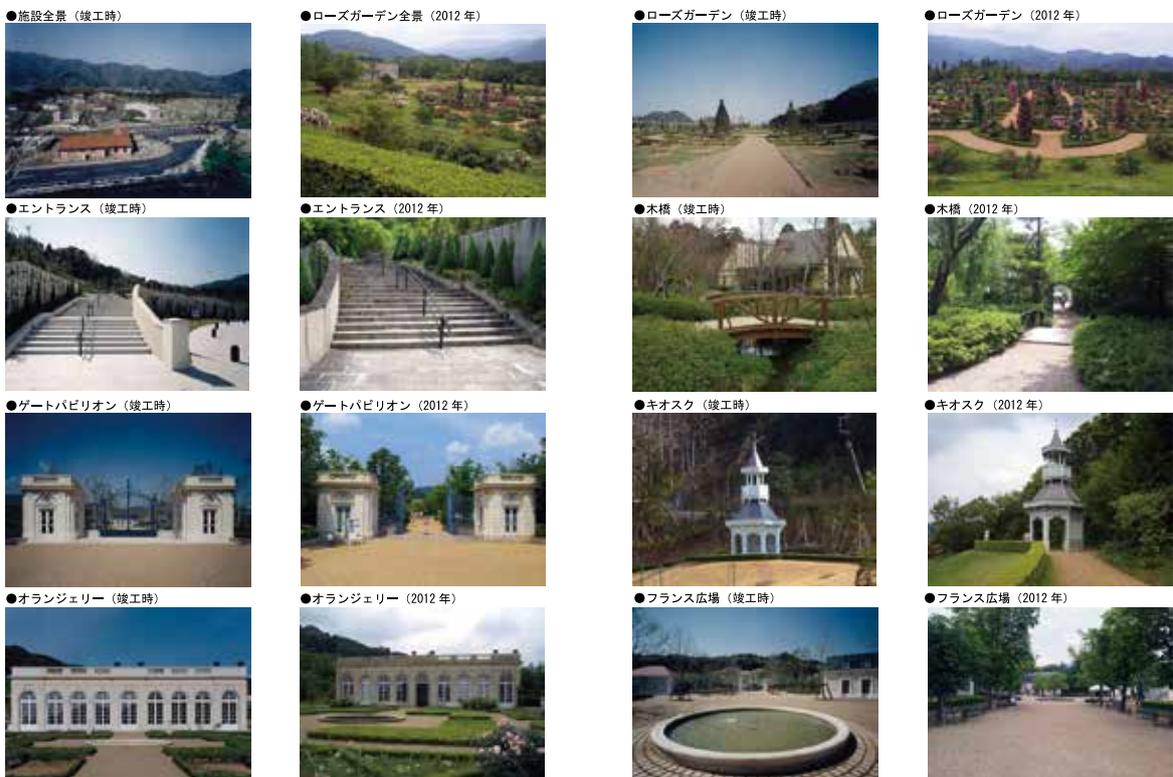


NO.23 近鉄菖蒲池駅 駅前広場 シェルター・サイン

グッドエイジング賞



NO.05 唐木田ガーデンロード



NO.06 河津バガテル公園

※タイトルの「NO.」は応募番号



第2回 JUDI パブリックデザイン賞 作品募集



第1回 JUDI パブリックデザイン賞受賞作品(抜粋)

表彰対象

都市環境デザインやパブリックデザインの質の向上に寄与した製品や空間を、JUDI 都市環境デザイン会議が、第2回 JUDI パブリックデザイン賞として表彰いたします。自薦、他薦を問わず、どなたでも応募できます。

- 舗装、照明、柵、緑化、ストリートファニチャー等の製品
(既製品、標準品、特注品等幅広く対象とします)
- 公共空間、歩車道、ポケットパーク、施設内空地等の空間

※なお、表彰の対象は実際に施工事例があるものとします。

JUDI パブリックデザイン賞

- 大賞 製品部門、空間部門
- 製品賞
- 空間賞
- ブロック賞
- 特別賞
- グッドエイジング賞

応募方法

応募書類をダウンロードし必要事項をご記入の上、下記の宛先に郵送して下さい。

- ダウンロード先 URL : <http://www.judi.gr.jp/>
- 郵送先 〒114-0012
東京都北区田端新町 3-14-6 都市環境デザイン会議
第2回 JUDI パブリックデザイン賞 募集係

受付期間

平成26年4月1日～平成26年7月31日(当日消印有効)

結果発表

平成26年9月(予定)

表彰式

平成26年10月18日(土)(予定)
(2014年都市環境デザインモニターメッセにて表彰式を行う予定)

賞品

賞状及び記念品

主催

JUDI 都市環境デザイン会議 事業委員会
お問い合わせ：TEL 03-6240-8827 E-mail postmaster@judi.gr.jp

後援(予定)： 国土交通省
(公財)都市づくりパブリックデザインセンター
NPO 法人 景観デザイン支援機構

■ シンポジウム 「公共空間のトータルデザインを目指して」

パネラー

- 天野 光一（日本大学理工学部まちづくり工学科 教授）
石橋 隆史（国土交通省都市局公園緑地・景観課 景観・歴史文化環境整備室 課長補佐）
高見 公雄（法政大学デザイン工学部都市環境デザイン工学科 教授）
須田 武憲（GK設計 代表取締役・事業委員長）

コーディネーター

- 伊藤 登（プランニングネットワーク 代表取締役）

※敬称略



【趣旨・スライド説明】

伊藤：今日は、モニターメッセ並びにシンポジウム、パブリックデザイン賞授賞式にご出席いただきありがとうございます。ここから最後のセッションということで「公共空間のトータルデザインを目指して」という題でシンポジウムを始めたいと思います。まずシンポジウムを開催するに至った経緯についてスライド等を用い説明した後、シンポジウムに入りたいと思います。



都市環境デザイン会議ができて以来二十数年経ちますが、その中で事業委員会の取組みとして都市環境デザインモニターメッセを長らくやっております。これは会議のメンバーが自ら社会的専門的なモニターとなり、都市環境製品の開発や素材の供給、技術の開発等に関与する企業の皆様の協力を得ながら、よいモノ作りをしていこうという双方向型の情報交換の場として設定されたものです。

1992年に第1回目を始めて今年（2014年）で23回目を経過、これまでモニターされた製品は272事例を数える、という実績を持ちます。これらの成果は毎年報告書として皆様に届いているかと思えます。

さらに、2011年からはパブリックデザイン賞を創設し、3年ごとに表彰しようというもので、この趣旨はパブリックデザインの向上に貢献している企業、団体の活躍を世界に広め、その取り組みを積極的に支援していこうというものです。第1回のパブリックデザイン賞は製品部門、空間部門で大賞、各賞を設けており、本日ご出席の高橋先生が第1回空間部門の大賞を受賞されております。そして2014年は先ほど製品部門、空間部門で各賞の発表があったわけですが、今回グッドエイジング賞が新たに設けられ、表彰を行った次第です。

■ 第1回パブリックデザイン賞(2011)

製品部門
大賞1点、製品賞3点、
審査員特別賞2点

空間部門
大賞1点、空間賞3点、
ブロック賞3点、
審査員特別賞1点

■ 第2回パブリックデザイン賞(2014)

製品部門
大賞1点、製品賞4点、
ブロック賞2点、特別賞2点

空間部門
大賞1点、空間賞4点、
ブロック賞1点、特別賞2点、
グッドエイジング賞2点

しかしこのような取り組みをしていますが何か美しくならない、あるいは経済活動の低迷も一因かもしれないが、どうも日本の都市空間の魅力というのはさほど上がっていないのではないかと、むしろ低下しているものも多いと認識しています。それについて事業委員会で検討を重ねる中で、いくつかの問題があると認識しております。

モノの問題というのは今挙げた都市環境製品に関わる問題だと思います。また、実際に今日は設計者の皆さんが多く参加されていますが、空間

設計の問題もあろうかと思えます。さらには、パブリックなスペースの設計、あるいはそこに製品を置くとき——例えば道路、川、公園など、目に見えないところで敷かれている制度や基準の問題もあろうかと思えます。一方でそこでお店を営んでいる方や居住者の公共空間への無関心の問題も内在しているのではないかと思います。こういう問題は JUDI の社会的使命として考えていくことが必要ではないかと思う次第です。

■ **モノの問題**

- モニターメッセで洗練されてきた製品群
- オリンピックを見据えた仮設的で良質な製品群の必要性
- ▽まだまだある洗練されていない製品群



■ 削溝製品 (カネソウ) ■ 可動式サイクルポート ■ 車椅子対応トイレ (田中氏)

モニターメッセでは洗練されてきた製品、大賞をとられたカネソウさんの製品のように地道に努力をされよくなってきている製品もあります。昨年からパブリックデザインセミナーを行っていますが、その中で GK インダストリアルデザインの田中さんが、オリンピックを見据えた仮設的で良質な製品群が必要ではないか？例えば可動式のサイクルポートや車いす用のトイレなどといった製品を考えていく必要があるだろうという意見がありました。そしてまた、まだまだ洗練されていないモノが世の中には充満しています。それはモノを具現化する過程であったり、形や色彩の未洗練であったり、モノとモノとの取り合い、モノと空間との取り合いの問題であったり、そういったまだまだ至らない問題やケースが多いという実状があると思えます。

空間設計の問題を取り上げると、他（多）事業との調整、それは空間での調整でもあろうし、事業実施の時期による調整ということもあろうかと思えます。空間といえば道路や公園とかいるんな施設、空間との関係があったり、実施時期になると意外と現れてくるのが設計思想が継

承されない、そしてバラバラな空間になっていくという問題があろうかと思えます。さらには施設設計における空間的視点の欠如といった問題もあるかと思えます。JUDI の皆さんが手掛ける設計は空間系が多いと思いますが、多くの土木系の施設というのは施設設計で発注されていて必ずしも空間設計ではない。でも何かしら施設を設計してモノが置かれるとその周りには必ず空間が生まれてくるはずなので、そういう施設設計における空間的視点にやや欠けているという問題があるように思います。

■ **空間設計の問題**

- ・モノの具象化
- ・関係性の欠如 …



■モノ、空間、場所性、地域性等 トータルな空間設計が求められる

あと、制度・基準の問題として実はモノの形や色彩に大きな影響を与えてるんだらうなと思えます。かつての防護柵の設置基準では形状や色が決まっておき、選択の余地、デザインの余地はないわけですが、これが性能規定に変わることによって新しい形のものが出来るようになります。

■ **制度・基準の問題**

- モノの形・色彩に影響を与える基準類
- ・形態・寸法規定
- ex. かつての防護柵設置基準



■ガードレール、ガードパイプは、基準で決められた形・色彩

また、防護柵だけで取り上げると、景観に配慮する防護柵の整備ガイドラインというのができて、そこでは基準では原則白色と書いてあった防護柵の色を地域に合う色、それが叶わないのならダークブラウン、ダークグレー、グレーベージュの3色から選びなさいという風書き換え

たわけです。そうすると今までの白色のガードレールがグレーベージュに置き換わったり、第1回のパブリックデザイン製品賞を取った車両用防護柵のような新しいモノを作るきっかけにもなります。つまり制度や基準は我々の身の回りにあって見えないが、大きく風景を変えていく力、あるいは規定する力があります。

■ 形態・寸法規定から性能規定へ
ex. 新しい防護柵設置基準



■ 性能規定化されるとさまざまな形態の防護柵を供給可能になる

身の周りにあるもので、たとえば川であれば、河川敷地占用許可準則というものがあります。川岸の際は原則河川敷地の為、使ってはいけないことになっている。鴨川のような昔からの取り決めのある河川もあるが、なかなか川岸をうまく使うことはできなかつた。これが平成23年の改正でいわゆるまちづくりに資するものであればよいという形に変わりました。そうすると広島島の京橋川オープンカフェのように川岸にレストランを営業することができるようになるわけです。

○身の回りにあるさまざまな基準類
ex1. 河川敷地占用許可準則
(平成23年一部改正)
・都市及び地域の再生等に資する目的で
営業活動を行う事業者等への占用を許可



■ 河川空間を活用したさまざまな利用が可能に

道路でも同じように工作物を設置しようとする道路管理者の許可を受けなければなりません。電柱・電線・変圧塔などいろいろなものがありますが今では、バス停が道路占用物から道路付属物として整備できるようになりました。

そうすると建築基準確認や消防法による確認がいらぬなど随分変わる。こういった基準や制度が変わると自由度が増すということが実際にあります。道路、構造令も含めてみると、照明や標識類の基準など様々なものがあります。こういったもの一つ一つを見ていくと、私たちが考える、いいなと思える都市空間あるいは街路空間に変えるきっかけになるものが埋もれているのではないかなと思います。

ex2. 道路占用許可(道路法第32条)
道路に次の各号のいずれかに掲げる工作物、物件又は施設を設け、継続して道路を使用しようとする場合においては、道路管理者の許可を受けなければならない。電柱、電線、変圧塔、郵便差出箱(郵便ポスト)、公衆電話所、広告塔その他これらに類する工作物

例)

- ・歩廊、雪よけその他これらに類する施設
- ・地下街、地下室、通路、浄化槽その他これらに類する施設
- ・露店、商品置場その他これらに類する施設
- ・これらの外、道路の構造又は交通に支障を及ぼすおそれのある工作物、物件又は施設で政令で定めるもの

都市の中には公開空地というものがありますがUDCとの連携事業で「都市の魅力と公共空間活用」という調査を2002年に行っております。この中でどのような公共空間の利用がなされているか日本全国の事例を集めて調査したところ、あまり使われていないのが利用方法や日数に制限がある公開空地です。ビルの事業者さんは公開空地を設けるのはにぎわいの創出のためではなくて容積率を増やすために設けることが多いので、建設許可を得たデザイン段階の形態を保持できればそれでよいという認識がある。

○公開空地の利用規制 - 利用方法・日数に制限

- ・賑わい創出のために公開空地を設けたのではなく、ビルの容積率を増やすために設けたため、建設許可を得たデザイン段階での形態を保持すればいいという意識

UDCとの連携事業「都市の魅力と公共空間活用」(2002)

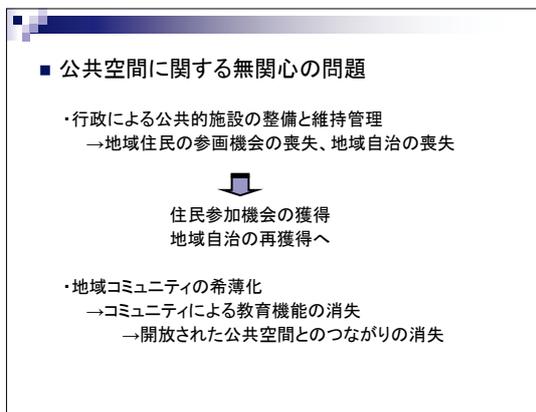
- ・公開空地利用に関する申請手続きの煩雑性の緩和を目的として、東京都は2003年に「東京のしゃれた街並みづくり推進条例」を制定

→事実上大規模再開発に限定

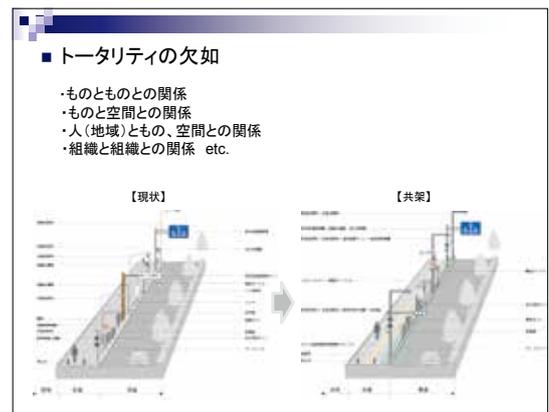
そういう使いにくい状況の中で2003年に東京都が「東京のしゃれた街並みづくり推進条例」、通称「しゃれ街条例」を制定しましたがこれは

手続きの煩雑性を緩和する目的でつくられたものです。実際には大規模再開発で作られたものでしか使えない状況になっている。公開空地もそこで活動する人達がうまく使ってくれば賑わいのある空間に変貌するはず。事業委員会では今、天王洲アイル地区でその取り組みを支援する活動を始めているところです。

次に公共空間に関する無関心の問題ですが、戦後、高度成長を支えるために非常に多くの公共事業が行われましたが、基本的に行政による公共施設の整備と維持管理は残念ながら地域住民の参画機会を喪失させ、地域自治そのものも喪失させたのではないかと思います。最近では住民参加が盛んにおこなわれるようになりましたが、おそらくそれは地域自治を復権する動きになるのではないかと思います。また、地域コミュニティの希薄化が言われて久しいですが、この問題はコミュニティによる教育機能を失わせたことではないかと思うし、都市環境に立ち返ってみると地域の約束事が壊れた、あるいはその約束事が公共空間に深い関わりのあるものだとすれば、その公共空間との繋がりも失われたという問題があるかと思っています。



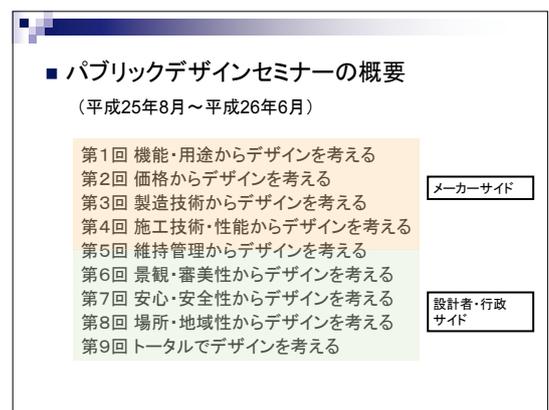
さらには全体でみると日本の都市空間は様々な場面でトータリティに欠けていると思います。モノとモノとの関係、モノと空間との関係、人(地域)とモノ・空間との関係、組織と組織との関係などいろいろな関係があるわけですが、道路一つとっても管理者ごとにモノを建てるとい実状があります。でもそれを整理統合していけば実にすっきりとした空間になるわけです。街路の空間をよくするために皆が協力できたらということを示唆しています。



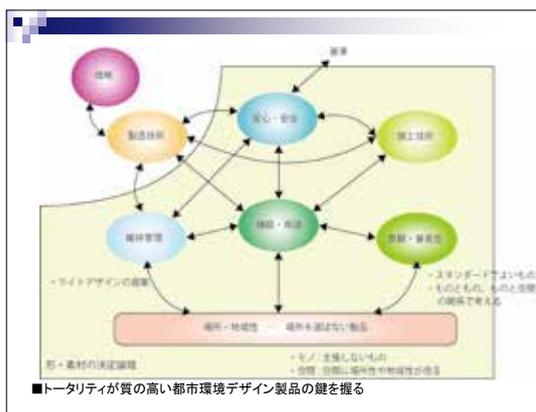
そんなこともあり事業委員会ではパブリックデザインセミナーを開催しました。こういったことを JUDI がやると、景観や地域性の観点から物申すことが多かったわけですが、このセミナーでは価格や維持管理、製造技術・施工技術といった面にも光を当て、メーカーさんとの協力によってより良いものを、さらには質の高い標準品を開発するためには何をすればよいかということを検討してきました。

セミナーは1回から9回まで行いまして、第1回「機能・用途からデザインを考える」、第2回「価格からデザインを考える」、第3回「製造技術からデザインを考える」、第4回「施工技術・性能からデザインを考える」で1～4回目まではメーカーサイドです。5回からが設計者・行政サイドとなり、第5回「維持管理からデザインを考える」、第6回「景観・審美性からデザインを考える」、第7回「安心・安全性からデザインを考える」、第8回「場所・地域性からデザインを考える」、そして全体を踏まえ第9回「トータルでデザインを考える」という流れでセミナーを行いました。

ユニークなのはメーカーさんの開発者を講師と



して招き、設計者が学ぶというスタイルで行いました。そしてその結果、モノには機能と用途があり相互に関連しあって洗練していく、それが製品の素材・形の決定論理だろうとまとめられます。安全・安心というものは国でいえば基準・制度で関わっていくものであるし、最近よく言われる維持管理とはよくメンテナンスフリーというけれども「フリー」は殆どあり得ない話であり、JUDIとしては積極的に「ライトメンテナンス」と呼ぼう、というようなことをやってみました。景観・審美性ではスタンダード（標準品）でよいものを、モノとモノ、モノと空間の関係で考えることが大事だという話、さらにはモノ自体が主張しすぎないこと、そして空間というのは空間そのものに場所性や地域性が宿るものであり、そういう考えでやっていこうという認識が生まれたわけです。



また、この9回のセミナーを通してわかったことは標準品に対して各メーカーさんで様々な考え方がありました。どれ一つとっても同じではなかったように思います。何か新しいことにチャレンジしようと思うと歴史の古いメーカーさんであればあるほど工場の職人さんのいろいろな意識があって、ともすれば保守的で新しい挑戦を阻む要因になっていることもある。そして主張しない製品のデザインは設計者としては取り合わせの自由度が高く関係性をうまくつけやすいということがありました。それを実現するために「JUDIスタンダード」という考え方、これはJUDIが考えるスタンダードに対する要件であるかもしれないし、実際のモノであるかもしれませんが、そういう考え方があるならば各社がまとまって動くことができる可能性

があるという話になった訳です。そのうえでこのパブリックデザインセミナーを行ったわけですが、今後ポストパブリックデザインセミナーにしたいということで、新しい都市空間像を提案していくようなこと、また実に多くの既存ストックがあるわけで、それらを有効に利用していく方法を考えること、また、パブリックな空間、セミパブリックな空間の多様な使い方を考えること、そしてこれらにふさわしい、質の高い標準品を提供する活動が望まれるということになりました。既存の枠組みにとらわれない、新たな都市空間像の積極的な提案は、実は都市環境デザイン会議の重要なテーマだろうというふうに思うわけです。

4.ポスト パブリックデザインセミナーへの期待

- 新たな都市空間像を提案する
- 既存ストックの有効な利用方法を提案する
- パブリックな空間、セミパブリックな空間の多様な使い方を考える
- これらにふさわしい、質の高い標準品を提供する — JUDIブランドの確立

そこで今日のシンポジウムを迎えることになるわけですが、ひとつそういうことを実際に事業委員会の中でやってみようということでコンソーシアムを作る準備会の中でやってみようということで生まれたのがこれらのスケッチです。

これは一般的な片側2車線で歩道（幅員）が6mある街路の空間を絵で起こしたものです。普通にやるとこういうことになるが、よく見ると空間の区分が明快すぎて新たな都市活動を生み出しにくいのではないかという意見が出されました。そう考えると施設と設置する必要性を今一度考えてみてはどうかと思いました。たとえばこの柵は必要でしょうか、低木の植え込みは必要でしょうか、当たり前前に植えている並木は必要でしょうか。もしそれらが制度や基準で決まっていることならば、見直しをすることもスタディとしてはやってみてもいいのではないかと思います。さらに今現在は人口も

減って、免許人口も減って車道空間を減少させる動きが盛んになってきています。



それを先ほどのガイドの同じ幅の中で考えると歩道空間に車道1車線3mを転用し9mに広げています。道路空間のオープン化の展開を踏まえた空間の新しい試みとはどんなことがあるのかを考えた例です。車道1車線を歩行空間に転用して新しい歩道空間を提案する際、支柱類は極力削減し、管理上必要なものは極力共架していくとどんなふうになるのか、また、並木からの脱却を考え、もっと身近に感じられる緑を充実させていくとどうなるか、さらに歩道上に出店できるようなルールなりができるおそらく通過するだけの空間から滞留することのできる空間に変わっていくのではないかと、さらに路上施設の色彩のルールを導入したり、壁面緑化を推進し温暖化対策に貢献していく、等といったことができないかという思いで描いたのが次の絵です。一番手前が仮設可動を視野に入れた庇(オーニング)、多用途のモジュール化されたシェルターです。カフェ的な使い方以外にトイレやバス停などにもなると考えられる。歩道幅員9m、6mについては車道の車線が歩



道的に使えるような装置があれば車道と歩道が可変する空間が作ることもできるのではないかという意見がありました。道路は通行の空間である一方で、様々なものを収容する空間でもあるのでこういうものが地上に出てきて歩道になることも考えられる。

夜についても、新しい照明のあり方を考えていくべきだろうと思います。沿道の施設や路上の施設、あるいは道路施設から漏れた光が都市の空間を照らすような新しい光のあり方を考えていけたらどうかなと思います。シェルターの支柱に照明を組み込んだり、沿道のビルからの光を歩道照明として使うことや、縁石の中にライン照明を組み込むことも考えられる。先ほど支柱類を削減してしまったのでポール照明に変わる照明ということで考えた次第です。こんなことを考えると新しい都市空間のあり方というのは色々あり得るだろうと思うわけで、そこに今日お集まりの皆さんの意見や市民の方、お店を営んでいる方々の意見も入れることで新しい空間のあり方、またそれを実現する方法を見出しければと考えております。



今回のシンポジウムは「公共空間のトータルデザインを目指して」というテーマですが、基本的には既存の枠組みにとらわれない新たな都市空間を実現するにはどうしていったらよいのかをベースとしてこのシンポジウムを進めていきたいと思っています。それではパネラーの方々、天野さんより順番に自己紹介を兼ねて日本の都市空間に日ごろ感じていることをお話ししたいと思います。



【シンポジウム】

天 野：日本大学理工学部まちづくり工学科の天野です。ひらがなで5文字での工学科は多分日本で2番目かと思います。つい2年ほど前につくりました。景観の勉強や研究をずっとしてきて、悪い方向には行ってないかもしれないが、ものすごくよくなったかという非常に疑問な所もあります。みなさんご存知の景観法ができ、景観計画が作れるようになって、大きな道具を手に入れたんですが、さてそれらがどう繋がっていくのが心配なところです。



今日はモニターメッセに続いてということなので少しモノの話をしていただきたいと思います。先ほど伊藤さんの話で紹介のあったガードパイプも開発に関わりましたし、防護柵のガイドラインにも関わりました。話は離れてついでの間、基準をたくさん出している道路協会から出している「道路」という雑誌で「無電柱化に向けて」というテーマで対談をさせていただきました。相手は「電線のない街づくり支援ネットワーク」の事務局長の井上さんという方で、電線や電柱をなくそうという話をしていて、衝撃的な話を聞きました。井上さんは某大学で講義の一環で話をし、100人くらいの学生に、この街並みから電線や電柱がなくなったほうが良いかどうか？というアンケートを行ったところ、彼としては当然8割程度はなくなったほうが良いという答えを予想したが、結果は五分五分だった。なぜかといういつも電線は見慣れているからだという。見慣れていると平気になってしまうというのは大問題だと思います。うっかりすると平気になるんですね。そういう意味では先ほど伊藤さんから話しい

ただいた新たな都市空間の使い方や豊かな都市空間にするためにどうするかという時に、製品も防護柵の話に戻るとあのガイドラインを作るまで、白くて波打ったガードレールが当たり前だったんですね。不思議とも思わない。機能を満足していればよい。多分メーカーさんも基準に合ってるし売れてるしいじゃないかということで、良くしようという努力を全くしていない。やっぱりそれは問題で、基準があるから他のものが作れず仕方がなかったこともあるが、ああいう標準のモノが、基準がなくなりガイドラインが出来ると、白いガードレールはほとんどなくなるし、出来てもグレーベージュやダークブラウンになったりするし、様々な形のガードパイプも増えてくる。標準的でパンフレットに載っていて安い価格で手に入ることが出来てそれに変わっていくと、やはり良いと思うわけですね。

そういう意味では大きく変えることも片眼で見ながら、小さい所を変えると随分違うんじゃないかというような努力をしていくと、実は小さなことでも、場合によっては量も多く出るので日本の都市景観に対する影響は非常に大きい。基本的には物価版に載っており、いいものができるならば多分発注者側も買いやすいし、そういう部分と、ややユニット的には特注だけれどもいいなという両方が必要だなと常々思っております。

石 橋：国土交通省の石橋です。所属は都市局公園緑地景観課景観歴史文化環境整備室という所で課長補佐をしております。役所以外の方には部署の名前を聞いても何をやっているのか分からないと思うので、担当している仕事の話の先にしま



すと、景観法を直接担当する仕事をしておりません。簡単に申しますとよい景観、良い風景を作るにはどうしたらよいのかを日々考えているという仕事なのですが、景観法自体は市街地部というか街中というか、都市景観に限らず自然景観とか農村景観とかおよそ人の目に映るものはすべてが範囲であり、必ずしも都市空間だけを相手にしている訳ではありません。今日は都市空間、特に公共空間ということで呼ばれているのでそういう立場で話が出来ればよいのかなと思っております。

私自身は大学時代の専攻は、建築とか都市計画を専攻してまして、職場も建築職という形で入省しています。どちらかという道路・河川・駅前広場とかそういう世界よりは住宅とか建築物自体を相手にしてきている時間の方が長いので、個人的には景観というと建物を見たり街並みを見たりしてしまうのですが、今の職場に来てから公共施設があったり緑があったりだとか幅広く人々にはいろんなものが映っているんだなど実感しながら仕事をしています。

都市空間について思うことですが、景観法が出来て10周年ということで10年前とどのくらい変わったかみたいな写真を仕事柄よく見ております。そこで感じるのはそんなに悪くはないのかということの一つと、良くもなっていないんだろうというのが一つと思っており、難しいのは地域によってみなさんおっしゃることがだいぶ違っていて、たとえば基本的にはごみごみした空間が日本は多いのでシンプルになったほうが綺麗なんだろうなということも私も思っています。

例に出して適切か分からないのですが、大阪の道頓堀とか新世界はかなりごみごみしていますがその感じが良いと言われていたり、何を以てよい景観かというのが地域によって別れるんだなというのを日々肌で感じています。

最近では全国を回って現場の声を聞いて来いと言われて、自治体さんを回っていてつい先日まで北海道にいたんですが、北海道は農地が多いので都市部を含めてもだいぶおっしゃることが違うし、中々刺激的と言うか、難しいなど思いながら仕事しているということです。皆様と立場も違

うので少し違う観点から発言することもあるかもしれませんが、本日楽しみにしておりますのでよろしくお願いいたします。

高見：法政大学デザイン工学部都市環境デザイン工学科、日本都市総合研究所の高見です。長年まちづくりと言いますか、そういう仕事をしてきております。今日、プログラムには東京工科大学教授、横川昇二と書いてあるんですが、横川さんが急きよ来れなくなったので私がピンチヒッターで、ついさっき言われたわけです。実は今石橋さんが近い発言をしてくださいましたので自信をもってしゃべります。タイトルは「公共空間のトータルデザインを～」ということだったんですが今話せというのは日本の都市空間についてですので、ちょっと概念が広がった中でお話ししたいと思います。



公共空間の外部空間が日本でうまく使われていない所に、ひとつは日本人の習性みたいなところがあると強く思っています。それはまず鼻が良いこと。臭い所が嫌い。従って車が走っている横なんかで外部で楽しんだりしない日本人は、と思ったりするんですね。もう一つ心配をしているのは都市空間という語られ方をする割には地面とそれにくっついたものに関する議論が多くて、先ほど石橋さんがおっしゃったように都市空間という、その壁となっている建物の部分とその間の地面とそれにくっついたもののトータルである上に、今日は来てらっしゃらないですが土田さんなんかはボイドな部分をどうデザインするかが我々の仕事だといつもおっしゃっていたので、全部だと思っているわけですね。それに対して地面とそれにくっついたものの議論が最近先行しているなということを常

に気にしています。

もう一つややこしい話がありまして、だいぶ前のことで JUDI が琉球ブロックを立ち上げたと言って皆でこぞって那覇に行ったことがあった。那覇に行って公共空間の勉強をしようかと思うとやっぱり我々の仲間が結構頑張って作った那覇新都心という所がありますから、そこを見に行けばいいじゃないかと思うんですが、大概のメンバーはそれは勉強として見に行くけども、義務的に終わらせて、さっさと市場に行きたいとか、さっさと集落を見に行きたいということになるわけです。そうすると我々は仕事で一生懸命カッコいいものをデザインしているんだけど、自分は本当はあまりそういうものが好きではないのではないかと最近思っていて、そこはまじめに考えたいと思っていて、自分が作ってきたものは実際好きかしら？と思うようになってきたんです。

で、最初に鼻が良いなんて話も含めて、日本人が街の空間に求めている本質的なものが少しずれているのではないかと最近少し自己矛盾的に反省しており、それが何か勿論わからないんです。ただ私も含め自分たちが作ってきたものが、あまりうまくいってないぞという意識はあって、うまくいってない最大の結果はうまく使われないことです。やっぱり暑いし寒いし風が吹くし雨が降るしで、色々そういうことを考えると外部空間、公共空間を使うのは日本は難しいなど真面目に考えています。

先ほどのセミナーの中で私は地域性のデザインをどう考えるかという回に呼ばれたのですが、地域性は公共空間のデザインで表現できるわけがないという話を延々して、ひとつ思っているのが北海道と沖縄ぐらい極端なところに行くのと違うんですけど、日本中、〇〇ハウスメーカーの同じような家にみな住んでいるわけですよ。自分たちの住む家は地域性も何もないのに、道路の舗装だけ急に地域性を求められても困りますと僕は思っていて、そんなところからスタンダードという話になったんですが、僕もわからないし悩んでるだけなんですけど、なんか割と根本的な議論があるなということが最近感じているところです。

須 田：今事業委員長ということでやっておりますが、GK 設計で公共空間を中心に実際にデザインに関わっております。そういう観点で今回のものを考えていくと、ひとつはとにかく壊されます。我々が作ったものは端から壊される、というのを実感しています。下手すると地震や風の強度よりも壊されないために少し太く作るとか、ゴツくしなくちゃいけないということを実感しながら今までやってきたのでそれが私の思う日本の都市の特徴かな、などと思いながら作ってます。それから責任を取らされるというか取らないというか、とにかくあらゆることに事前に防御するという作り方をしなくちゃいけない状況です。柵なんかはそうだと思うんですが、必要な所にまで安全というか安心を先回りして考慮して作るということや、太くていっぱい出てくる製品群をどうにか納めなくてはいけないということをやってきたところがあります。



この間の JUDI 韓国ツアーに行きましたが、ある崖を登って行ったんですが、一番上の見晴らし台にはすぐ前が崖で川に落ちてしまうようなところなのに柵も無く、しかし世界遺産の村が良く見えるきれいな空間だったんです。そういうのを見ると日本ではこうはいかないだろうなと思ったりしました。

それから、設計の時に必ず「らしさ」を入れると必ず言われます。高見さんが言われるように、「らしさ」って何？と思うわけです。日本の中で「らしさ」を表現すべきなのかどうかを常に感じてまして、そういう意味もあり先ほど伊藤さんが紹介されたような活動を通して制度とか思い込みのようなものを吹き飛ばして新しい自由な都市空間ができればなと思いながらやって

いきたいと思っています。

伊藤：ありがとうございます。4名の方に自己紹介を兼ねてお話を頂きましたが、あまり明るい方向の話題がなかったような気がします。もう少し夢を持ちつつ現実の足元を見つめることが大事なのかなと思います。

石橋さんの話の中で、景観法が出来てよくなったところもあればそうでないところもあるとありましたが、まあそうなんだろうとは思いますが、この都市環境デザイン会議で長年活動されているほぼ全員が、もっとよくなってほしいと心の底から思っているのではないかと、思っているわけですが、その時に、須田さんからは柵の問題や、高見さんからは我々は何を求めてデザインしてるのかという話もありました。柵の問題でいうと柵があることに市民は随分慣らされているなど私も思います。

私自身、縁あって石巻の川まちづくりで堤防のない所に堤防を造らざるを得なくなってその仕事を少し手伝ってますが、水際に柵が欲しいというのは住民ですね。役所が先に言うわけではなく住民が言うということは、確実にそういうものに慣らされているなとつくづく思いました。水辺に下りる階段を川戸かわどと呼んで昔は多くあったんですけど、それを新しく作るならそこにも手すりが必要となるわけです。我々は、こうしたほうが良いんだよということが必ずしも住民には伝わらないという現実があって、ここにおいでの方皆さんも一回や二回ではない経験があるだろうと思うわけです。

そういう現実もある中で、やっぱり魅力的な都市空間あるいは都市環境を作っていくためには何をしたいのかかなというようなことを考えていきたいと思っています。

そこで先ほどの趣旨説明でモノの問題から制度・基準の問題、設計の問題、市民の関心の問題等々例示してあげたんですが、先ほどの天野先生の話の中で基準や制度の話が出たかと思いますが昔実際に建設省におられた天野先生は私が知る範囲では、白いガードレールを変えた等、色々功績がある一方で、視覚障害者用のブロックを黄色にしたというまずい方向での実績もありという天野先生よりその辺のお話をお聞き

できればと思います。

天野：誘導ブロックはごめんなさいですね。当時道路につける誘導ブロック以前に国鉄さんがブロックの基準を持ってまして、それをかなり頼りにして基準を作ってたんです。大体基準ができた時に1年フランスに行ってしまうんですが、行く前に黄色だけは真似すると言ったんですが帰ってきたら黄色に決まっちゃいました。さすがに当時インターネットもなかったので情報を得られず帰ったら分かって大変後悔しました。実は防護柵のガイドラインは伊藤さんにも手伝ってもらいながら決めたのですが、それより昔、標識の設置基準というのがあり、基準には書いてないのですが「道路標識設置基準・同解説」通称「青本」を作るのを手伝ってました。支柱は金属色もしくは白と書いていたのが、白である「が」をつけて、「景観が重要なところでは明彩度の低い色——こげ茶色などを使うことが好ましい」という2行を足すのに2年かかりました。交渉相手は建設省ならいいんですが標識となると某警察さんがいるのでなかなか大変ですが、それでも何とかあります。実は様々なメーカーさんが基準の中で提案するのは当然なんですけど、実は複合化はとても大事で、ポール・柵・照明など含め、みんなで知恵を出し合って、今の基準に合っていないけど面白いものができるんじゃないかということでアイデアが出てくるようになるとすれば基準を変えればいわけですね。

法律（道路法）を変えるのは国会を通す必要があるので大変ですが、基準ならできないことではない。先ほどの「道路標識設置基準・同解説」は解説書の解説文ですので変えればいわけです。解説にある民間ルールのようなことは多くありますが、国交省の方や大学の先生にお願いするなどして努力すればいいんだと思うんです。

そうするとやっぱり（効果が）大きいんです。防護柵のガイドラインにしても大きく変わって来るとは思うんです。メーカー各社が基準に合わないアイデアをばらばらに出しても上司に怒られるので、そういうことを含めアイデアを出し合える場所が必要なんだなと思っております。

伊 藤：ありがとうございます。先ほどの防護柵のガイドラインは内容の検討が半年で終わり、出すのに半年かかりましたが、確かにその手のものは変えようと思うと変わりますね。役所の人が変えるぞと思えば、割とすぐ変わります。

柵を作っているメーカーさんがおられるとすれば歩道橋とか橋につく縦柵の15cmを守って製品を作られていると思いますが、15cmは基準ではなく、解説に15cmが望ましいという表現で載っているものです。その辺のところは何年か前に土木学会の景観デザイン研究委員会の発表会で国土交通省の若手職員が集まり、何が基準で何が基準でないのかを発表しましたけれども、職員の方にもそういう意識、見る目が多分にあり、それによって日本の風景が変わる可能性があることを認識していらっしゃる方もいる。そういう方をもう少し増やしていくという活動は我々にも必要ではないかと思っています。

制度・基準の話は石橋さんからは話しくいところがあるんでしょうけど、省内での話題や地方での動きなどありますでしょうか。

石 橋：立場上、道路法の話はできませんが、基準を変えるのはみなさんが思っているほど簡単ではないのかな？ と思ったりもしますけど、社会的なニーズや時代が変わって技術も変わってくればそもそも基準が変わるのは当たり前の話で、我々の先人たちもたびたび更新して変えてきたんだという認識はあります。

一方で毎年となると社会通念上いいことではないので、おそらく何年かに一度、十何年に一度ということになるんだと思いますが、ニーズをまとめて意見を頂き気運を高めていくことが一般論として大事なのかなと思います。

最近の動きということですが、景観に関する基準でいいますと国の方で運用指針があるのでその改正も考えていかないといけないという話はしています。というのも景観法が出来て10周年ですが、そもそも10年たてば10年前と違った技術やモノがあったり、ニーズが違って来たりしますし、また、当初想定してなかったことも起きてくるというギャップを見ていかなければならないという話をあくまで内々ですがして

はいます。

景観の基準は公共団体さんのほうで定めていただくことになってますので、おそらく事業者の方から言わせるとA市では良くてB市ではだめだと言われたという経験があるかもしれませんが、景観法が出来て10年ということで公共団体さんの方でも勉強されて地域ごとに大分独自性が出てきていることは言えるのではないかと思います。

たとえば京都、金沢のような、いわゆる古い街並みがあるようなところであれば、がんばっているよねというのがなんとなく感覚的にわかるともいますが、普通の市町村においても独自性を出しているいろいろやってきているという点もあるので、そういう意味ではフレキシブルさが出てきているのではないかと思います。

伊 藤：独自性のある基準をもう少し詳しく教えていただけますか、例えばという感じで。

石 橋：たとえばでいいますと典型的でわかりやすいのは高さの規制を厳しく抑える自治体さんがあったりですか、これは当然景観の基準の観点で考えているので、事業性ではなく景観を良くするためにあえて落とすという所があります。あと色彩として企業さんのコーポレートカラーの明彩度を落としてくださいという所もあります。面白い所だと屋根の素材・色などにまで踏み込んで基準を作っているところもあります。

伊 藤：ありがとうございます。よくわかりました。それではつぎに実際の設計の現場でたいそうご苦労されている須田さんにお話しいただきましたけど、端から壊されるとありましたがいたずらの話なんですか？

須 田：はい、バンダリズムです。



伊 藤：それは市民のモラルに関わる問題なのかもしれませんが、そういう所からも少し踏み込んで何が本質的な問題なのか、あるいはその答えを解いて、それをさらに魅力的な都市空間づくりに繋げていくには何をしたらいいのか、お話しいただけますか。

須 田：本質かどうかわかりませんが私有と共有ですね。私有地だったりするととてもきれいに保ったりしますね。お庭がきれいとか。そのわきの道路がゴミだらけという場合があります。共有地に対してあまり関心が無いようなイメージがあります。ですので私としてはなるべくそこの境界を見たとかデザイン上でなくしていくようにして、知らないうちに自分の庭を掃除したら道路も掃除してみたいなデザインでだまそうかなみたいなことをずっとやってます。いくつかやったなかで、集合住宅の敷地内の通路が道路につきあたっていたら、その敷地のペイメントをわざわざ探してきて道路までずっと敷きました。なんとなく手入れしたら道路まで手入れしてみたいな、そういうあいまいにして手入れしてもらみたいなことをやってデザインしてみました。

また、ある都市でサイン計画があったんですが、普通に建てたら何百万もするじゃないですか筐体をつくと。だけど板面だけを民家の壁面に設置させてもらった。板面だけですからそんなに高くないですし、いつの間にかそのうちの人が拭いてくれたりするんです。自分のうちですから。いつもきれいだったりする。

いいのかどうかかわからないですが、自分のモノを大切にしようということを自然に公共空間に出してあげるみたいなのをやりたいなと思ってやっています。

伊 藤：ありがとうございます。公共空間や公共施設を作っているんだけどそれがプライベートまたはセミパブリックに見える工夫を仕掛けている、そんな感じなんですかね。

須 田：はい、そういうことをデザインでやっているということです。

伊 藤：それって日本中そうですかね。せっかく頑張ったものが端から壊されるというのは。あるいは土地利用的な問題でそうなるのかどうか。

須 田：すべてがそうとは思わないですが、基本的にそうです。特に駅前広場だとトイレの中はすべて破壊されます。特に見えないところは。非常にひどいと思ったりしました。

伊 藤：そういう話を聞いていわゆる都市環境デザインに深くかかわり、いまは学生も指導されている高見さんから見て、今のような話を聞いて何が問題なのでしょう。

高 見：今の須田さんのお話を聞いて「なるほどな」と思ったことは、供給サイドがこうあったらいいと思うことよりは、ユーザーサイドが何を求めているか、に近いことをされたのだと思う。それがかなり大事なことだと思う。専門家が「これがいい」と思っても、いつまで経っても受け入れられていない社会を見ると、こっち（専門家）が間違っているのかなと考える一歩退いた考え方が必要だなと思っています。そのいい例が——先ほど出ましたが、ユーザー側の立場に立って、ユーザー側の性質にうまく合わせていくことが必要です。ただ、バンダリズムがこれほど酷いとは承知してなかった。困った国になったものだ。

伊 藤：今、バンダリズムの話が出たますが、そういう経験をお持ちの方、何かありますか？

天 野：逆の話ですが、30年ほど前にフランスに住んでいた時、公衆電話がなかった。お金が入っている箱があれば壊して持っていかれる、それが常識でした。日本では中にお金が入っている箱が普通に街中に置いてある。日本はまだ安全な国だなと思っていましたが、最近の状況を聞いて愕然としています。

もう一つの話で、色々な基準を考える時に、ユーザーは何をやっても安全なようにつくる。隙間が15cmあれば子供が落ちる、そんな風にすり抜けるなよ、と言いたいと言いつらいのが現状です。

伊 藤：それは多分に社会的な教育の問題でしょう。それをどう解決できるか。昔はコミュニティが教えていた。JUDIが正面から扱う問題ではないのかも知れませんが、いろいろ発言していくことの重要性はあると思います。

実際問題、いい街をつくらうと色んな場面で皆さんご苦労されている。そこで江川さん、先ほ

ど住民から表彰されたと言われたが、そういう関係が作れていることは、普通あまりないことなので、その話を詳しく教えてくださいませんか。

江川 直樹（関西大学）：以前、ガムがすぐ取れる舗装材が話題になりましたが、その当時、JRの駅では落書きが取れるパネルで作れという要求が多かった。すると目地が出て思ったような空間にならない。



ある時、西舞鶴駅で壁を漆喰調の塗装でやりたいという要求を出したら、落書きされるからダメだ、と言われた。その時すごいと思ったのは、市長さんが「舞鶴市民のモラルの問題だから、やりたいなら白い壁でいい」と言われた。もし落書きされたら市のお金で消すと言われた。私たちごっこしていたら落書きが治るかも知れない。そして出来てみたら、全く落書きされていない。それは何だろう？

なんとなく我々が防御することにも問題があるのかも知れません。モラルを変えるためにお金を出すことも、真つ当な考え方ではないかと思った経験があります。

住民から表彰された件は、住民とは知り合いでも何でもありませんでした。あのプロジェクトは団地の建て替えて、元々、平行配置で5階建てだった団地をもう少し街らしくしようと、街区型にしたり、色んなことを行いました。保存ではなく、全く新しい街にした。その時に感心したことは、街の人たちが熱心に勉強していたことです。そこは甲子園浜に近く、空がきれいで、海の風が通る、という元々持っていたポテンシャルを今まで以上に感じられるのでとても良い、という評価を市民の方がされた。そこに関係者一同が感心した。仕事でしかできないこ

とも知れませんが、そういう市民の意見を共有できるようにすべきです。これまでは行政が管理しやすく、メンテナンスが楽な仕組みを求めていたが、これからはそこに住む人たちが愛着の持てるものは何か、本当はどうあれば良いか、それを議論する必要があります。最後は住民の人どうして話し合い、結論をだしてもらうことが良いと思います。

伊 藤：そういう意味ではユーザーが求めることをつくった事例だと言えます。

長らく関わられて、本日グッドエイジング賞をお取りになった高橋先生、ご自身が体験されたことで我々のサジェッションになることがあれば教えていただきたいのですが。

高橋 志保彦（高橋建築都市デザイン事務所）：グッドエイジングとは私のことかな（笑）。

かなり長年やってきました。最初はやはり馬車道のことじゃないかと思います。道路交通法で私は警察にしょっ引かれて、逮捕するぞと言われた。そのくらい意識が全く違っていた。それはベンチを置いたから。それから煉瓦タイルを貼ったら学生がそれを取って投げつけるぞ、だからやってはいけないと、そういう状況でした。それを何とかあそこまで持って行った。警察の認識は市民感情とは違う、そこをどうクリアするかということがある。



また、横浜の開港広場を設計した時は、「縁なし池」を作った。たった15cmの深さしかないのだが「溺れるぞ」と市民から電話で怒られた。色んな市民がいる。そこに柵をつくれと。作ったら「無策」になるので柵はつくらなかったが（笑）。

あとは、あそこにミラーを置いたらライトが

光って眩しいのではないかと。そこで現場に大工さんを連れて行って鏡を貼ってみたら、さほど眩しくなかったのが OK となった。

そういうことを積み重ねていかなければならない。新しいことをやるときにはかなり努力が必要だと、これは皆さん知っていると思います。今日いただいたグッドエイジング賞は、まさしく「境界」、道路は道路、緑は緑、住宅地は住宅地で考え方があり空間がある、それぞれが縦割的にデザインする、それを何とかやめようと思って横のデザインをした。車道と歩道の間に植え込みがあるのが普通だが、敷地側にも緑を植えた。それで緑の一体感がでた。これを警視庁に言ったら絶対だめなので、所轄の警察署にお願いして実現できた。

既成の価値観というのがある時に、それでない方がいいのではないかという別の価値観の方が都市景観は良くなると思ったら、一休さんのように頓智を利かせて、やってみたら良かったということは世の中にたくさんあるのではないかと。それを如何に我々専門家が実現するために努力するか、そのようなことを今までやり続けてきた。私も努力するが、皆さんももっと努力していただきたい。

伊 藤：高橋先生の努力は多分にそうであるでしょうし、頓智が利いているのも長い歴史に裏付けられたものですね。高橋先生のみならず、多くの皆さんがそういう場面に出くわしてやっていると思うのですが、これはもっと社会的な動きにならないと、ということが大きな問題だと思う。その辺は天野先生いかがですか。

天 野：どっちがニワトリで卵なのか、という気がしています。どういう空間が心地よいか。私は、ぐちゃぐちゃした北千住に住んで 60 年なので、そういう街も嫌いではありません。だけど全部がそれでいい訳ではない。いい風景は強いと思います。土木学会デザイン賞の調査で山形県の金山町に行った時に、ちょうど小学校の下校時で、小学生が水路に落ちているコンビニ袋を傘で拾っていた。そして、拾ったコンビニ袋を捨てるゴミ箱がないので家に持って帰った。このようなことは身の周りの風景が良くなったから、そういう子供が育つのだろう。そういう子

供が増えれば風景が良くなるだろう。どっちが先でしょう。難しい問題ですが、我々が少しでも風景を良くすれば気が付いてくれる人が増えるはずで、増えてくればそういうことは加速するはず、と思いたい。それが本音です。

伊 藤：それは地域社会の教育の問題、風景の問題、いろいろあると思う。我々のような専門家がそれぞれの立場で活動していても、そういう思いがなかなか形になって行かない面がある。それについてはどうですか。

天 野：いいものが出来ればやる気になるのか、やる気のある人がいいものを作るのか、やってみなければわからない。ただ、やってみた時にかかるお金を誰がどう負担するかが大問題だ。やってみて中途半端にこれでいいやと思わない。精神論だがしつこく粘り強く、絶対あきらめないことが一番なのではないでしょうか。もっと言えば、いいものを作れば商売になって儲かるよ、というプロトタイプを見せてあげないといけない。また、公共空間に関しては、いいものが出来ても誰がやったかわからない。壊れて瑕疵責任が発生すると名前が出て怒られる。いいものができたら褒めることは大事です。伊藤さんが言う「形にならない」のは、形になってもいいことがないからということもあるので、是非、いいことをつくってあげたい。

伊 藤：今回のパブリックデザイン賞は、いいことに対する表彰です。高見さんは今までの議論を聞いて社会的な活動を盛んにするためには如何にしたら良いか、ご意見をください。

高 見：活動すると盛り上がるかということ、そうでもない気がしています。我々が真摯に考えなければいけないこととして、長持ちしなかったのは良くなかった、と思ったほうが良い。建築物でも長く使われたものは、きっといいから壊さなかったもので、出来が悪いものはすぐ壊された。公共空間はもっとそれが求められているので、整備しても 10 年後に改造されたら失敗したから変えられたのではないかと。作った空間がユーザーにうまく使われて、いいものができたからいい子供たちが育つ、そういう喜びを我々が求めるべきです。性善説ですが。

伊 藤：この件に関して須田さんはどうですか。

須田：作ったそばから壊された私のものは出来が悪かったと言うことでしょうか（笑）。

私はこの仕事をしていて思ったことは、このイメージCGのように、花屋さん前で花屋さんが勝手に歩道に花を飾り、植栽帯に木を植えることで歩道空間が華やかに変わっている。これをみんなでやったらすごくきれいな街になると思います。花屋の前で、カフェの前で、洋服屋の前で商売ができれば、それぞれの店の領域できれいに使うだろうから、それで街全体がきれいになるのではないのでしょうか。

伊藤：これは須田さんが監修して作成したCGです。ある意味、須田さんと事業委員会の想いが入った絵になっています。また、吉田愼悟さんがカラーコーディネートをやりました。今の制度や基準で実現出来る訳ではないが、こういう考え方を提案していくことの意味は大いにあると思っています。こういう提案に対して国交省はどう思われるか、提案は提案として有り難く受け取ってもらえるものか。石橋さんいかがですか。個人的な見解で結構です。

石橋：国土交通省としても提案をいただくことは基本的にウエルカムだと思います。普段、デスクワークをしていると現実のニーズが分からないという面があるので、情報をいただけることは極めてありがたい。ただ、それが100%反映されるかというと、それはまた別の話になります。正式な提案でも良いが、事前の情報提供でネゴシエーションしていただくとなお良い。

個人的な見解としては、基準を変えることは大変だが、世の中をあるべき姿にしていくことが我々の仕事でもあるので、皆さんの考えに沿うように頑張りたい。

伊藤：この絵について、もっとこうしたらと言うご意見、逆にこんなことしたら怒られるというご意見もあるかと思いますが、会場からご意見を伺いたい。宮沢さん、いかがですか。

宮沢 功（Y P D E S I G N）：高見さんの話にあったが、自分たちが設計しているのは綺麗でいい街だが、自分たちが「ほっと」しに行くのはそういう場所ではない、これがキーワードだと思います。私が沖縄や地方都市で「いいな」と思う場所は、長い期間存在しているところです。そ



れは設計者がつくった場所ではなく、地元の人につくられた場所です。街の中は、設計図を引いて、条件をクリアして、地元の人のお話を聞いてつくったとしても、育まれていないため違和感があるのは当然です。景観デザインのプロセスの中に「育てていく仕組み」のようなものがないといけない。この絵の通りできたとしても、少しずつ変わっていくだろう。街の営みの中には色んなシガラミがあり、それが心地よい空間をつくる要因でもあります。だから、設計レベルでつくるものと、街の人たちが一緒になって育てていくプロセスとがつながるような方法論ができるとうまい。

自分の関わった街が変わってくると嬉しい。富山ライトレールの体験では、地元の見解の最大公約数に自分たちの想いを重ねて作りました。10年ほど経過してみると、当初の意図と違う使われ方になっていたりするが、実はその変化がうれしい。うまく使われるということでもあります。その切っ掛けを我々は作っているのです。その所がうまくでてくるといい。

また、良い景観とは人それぞれにイメージが違ったり、またシチュエーションによっても違ったりけれども、どっか押さえておかなければならない因子があると思います。それも皆さんと一緒に発見したいと思っています。

伊藤：示唆に富むお話をありがとうございました。次に、栗原さんいかがですか。

栗原 裕（ユー・プラネット）：一般的に、駅前広場では植栽に獣道ができる。人の動線が遠回りになるため、歩行者は植栽帯を突っ切って歩くようになる。対策として植栽帯を30cmほど高くした

が効果がなく、横断防止柵をつくってようやく低木が育った。我々が考えることと住民が考える使い勝手は違います。行政も低木の剪定や草取りは地域の自治会に委ねれば良い。そうすれば愛着が持て、街もきれいになる。昔は商店街の人たちがほうきで道を掃くような文化がありました。JUDIとしてもハードだけでなく住民と一体となって街を育てることが必要です。



伊藤 藤：実際そこに住む人たちが使いこなしていかなければ、そこに根付くことなくそっぽを向かれることになる。従来型の公共事業では、住民に事業の説明はするがそこから意見を拾うことはなかったもので、それが住民の公共空間に関わる機会を奪ったことは事実です。今は意見を聞くようになっているので、その機会をうまくつかまえて、彼らにいい形で関わってもらうことが必要だと思います。JUDI会員の松山さん、どうですか。

松山 茂 (都市空間研究所)：私はものづくりまで関わることは少ないが、計画段階ではつくるだけでなく最後の管理まで提案します。設計段階や工事の段階では最後の管理や育てていくという部分は切り落とされることが多い。モノづくりの側



から育てていくという考え方が出たことはいいと思います。また、高見さんが言われた自分たちがつくったところが行きたいところではなく、住民が長い時間をかけて育てたところに行きたいというのは興味深いところです。設計者やデザイナーも学ぶ必要があります。

伊藤 藤：高見さんの言われたことは強烈に皆さんに響いています。計画された街は、多分に分かっていて面白くないのでしょうか。深みがなく簡単に了解できてしまう。それが、知らない街や集落に行くとなんか何故こうなっているのか分からないし、興味があるからそっちへ行ってしまおうのでしょうか。学会や業界の大会の時に、発表会はそうそうにして面白い街に出かけることはよくありました。さて、折角の機会ですからもう少し会場から意見を…八木さんどうですか。

八木 健一 (八木造景研究室)：とても興味深いお話が続いていて楽しい。かつての自分の経験をひとつ話します。設計する時に色んなメーカーさんとお付き合いしますが、オリジナルなものを提案することが多い。ところが出来てみると似て異なるものになっている。例えばベンチですが、提案したものとは違うメーカーのものになっている。照明灯も丸ポールの提案が四角ポールになっていたりする。舗装デザインもパターンや色合いが異なっていたりする。何が問題かというと、我々設計者に工事の監理をやらせてもらえない。そこが悩ましい。出来てみると、設計意図と異なるので面白くないという不満が残る。もう少し設計者やデザイナーが現場に関われる仕組みができないものではないでしょうか。



伊藤 藤：基本的には土木の問題ですね。建築は設計監理が普通にできている。建設省におられた天野さ

ん、なぜ土木では最後まで面倒を見させてもらえないのでしょうか。

天 野：施工を発注する時に、その後ろにデザイナーがいて監理しないといいものがない、と思っている人が極めて少ない。施工は施工で発注してしまえば、ゼネコンが施工図面を作ってやってくれる。まず、設計と実物が変わったことに気が付いている人がいない。デザインそのものは、成果として受け取ってしまえば、どう変えてもいいと思っているふしがある。そうではなく、デザインは「@マーク」が付いているはずだが、あまり認識されていない。最近は変わってきているが、甲と乙の関係で、乙の成果は全て甲に属すると特記仕様書に書いてある。デザインも甲のものだからどう変えようとかまわない、という意識があると思います。

伊 藤：建築の仕事のやり方を見ていると、ちゃんと図面をかいているようで、最後の最後まできっちり書いていない。それは、設計監理の段階で何とかできるという逆の思いがあって、意外とアバウトなのではないでしょうか。それが土木では、最後までミリ単位でコントロールしていて、この通りつくってもらえば良いという状態で渡している。それが変わってしまうのは、時に、役所が使っているVE（バリュー・エンジニアリング）の手法によって、コストの安い方法を施工会社から提案されると、考えが至らない担当者はそれを受け入れてしまう可能性がある。その辺は、石橋さん、何かお聞きになったことがありますか。

石 橋：私は発注する部署にいたことがないので、具体的なことは承知していません。

高 見：ここに人たちは意識の高い人ばかりだから経験があると思いますが、そのようなことは我々はボランティアでやっている。発注もされていないのに、施工段階で現場を見せろと言って、口を挿んでいる。それがどうしたら仕組みにできるかということではなんでしょうか。

伊 藤：小浪先生、何かアドバイスはありませんか。

小浪 博英（国土政策研究会）：私が川崎の都市開発審議会長のころ、土田さんが川崎の景観審議会長をなさっていた。その時に思ったことは、土田さんのご意見が私の方に伝わってこない。どこで

どう消されているのか。むしろ私の方から景観、環境の皆さんに問い掛けていた。言い換えると市役所の意識が低い。景観や環境の審議会の皆さんにJUDIが働きかけをすべきだと思います。



曾根 幸一（環境設計研究室）：川崎市は私が委員長をやって、土田さんは野党でしゃべっていた。その後倉田さんが引き継いだ。川崎市はよくやっていると思います。今日は石橋さんが見えませんが、国交省は横の串がない。都市局という部署はあるが、権限がすべてそこに集まって街が出来ていくわけではなく、みんなお団子に入ってしまう。道路とか、河川とか、住宅とか。それぞれの部署の繁栄を願うので串のことを考えなくなる。だから、先ほどの発注の問題も難しい。今のところはボランティアでやるしかない。発注の時は土木事務所からになるので、我々建築家は下請けになる。我が国は横つなぎの仕組みがうまく機能していない。お団子にいる人たちが景観問題を扱っている以上はやむを得ないと思っています。小浪さん補足説明してください。



小 浪：さっき西舞鶴の話がありましたが、やはり首長の考えがすごく効くんです。場合によっては、

本日の表彰にどこかの首長がひとりふたり来るような、そういう運営の仕方もあるのではないかと、という気がします。

伊 藤：設計監理、工事監理ができない話はその通りですが、かつて私は2度ほどやらしてもらったことがあります。それは、業務としては出ないので、実態としては施工会社の契約の中に小構造物設計のような工種が加えられていて、その中で私がデザイン監理を行いました。最近、プロポーザルの時に、デザイン監理をやるということを書くこともできます。

栗 原：土木の世界は発注者が役所です。明治から役所が内部で設計していました。震災復興でも隅田川の橋は、設計者は東京市橋梁課であるように、内部に設計者がいました。今は、内部に設計できる人がいない。土木設計は建築と違って著作権がなく、あくまでも設計補助という形で業務発注されているという位置づけであり、設計者は役所なんです。だから監理も自分たちで行うという考え方です。うちは土木設計事務所ですが、土地区画整理事業の中で毎年監理業務をやっています。組合発注だからそれができる。今後、いいものをつくるためには土木も監理業務をきちんと発注する仕組みが必要です。

伊 藤：曾根さんから団子と串の話がでましたが、今回のシンポジウムで、モノと空間の関係、空間と空間の関係と言ったのは、まさに団子のせめぎ合いのような話で、それを横につなぐ串がうまく通らないものだから、公園と道路、街と公園がうまく取り合わないのだと思います。ただ、それだけではだめなので、私たちが社会的な運動を実践していくべきです。それで、パブリックデザインセミナー以降、事業委員会を中心として検討を進めて来ました。そのところを須田さん説明してください。

須 田：お手元の資料で「JUDI パブリックデザインコンソーシアム 設立趣旨」というA4の紙を一枚配っていますので、こちらをご覧ください。(設立趣意書参照)



須 田：この場を借りて設立宣言を行います。興味のある方は是非ご参加ください。先ほどから話題に

なっている様々な課題を解決する活動体として、今後、取り組んでいきたいと考えているので、よろしくお願いします。



伊 藤：この件について、代表幹事会はどのように考えているか、高見さんから解説してください。

高 見：代表幹事会でも議論をしています。気になる点がないわけではないが、JUDIで活発に活動している人たちが、今、こういうことが必要と行って行動しているということについては、代表幹事会は是非進めて欲しいと思っています。変に問題点をあげても当たるか当たらないかわからない。少なくともJUDI全体が低迷していることは周知の事実であるので、その中で意欲的な活動が出てくることについて歓迎し、支援したい。

伊 藤：時間も押してきたので、パネラーの皆様为本日のシンポジウムを振り返って、天野さんから順番に一言ずつ感想をいただきたい。

天 野：私が景観の勉強を始めたのは40年近く前のことです。その頃を考えると、こんなにたくさんの方が集まって、このような議論ができるとは思っていなかった。そういう意味ではすごく進んできた。日本の公共空間も質の高いものが出来ている。少し恰好を付け過ぎて、いつも正装していないといけな風潮があるが、もっとTシャツと短パンでもいい。それに加えて言うと、土木の標準品、特に物価版に載っている製品の質が上がると、景観に与える影響が大きい。柵やポールや照明のメーカーが単独では限界があり、みんなで考えるともっといいことがある。そういう意味で、このような法人格を持った集まりの中で、メーカー間も横串を刺して豊かな都市空間ができるものや使い方を提案していく

といいと思います。

石 橋：皆さんの悩みの話がありましたが、これまでやってきたことにはこれまでの成果があり、今後まだまだ頑張れることがたくさんあると感じました。気を引き締めて前向きに受け止めました。この絵のように、既存の発想にとらわれないものが出てきているということだけでも、充分面白いと思います。裏を返すと、宿題をもらったようで少しプレッシャーを感じます(笑)。

また、役所の横串という言葉も出ましたが、そのことも徐々に突破したい。私が入省してからも雰囲気がいぶ変わってきたと感じている。特に、景観などの横断的で連携しやすい分野では前向きに頑張っていきたい。

高 見：モニターメッセはほぼ毎年出ているが、この期に及んで参加される企業さんが持って来られるものはいいものばかりです。20 数年前とはずいぶん変わった。昔は我々 JUDI が上から目線で意見していたが、もはやそんなことを言う所はない。その一方で、我々が成長したかということでもない。その反省点が見えたと思います。もうひとつ前向きのことを言うと、JUDI という専門の色んな人が集まって議論する場はいいなど改めて強く思いました。こういう場をつくった事業委員会にお礼を申し上げる。

伊 藤：そろそろ終了の時間となりました。今日は、実は古いテーマを扱ったのではないかなとも思います。でもそれが今日的な意味もあるので、これから力を入れて、ここにいる皆さんと共に解決していくという取り組みの確認ができました。その上で、もっと手軽に活動できる新しい「JUDI パブリックコンソーシアム」という活動体が産声を上げることについて、事業委員長の須田さんから説明がありました。今日、皆さんの様々なご意見をいただきましたが、時間はかかるかも知れないが、できることから解決するような活動につなげて行くことができれば良いかなと思いました。これで今日のシンポジウムを終わりたいと思います。参加された皆さま、ありがとうございました。



各位

新たな時代の都市空間像を実現する活動体

一般社団法人

「JUDIパブリックデザインコンソーシアム」設立趣旨

概要

JUDI都市環境デザイン会議（日本学術会議協力学術研究団体）は、1991年の設立以来、わが国の都市環境デザインを取り巻く諸問題を解決し、よりよい都市環境を形成していくために、全国10のノック活動を主体に、調査、研究、出版、シンポジウム開催、優れた空間・製品に対する表彰等を行ってきました。

事業委員会では新たな時代の都市環境像を実現するための提案、JUDI、製品展覧など、より踏み込んだ活動を具体的に行う、プラットフォームとしての活動体が必要との結論にいたり、ここに一般社団法人「JUDIパブリックデザインコンソーシアム」を改称する事に致しました。

基本理念

当法人は、放置すれば衰退する一方のコアの都市空間の再生や、少子高齢化に伴う中可交通量の低下による道路を含めた公共空間の再編成を見据えて活動いたします。広く学識者、行政、市民、デザイナー、製品メーカーからの意見をとり、現状の問題点を仕組み・モノ・地域自治の観点から洗い出し、2020年東京オリンピックを契機とする新たな都市像と、それを可能とする制度や空間、製品等の社会的な提案を行ってまいります。

活動内容

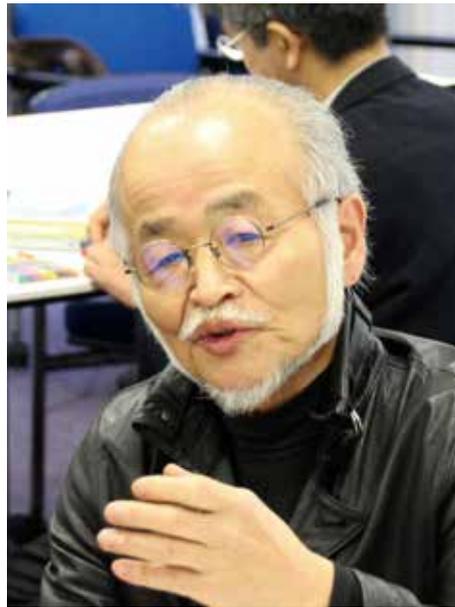
「JUDIパブリックデザインコンソーシアム」では、主に以下の活動を行う予定です。

- 新たな時代の都市環境像に関する研究・検討と社会への提案
- 既存社会基盤等の有効活用に関する研究・検討と社会への提案
- 質の高い新たな都市環境デザイン製品の研究・開発
- JUDIスタンダードブランド製品のブランド確立と普及による良好な都市環境の形成
- 市民・学識経験者・専門家・企業・団体の連携推進に関する事業
- その他前各号に定める事業の関連する事業

詳細については追ってご案内いたします。本趣旨にご賛同いただき、広く皆様のご参加をお待ち致しております。

2014年10月18日
JUDI都市環境デザイン会議
事業委員長 須田 武典

■ 追悼企画 横川昇二さんを偲ぶ



都市環境デザイン会議設立当初から活躍され、代表幹事、事業委員長などを歴任し、JUDIを支えてこられた横川昇二さんが2014年11月23日に逝去されました。

横川さんは1991年に出版されたパブリックデザイン事典の編集委員会で中心的な役割を務め、社会に広くパブリックデザインの意義を広め、その質の向上に尽力されてきました。また事業委員長の時には、パブリックデザイン賞を創設され、2011年に第1回の同賞審査委員長として、都市環境デザインに関する空間や製品に改めて光をあてる仕事をされました。まだ暑さの残る2014年9月に本賞第2回の審査会に参加され、審査の責務を果たされたが、これがJUDI活動の最後になりましたことは残念でなりません。

私たちは横川さんの提唱されたパブリックデザインという概念と領域をより高め、広めていくという志を継承することを誓うとともに、ここに謹んでご冥福をお祈りいたします。

事業委員会一同

■ 横川 昇二さん 略歴

- 1949年 山形県米沢市生まれ
- 1973年 東京藝術大学美術学部工芸科デザイン専攻 卒業
- 1975年 東京藝術大学大学院美術研究科ID専攻 修了（芸術学修士）
- 1977年 東京藝術大学美術学部デザイン科（非）講師
- 1984年 株式会社横川環境デザイン事務所 設立（代表取締役）
- 1993年 東京大学農学部森林風致計画学研究室（非）講師
- 2004年 都市環境デザイン会議 代表幹事（～2008年）
- 2009年 都市環境デザイン会議 事業委員長（～2012年）
- 2011年 東京工科大学デザイン学部教授
- 2014年 11月23日 逝去

■ JUDI都市環境デザイン会議での役職

1994年7月～1998年7月 関東ブロック幹事

[第4期～第7期]

2002年7月～2004年7月 関東ブロック幹事

[第12期～第13期]

2004年7月～2008年7月 代表幹事

[第14期～第17期]

2009年7月～2013年7月 事業委員会 委員長

[第19期～第22期]

2013年6月～2014年11月 事業委員会 委員

[第23期～第24期]

2011年 第1回パブリックデザイン賞 選考委員長

2014年 第2回パブリックデザイン賞 選考委員

■ 所属団体

日本デザイン学会／土木学会／日本造園学会／

環境芸術学会／都市環境デザイン会議／

景観デザイン支援機構／公共の色彩を考える会

■ 主な業務実績

1984年 東京都台東・墨田両区共同事業「桜橋」及び
「親水堤」実施設計

1987年 東京都台東区「上野駅前ペDESTリアンデッ
キ計画」実施設計

東京都大田区「蒲田東口シンボルロード計
画」実施設計

1990年 東京都世田谷区「太子堂小周辺道路環境整備
(烏山川)」実施設計

東京都「多摩川中流部橋梁群意匠検討」基本
設計

1992年 神奈川県「相模大野駅周辺環境デザイン誘導
等指針検討」調査

愛知県名古屋市「有松地区デザインガイドラ
イン作成」

1994年 東京都大田区「京浜蒲田商店街アーケード」
実施設計

1996年 東京都台東区「六区ブロードウェイ商店街環

境整備」実施設計

1998年 三重県桑名市「播磨地区景観形成方針策定調
査」基本計画

1999年 東京都台東区「中通商店街；第二次モール化
事業・アート計画」

2001年 東京都大田区「逆川沿道整備」基本計画

2004年 東京都大田区「蒲田東口地区まちづくり協議
会」運営 他

■ 論文・著書等

1981年 日本デザイン学研究『外部空間構成に関する
研究Ⅰ：歴史的町並空間の考察を通して』
[雑誌掲載]

1981年 日本デザイン学研究『外部空間構成に関する
研究Ⅱ：歴史的町並における境界域の空間利
用を中心として』[雑誌掲載]

1983年 日本デザイン学研究『隅田公園活性化に関す
る研究－1：歩行者専用橋(桜橋)・構想化プ
ロセス研究を通して』雑誌掲載・稲次敏郎氏
と共著]

日本デザイン学研究『隅田公園活性化に関す
る研究－2：歩行者専用橋(桜橋)・親水堤の
デザインを通して』[雑誌掲載・稲次敏郎氏
と共著]

1984年 日本デザイン学研究『景観における色彩の役
割－1：連続性と多色性による景観分類』
[雑誌掲載・尾登誠一氏と共著]

1985年 日本デザイン学研究『徽州民居に関する調査
研究－1：天井・庭院・園林の関係』[雑誌
掲載・稲次敏郎氏他と共著]

日本デザイン学研究『徽州民居に関する調査
研究－2：天井・庭院・園林の関係』[雑誌
掲載・稲次敏郎氏他と共著]

日本デザイン学研究『徽州民居に関する調査
研究－3：天井・庭院・園林の関係』[雑誌
掲載・稲次敏郎氏他と共著]

日本デザイン学研究『徽州民居に関する調査
研究－4：天井・庭院・園林の関係』[雑誌

- 掲載・稲次敏郎氏他と共著]
- 1987年 日本デザイン学研究『景観における色彩の役割-2-1:環境に対応する鉄塔の色彩計画を通して(1)』[雑誌掲載・尾登誠一氏と共著]
- 日本デザイン学研究『景観における色彩の役割-2-2:環境に対応する鉄塔の色彩計画を通して(2)』[雑誌掲載・尾登誠一氏と共著]
- 1989年 日本デザイン学研究『外部環境の切り口』[雑誌掲載]
- 日本デザイン学研究『桜橋と親水堤』[雑誌掲載]
- 日本デザイン学研究・特集号『メディア景観の考察:都市環境を形成する広告・看板・情報の課題』[雑誌掲載]
- 1992年 『パブリックデザイン事典』[共著・産業調査会出版]
- 1993年 日本デザイン学研究・特集号『景観とデザイン、公共のデザイン』[雑誌掲載]
- 1994年 日本デザイン学研究・特集号『公共のデザイン<みち>づくり』[雑誌掲載]
- 日本デザイン学研究・特集号『土木構造物と景観デザイン:環境、景観、デザイン』[雑誌掲載]
- 1996年 『まちに顔をつくる』[共著・建設省都市局区画整理課監修(財)UDCC編]
- 1997年 『環境色彩-第4章環境計画』[共著・東京商工会議所]
- 2000年 日本デザイン学研究・特集号『都市環境のレジビリティとアンビギュイティ』[雑誌掲載]
- 日本デザイン学研究・特集号『<みち>づくり:公・共・私の関係の考察』[雑誌掲載]
- 日本デザイン学研究・特集号『メディア景観の考察 都市環境を形成する広告・看板・情報の課題』[雑誌掲載]
- 2004年 土木施工『風景と土木 「環境色彩」から考える風景・景観』[雑誌掲載]

- 2006年 『日本の街を美しくする』[共著・学芸出版]
- 土木施工『橋の魅力 既設橋梁との向き合い方 ディテールから考えるメンテナンスの美』[雑誌掲載]
- 土木施工・特集『風景と土木及び特集-橋の魅力』[雑誌掲載]
- 土木施工『私論・試論 既設橋梁との向き合い方 - ディテールから考えるメンテナンスの美』[雑誌掲載] 他

■ モニュメント作品

- 1989年 蒲田駅東口広場モニュメント『上昇気流』



- 1991年 上野駅前ジュエリーブリッジ(ペDESTリアンデッキ) 日、月、火のモニュメント

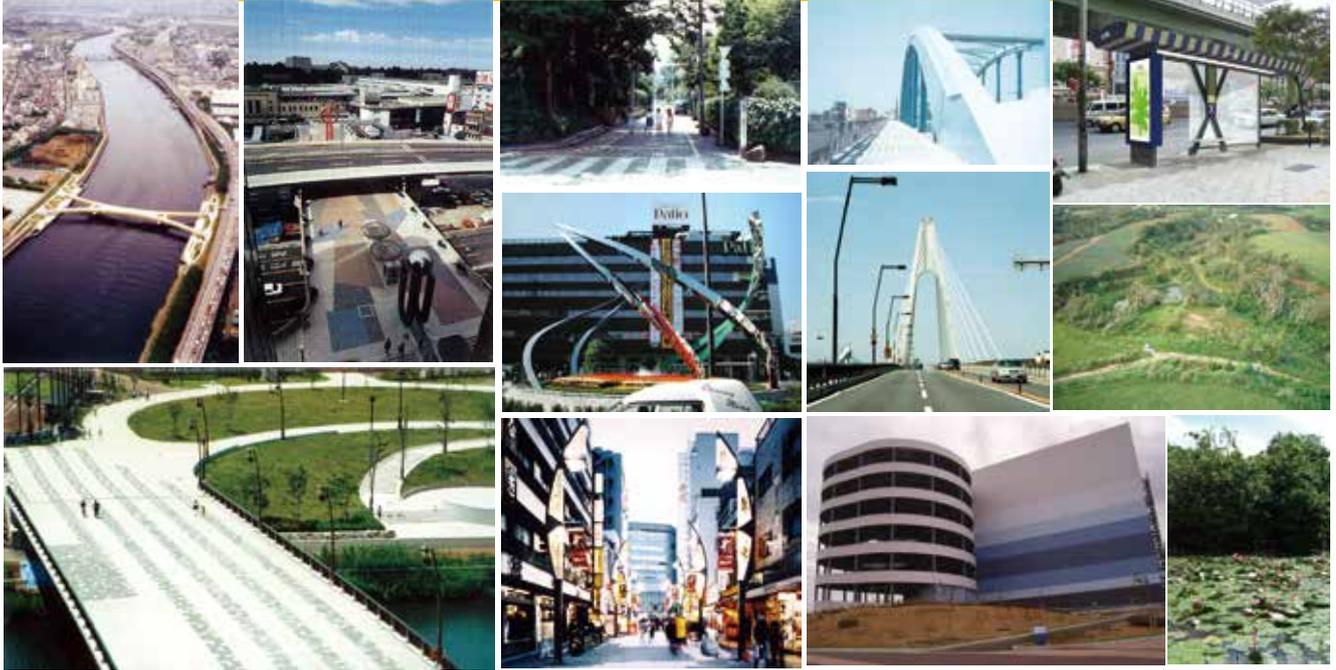


- 2008年 新横浜ニューシティアリーナタワー 屋外立体作品・屋内壁面作品



横川昇二氏の仕事・今昔

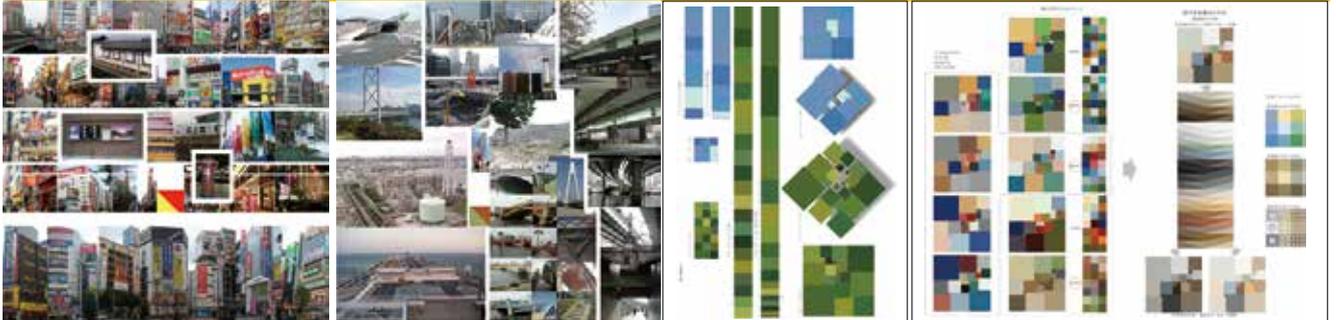
場づくり



物づくり



人づくり



建築・まちづくり工房

アトリエ



取締役 稲田信之

156-0043

東京都世田谷区松原2-26-13

TEL/FAX 03(3327)1515

bakubaku1515@nifty.com

<http://atelier-baku.com/index.html>



ユニバーサルデザインの

住宅計画

高齢者・医療福祉施設

まちづくり・再開発



EYE IWASAKI

レディオック エリア
LEDiOC AREA

クオリス

QUALLIS™

LEDのまぶしさを抑え、
『こちよい』景観を作る 新しいLED街路灯

風景を活かす

タイプD

風景を創る

タイプG

岩崎電気株式会社 社会システム部

<http://www.iwasaki.co.jp>

〒103-0002 東京都中央区日本橋馬喰町1-4-16 馬喰町第一ビルディング

TEL:03(5847)8628 FAX:03(5847)8645

社会調査

地域づくり・まちづくり

建築計画・建築設計

景観計画・ランドスケープ

水辺空間デザイン・街路空間デザイン

ソーシャルデザイン・コミュニティデザイン

エリアマネジメント・商店街活性化

観光振興計画・プロジェクト運営

地域資源・ブランド化コーディネート

低炭素地域づくり・再生可能エネルギー

市民参加型プロジェクト

株式会社 KITABA

札幌市北区北13条西3丁目2番1号

13条ビル2階 〒001-0013

TEL: 011-299-8805 FAX: 011-299-8990

URL: www.kitaba.co.jp



1



2



3



4



5



頼もしい、わが街へ。

防災力強化のための、コミュニティづくり。



K・O・T・O・B・U・K・I

株式会社コトブキ

〒105-0013 東京都港区浜松町 1-14-5 TEL : 0800-100-2620 www.townscape-net.jp



柏の葉キャンパス ツリーサークル



擬石車止め GK-503 置き式

サンエスは、「スピード」「センス」「サービス」を企業理念とし、「人と人」「人と自然」の心地よいコミュニケーションを実現する、都市空間のトータルプランナーです。

 株式会社サンエス

本社 〒207-0022 東京都東大和市桜が丘 4-322
東京営業所 TEL : 042-564-1021 FAX : 042-562-9347
北関東営業所 TEL : 0276-72-6528 FAX : 042-565-7239
埼玉営業所 TEL : 048-297-7881 FAX : 048-297-7880
神奈川営業所 TEL : 045-337-1108 FAX : 045-337-1110
千葉営業所 TEL : 043-266-7311 FAX : 043-266-5777
中部営業所 TEL : 052-369-2165 FAX : 052-369-2166
<http://www.san-esuinc.co.jp>





TOSHIKUKAN 株式会社 都市空間研究所

大阪本社

〒550-0005 大阪市西区西本町 1-9-18 古久根信濃橋ビル 6F

電話 06-6541-0958 FAX 06-6541-0923

e-mail t-kukan@lares.dti.ne.jp

URL <http://www.t-kukan.co.jp/>

地域の履歴と思いがこもった
景観まちづくりを目指して



岩村・富田地域絵図 (恵那市 B 全大)

株式会社
プランニングネットワーク

〒114-0012 東京都北区田端新町 3 丁目 14 番 6 号

TEL : 03 (3810) 9381 FAX : 03 (3810) 9384

URL : <http://www.pn-planet.co.jp>

Mind-J

未来の価値をつくる「共創 (Co-creation)」をプロデュース



代表 齊藤 浩治

CVS(国際バリュースペシャリスト) 米国 VE 協会認定
技術士(総合技術監理部門、建設部門)

〒171-0043

東京都豊島区要町 3-1-13-905

TEL: 03-5926-9390 FAX: 03-5926-9390

URL: <http://www.mind-jve.com>



防災型景観ポール

誘導誘導システム

GOOD DESIGN
AWARD 2014

日常時も非常時も機能する

避難誘導システムは、津波発生時に避難誘導サインや照明によって安全な避難場所まで誘導するシステムです。サインや照明などの機器を支える要となる支柱は熱押形鋼レール式ジョイント構造を持ち、災害に負けない「強靭さ」、機器を自由に取付けける「機能性」、すっきりとした「美しさ」を兼ね備えています。また、景観にマッチする3タイプのデザインバリエーションを用意。高い防災性能と景観性を両立し、日常時と非常時の両側面においてまちづくりを支えます。



STANDARD

FLAT

HYPOSTYLE

 ヨシモトポール株式会社 www.ypole.co.jp

〒100-0006 東京都千代田区有楽町 1-10-1 有楽町ビル7F TEL 03-3214-1552 FAX 03-3212-1751

都市のあかり、まちのあかり

淡路花博2015 夢舞台演出

印刷デザイン

リーフレット・冊子デザイン
版下作成・印刷代行



※JUDI・TDAの出版物DTP

webデザイン

HP企画・制作
HP開設コンサルティング
HP運用管理



※JUDI・TDAのHP・facebookの管理

PCコンサルティング

PC導入コンサルティング
ネットワーク構築・PC保守
カスタムPC販売



※オリジナル SERVER

データベース開発

業務支援DB制作 (Access)



※軽井沢リゾートホテル：顧客管理 DB

株式会社

アーバンプランニングネットワーク

Urban Planning Network Co.,Ltd.

東京都台東区駒形1-5-6 金井ビル3F

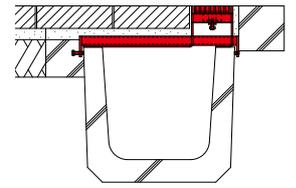
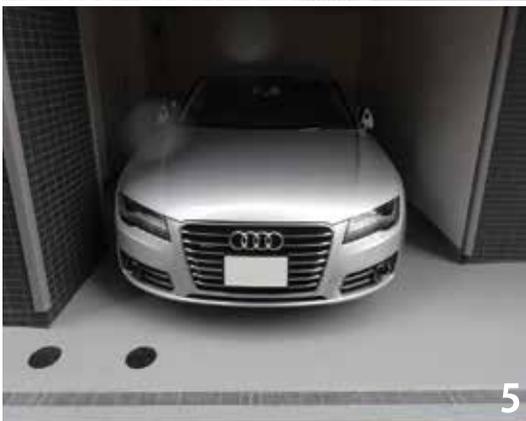
〒111-0043

TEL : 03-3847-3555

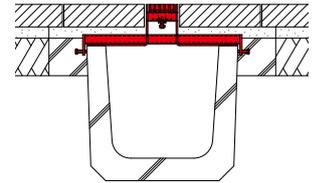
FAX : 03-3847-3375

e-mail : info@upn.jp

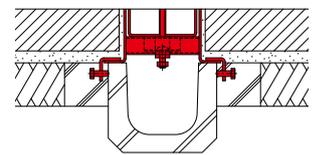
www.upn.jp



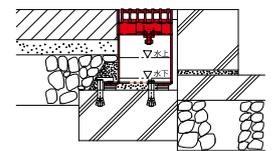
1.ボーダースリット



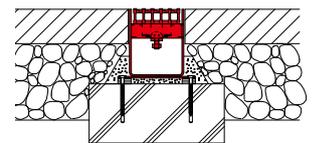
2.センタースリット



3.バーチカルスリット



4.スマートスリット

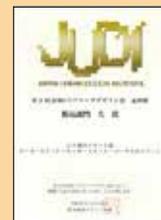


5.スマートトラフ

景観向上に最適なスリット型の排水みぞ蓋です。

都市環境デザイン会議 (JUDI) の主催で2014年10月18日に開催されました、2014都市環境デザインモニターメッセにおきまして、カネソウのU字溝用スリットみぞ蓋ボーダースリット・センタースリット・バーチカルスリットが、第2回JUDIパブリックデザイン賞の製品部門「大賞」を受賞いたしました。

製品自らが主張せず、必要な機能を果たしながら都市環境デザイン向上に寄与するというコンセプトが評価され、「大賞」を受賞することができました。ありがとうございました。



カネソウ株式会社

本社 三重県三重郡朝日町大字縄生 8 1 番地
〒510-8101 TEL 059-377-3232 FAX 059-377-3905

東京支店 東京都港区新橋六丁目9番5号 JBビルディング3F
〒105-0004 TEL 03-3433-6645 FAX 03-3433-6637

大阪営業所 大阪市中央区内本町一丁目1番6号 内本町B&Mビル6F
〒540-0026 TEL 06-6941-7045 FAX 06-6941-7054

仙台営業所 仙台市青葉区大町一丁目1番8号 第3青葉ビル9F
〒980-0804 TEL 022-214-8088 FAX 022-214-8089

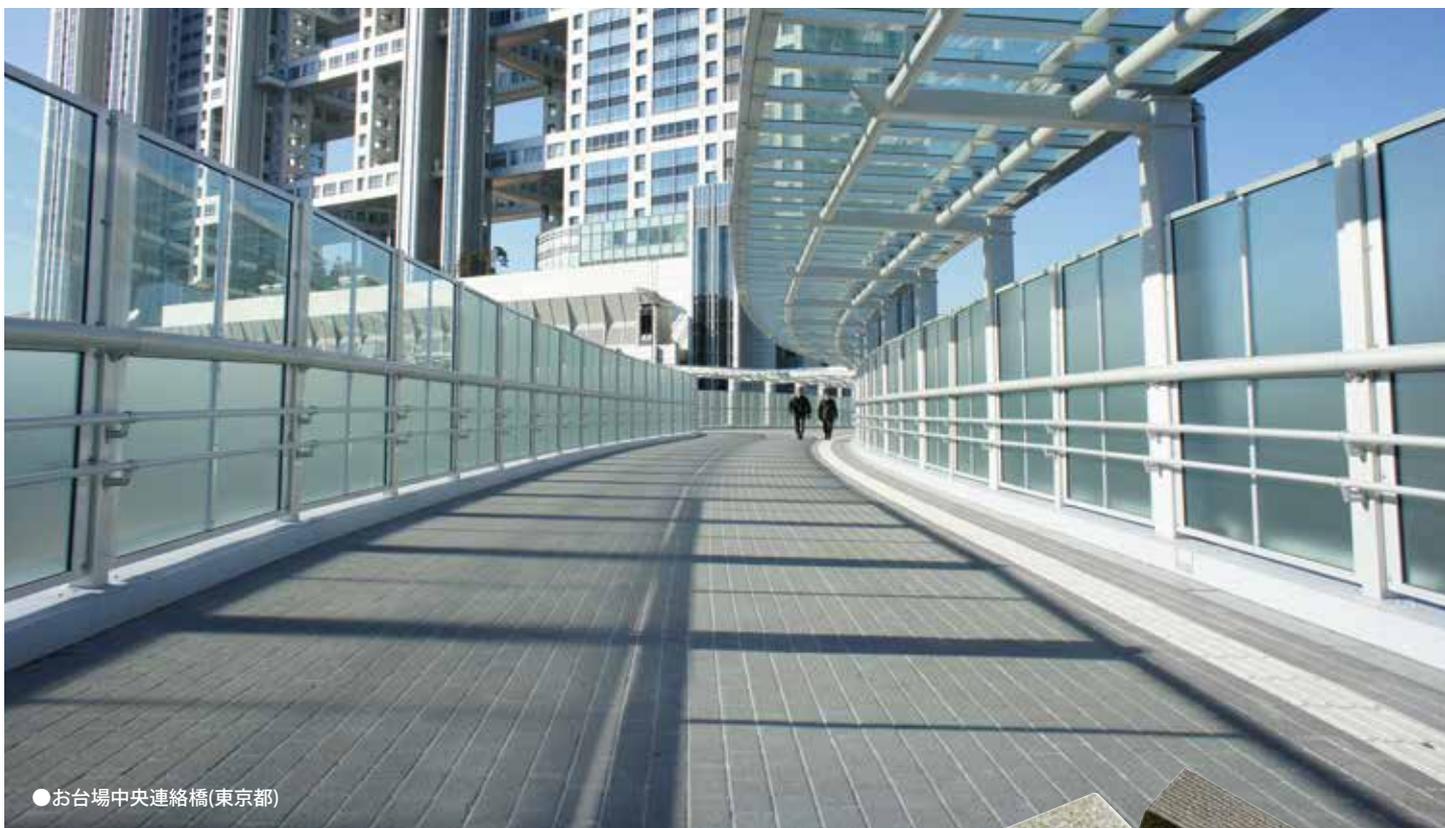
福岡営業所 福岡市博多区博多駅前四丁目8番15号 博多鳳城ビル6F
〒812-0011 TEL 092-432-2532 FAX 092-432-4976



●永田町国会議事堂周辺(東京都)



●君津駅北口(千葉県)



●お台場中央連絡橋(東京都)

遮熱ILB

Solar Heat-Blocking Interlocking Block

太陽光を反射して、路面温度を最大約15℃も低減します。
夏の日射しによる路面温度の上昇を抑えて、道路周辺
の環境を改善する舗装ブロックです。



太平洋プレコン工業株式会社

TAIHEIYO PRECAST CONCRETE INDUSTRY CO.,LTD.

東京支店 160-0022 東京都新宿区新宿5-13-9
太平洋不動産新宿ビル3F

TEL:03-3350-0681(代) / FAX:03-3352-0793



CG技術を通じてお客様のプレゼンテーション企画から 画像作成までトータルでお応えします。

プレゼンテーションは、あらゆる企画、開発、設計でますます重要となってきました。
ワンランク上のプレゼンテーションで効果的な印象を与えることがその後の展開を大きく左右します。
私たちは、お客様の想いを最大限伝えるために最新の技術開発、画像制作に取り組んでいます。
常に新鮮な表現技術で提供していくことが本当に生きたCG技術の活用と考えています。
すべてのスタッフが都市計画、建築、造園、土木分野で豊富な経験を持つレンダラーです。
当社は、お客様の想いを形にするため、最適なクォリティーと効果的なCG技術を提供してまいります。
また、お客様の要望を一つずつ応えていくことで成長していきたいと思っています。

株式会社 デジタル キアロ

Architectural Rendering Company

HEAD OFFICE 〒981-3125 宮城県仙台市泉区みずほ台 9-1-109
Tel: 022-346-8511 Fax: 022-346-8512
BRANCH OFFICE 〒111-0032 東京都台東区浅草 1-34-1 中川ビル 6F
Tel: 03-5806-4161 Fax: 03-5806-4162
SENDAI OFFICE 〒980-0014 宮城県仙台市青葉区本町 1-14-18
ライオンズプラザ本町ビル 501
Tel: 022-748-5763 Fax: 022-748-5764

E-Mail : digital-chiaro@digital-chiaro.co.jp
URL : <http://digital-chiaro.co.jp/>



第2回 JUDI パブリックデザイン賞
特別賞・シェルター [越谷型]



弊社設計・監理：越谷駅東口駅前広場



第2回 JUDI パブリックデザイン賞
ブロック賞・横断防止柵およびサポーター [越谷型]



第2回 JUDI パブリックデザイン賞
グッドエイジング賞・河津バガテル公園




一級建築士事務所
有限会社 **ユー・プラネット**
(日本 尤 浦 设计)
Riben You Pu Sheji

本社
〒111-0043 東京都台東区駒形1-5-6 金井ビル3F
TEL.03-3847-3555 / FAX.03-3847-3375
E-Mail. office@u-planet.jp
URL. http://www.u-planet.jp

上海事務所 (中国)
200233 上海市中山西路1800号 兆豐環球大廈24F-F2
TEL.+86-(0)21-6440-3061 / FAX.+86-(0)21-6440-3060

駅前広場・公園等を中心とした土木計画・設計・監理

弊社設計・監理：河津バガテル公園



編集後記

はじめに、前事業委員長であり都市環境デザイン会議設立当初から活躍され、JUDI を支えてこられた横川昇二さんが 2014 年 11 月 23 日に逝去された。事業委員会としては、本レポートに追悼ページを企画し、生前の偉業を讃えるとともに深く哀悼の意を表するものである。

2014 都市環境デザインモニターメッセも数えて 23 回目を迎える。事業委員会では都市景観の中でも特に景観材料や景観製品にスポットをあて、その質の向上を目指し、実際に製造されるメーカーの方々、計画者、設計者、デザイナー、発注する行政の方々が一体となって議論する場としてこの会を運営してきた。

今年はこの方針を強化し、実際に事業を行なう新たな活動体として、一般社団法人パブリックデザインコンソーシアムの設立を目指している。このためモニターメッセの中で、「公共空間のトータルデザインを目指して」をテーマにその活動イメージを提示するパネルディスカッションを行うとともに、パブリックデザインコンソーシアムの設立趣旨を説明、設立宣言を行なった。従来の景観や地域性などの問題からのデザインアプローチにとどまらず、価格や維持管理、製造施工技術からの視点を加え、デザイン力と技術力の融合による景観材料、景観製品の新たなあり方を議論できる有益な活動体としていきたい。

モニターメッセにおいては、きびしい社会経済情勢のなかであるにも関わらず、プレゼンテーションについては 6 社、ポスターセッションについては 5 社の参加をいただき、盛況なイベントとすることができた。関係各社のご理解とご協力に改めて深謝する次第である。

また、第 2 回 JUDI パブリックデザイン賞の表彰式が行なわれ、大賞をはじめ、新設のグッドエイジング賞まで各受賞者に賞状とトロフィが贈呈された。

昨年に続き国土交通省都市局公園緑地・景観課の石橋課長補佐にシンポジウムに参加いただき、国レベルでの景観行政のお話を伺った。今後も都市環境デザイン会議メンバーと、産官学の各分野の人々がひとつになって議論できる場として機能し、時代の要請に応える新たな潮流として社会に対する発言力を強化できるよう、今後も努力していく所存である。

最後に今回のモニターメッセに参加いただいた企業及び都市環境デザイン会議会員の皆様、そしてモニターメッセを企画・運営し、本冊子の編集を担った事業委員、事務局の中村さん、(株)アーバンプランニングネットワークの永山氏に感謝を申し上げたい。

都市環境デザイン会議・事業委員会

須田 武憲 / GK設計（事業委員長）
伊藤 登 / プランニングネットワーク
工藤 勉 / ヨシモトポール
栗原 裕 / ユー・プラネット
小早谷 信之 / 標プランニング
斉藤 浩治 / Mind-J
谷口 雅彦 / 都市環境研究所
富岡 仁計 / 住軽日軽エンジニアリング
中野 竜 / コトブキ
藤田 浩暢 / 日本興業
峰 朗展 / アーテック
三輪 強 / スリーリングス
茂手木 功 / 片平エンジニアリング
横川 昇二 / 東京工科大学

※本冊子とりまとめにあたり、資料作成にご協力頂いた各企業の皆様、また当日の議論のとりまとめを頂いた各メンテーターの皆様に感謝申し上げます。

JUDI 都市環境デザイン会議・モニターメッセ2014
公共空間のトータルデザインを目指して

2015年5月発行

編集・発行 都市環境デザイン会議・事業委員会
D T P (株)アーバンプランニングネットワーク
印刷・製本 (株)プリントパック

<http://www.judi.gr.jp>
